

単元構造図

単元名【 いにしへの心にふれる 】

教材名【 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から 】

【単元の目標】

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化に着目して読むことを通して、現代の人々との共通点や違いに気づき、古典の世界に親しむことができる。

【単元の言語活動】

「竹取物語」が1000年以上もの間、読み継がれてきた理由（魅力）について、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化に着目して、紹介文にまとめよう。

【教材の特徴】

有名な物語であるため生徒が親しみやすく、人間に内在する欲望、ずる賢さ、安直さなどを感じることができ、面白さを味わうことができる。

【既習事項】

登場人物の心情や言動を表す言葉に着目して、登場人物の心情の変化について、捉える。（シンシユン）

【生徒の実態】

- 「シンシユン」では、登場人物の心情を、描写を基に考えることができた。
- 読み取った登場人物の心情から、自分の考えをもったり共感したりすることが難しい。

【重点とする指導事項】

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。
〔思考力、判断力、表現力等〕
C(1)イ

【言語活動成立の要件】

- ア. 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化が描写を基に明らかになっている。
- イ. 作品に対する魅力がまとめられ、その根拠が述べられている。

【単元の流れ】

第1次 2時間

- ・学習の見通しをもち、古文の基本的な知識について学習する。
- ・教科書本文のおおまかな内容を把握する。

第2次 3時間

- ・登場人物の人物像を描写から捉える。
- ・場面の展開や登場人物の心情を描写から捉える。
- ・登場人物たちのものの見方や考え方を自分の経験と結び付けて考えることで、現代の私たちにも共感できる人々の感性や考え方、物語の魅力を捉える。

第3次 1時間

- ・「竹取物語」の魅力を紹介文にまとめ、班で交流する。

【単位時間の流れ】

第1次

- ①「竹取物語」が長い年月読み継がれてきた理由や魅力を見つけていくことを確認する。また、単元の出口にその魅力を紹介文としてまとめることも確認する。
古文と現代文を比較する中で歴史的仮名遣いや言葉の意味の違いなどについて学習する。
- ②現代語訳を基におおまかな内容を確認し、教科書の原文部分を音読する。

第2次

登場人物の人物像

- ③課題：「まことしやかに」物語る部分を探し、くらしの皇子がどのような人物か考えよう。
くらしの皇子が架空の冒険談を「まことしやかに」物語る理由を描写から考える活動を通して、くらしの皇子の人物像を捉える。

場面の展開 登場人物の心情

- ④課題：別れの場面から、かぐや姫の心情の変化を考えよう。
現代語訳を手掛かりにして、帝の人物像を捉え、相手に応じてかぐや姫の心情や行動がどう変化するかを捉える。

現代にもつながる ものの見方や考え方

- ⑤課題：登場人物に共感できるところはどこだろうか。
登場人物の設定・言動・心情から現代の私たちにも共感できるものの見方や考え方について自分の考えをもつ。

第3次

- ⑥描写を基に読み取ってきた「竹取物語」の魅力を紹介文にまとめる。また、互いの紹介文を読み、それぞれが感じた魅力から、語り継がれている理由を想像することで、古典に親しむ。

【評価の視点】

- 【知・技】 ② 古文を音読することを通して、歴史的仮名遣いや古文特有の言い回しに慣れ、古典の文章と現代の文章との違いを理解することができている。（発言・ワークシート）
- 【思・判・表】 ③④ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について、描写に根拠をもって捉えることができている。（交流の様子・ワークシート）
- 【態度】 ⑤ 登場人物の人物像について読み取ったことと自分の経験とを結び付けて、共感できるところを考えようとしている。（ワークシート）
- ⑥ 「竹取物語」の面白さを味わい、根拠を明確にして作品の魅力を伝え合おうとしている。（交流の様子・紹介文）

1 単元名

いにしえの心にふれる 「蓬莱の玉の枝 - 『竹取物語』から」

2 本時のねらい

くらもちの皇子が架空の冒険談を「まことしやかに」物語る理由を描写から考える活動を通して、くらもちの皇子の人物像を捉えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

資料の描写を根拠にして、新たな発見や認識ができるように自己内対話や話し合い活動を中心とする学びを行っている。

4 本時の展開案（3／6）

学習活動	指導・援助
つ か む 1. くらもちの皇子が語る部分を音読する。 ○デジタル教科書の範読に続いて、生徒が音読する。 2. 架空の冒険話を誰が誰に対して、どのように物語っているのかを確認する。 ・くらもちの皇子がかぐや姫に対して「まことしやかに」物語っている。 課題 「まことしやかに」物語る部分を探し、くらもちの皇子がどのような人物か考えよう。 3. 「まことしやかに」物語っている描写に線を引き、その理由について考える。 ・「さすがに恐ろしくおぼえて」や「二、三日ばかり、見歩くに」から、かぐや姫に初めて訪れた場所のように思わせるよう話した。 ・「金・銀・瑠璃色の水」から、情景を詳しく説明することで見てきたように話し、信じさせようとしている。 ・「いとわろかりしかども」から、謙遜して真実味を増そうとしている。 4. くらもちの皇子の人物像について考える。 ・「まことしやかに」架空の冒険話を物語るので、ずる賢い人だと思う。 ・たくさんの嘘をついたり、玉の枝を作ったりしてまで、かぐや姫と結婚したいと思っている。 5. 本時のまとめを書く。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・「まことしやかに」はどのような意味なのかを確かめ、くらもちの皇子がなぜ「まことしやかに」物語ったのか、そのように物語るくらもちの皇子はどのような人物なのかを描写を基に考えられるように設定する。 《学び合いの場のねらいについて》 ・生徒が自発的に自分の考えを深めていけるよう、教師側が時間を区切って交流させるのではなく、自己内対話、会話的話し合い、対話的話し合いを生徒が選択できるようにする。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・原文で捉えることが不得意な生徒に対しては、現代語訳を参考にし、どの描写が、「まことしやかに」物語っているのかを考えさせる。 ・現代語訳から内容を捉えた生徒に対しては、捉えた内容が原文のどこに当たるのかを考えさせる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・まとめには、抜き出した描写から分かる「まことしやかに」物語った理由とそこから分かるくらもちの皇子の人物像を書く。そうすることで、描写と人物像をつなぐことができるようにする。
ま と め る 《終末における生徒の姿》 くらもちの皇子は、「天人のよそほいしたる女」などさも見てきたように語って、蓬莱山に本当に行ったように思わせた。 架空の冒険話で信じ込ませようとした、ずる賢い人だと思う。	【思考・判断・表現】 描写を根拠にくらもちの皇子が架空の冒険話を「まことしやかに」物語る理由を考え、くらもちの皇子の人物像を捉えている。 （評価方法） ワークシート 評価規準

単元構造図

単元名【 いにしえの心にふれる 】

教材名【 蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から 】

【単元の目標】

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化に着目して読むことを通し、現代の人々との共通点や違いに気付き、古典の世界に親しむことができる。

【単元の言語活動】

「竹取物語」が 1000 年以上もの間、読み継がれてきた理由（魅力）について、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化に着目して、紹介文にまとめよう。

【教材の特徴】

場面の展開や登場人物の相互関係・心情の変化の面白さは、現代にも通じる感性・考え方が感じられる。

くらもちの皇子と帝の行動の誠実さは、描写を基に比較しやすい。

【既習事項】

登場人物の心情や言動を表す言葉に着目して、その背景にある登場人物の考え方について、自分の考えをもって話し合う。（シンシユン）

【生徒の実態】

- 「シンシユン」では、描写を基に登場人物の心情を捉えることができた。
- 捉えられた登場人物の思いや考えを基に、自分の考えをもつことが難しい。

【重点とする指導事項】

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。

〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）イ

【言語活動成立の要件】

- ア. 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化が描写を基に明らかになっている。
- イ. 作品に対する魅力がまとめられ、その根拠が述べられている。

【単元の流れ】

第 1 次 2 時間

- ・単元の見通しをもつ。
- ・作品全体のあらすじを捉える。
- ・古典の文章と現代の文章との違いを確かめる。

第 2 次 3 時間

- ・「竹取物語」の場面の展開や登場人物の人物像を捉えることを通して、場面設定や登場人物の魅力を感じる。
- ・登場人物の行動や考え方と自分の経験を結び付けて考えることで、現代にもつながる人々の感性や考え方に気付き、物語の魅力を感じる。

第 3 次 1 時間

- ・「竹取物語」が読み継がれてきた理由（魅力）を紹介文にまとめる。

【単位時間の流れ】

第 1 次

①「古典の世界」や出典から「竹取物語」が現存する日本最古の物語であるということ、現代まで広く読み継がれていることを押さえる。

単元末の活動で、1000 年以上もの間、読み継がれてきた「竹取物語」の魅力を紹介文にまとめるという見通しをもてるようにする。
古文を繰り返し音読したり、現代語訳を読んだりして、あらすじを捉える。

②音読をする際に必要となる文語のきまりを確認し、正確に音読できるようにする。
現代では意味が変わった言葉などに着目し、古典の文章と現代の文章の違いを確かめる。

第 2 次

場面の展開

③課題:「竹取物語」の場面設定の魅力を考えよう。

現代語訳を手掛かりにして、不思議な状況で子どもを授かるというストーリーの面白さや、かぐや姫が月に帰るという SF 的な展開に魅力を感じる。

人物像

④課題:くらもちの皇子と帝の人物像を捉え、二人の魅力を考えよう。

現代語訳を手掛かりにして、人物像を捉えたり、人物像に応じてかぐや姫等の心情や行動がどう変化するかを捉えたりすることで、二人の人物に魅力を感じる。

心情の変化

現代にも通じる感性・考え方

⑤課題:登場人物に共感できるところはどこだろうか。

捉えた人物像と自分の経験を結び付けて考えることで、現代の私たちにも共感できる感性や考え方について、自分の考えをもつ。
現代にも通じる登場人物の心情に魅力を感じる。

第 3 次

作品の魅力

⑥「竹取物語」が 1000 年以上もの間、読み継がれてきた理由（魅力）について、場面の展開や登場人物の設定、心情の変化に着目して紹介文にまとめる。

班で交流し、他者が感じた作品の様々な魅力に触れることで、古典の面白さを感じ、古典作品への興味を広げる。

【評価の視点】

【知・技】 ② 古文を音読することを通して、歴史的仮名遣いや古文特有の言い回しに慣れ、古典の文章と現代の文章との違いを理解することができている。（発言・ワークシート）

【思・判・表】 ③④ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化について、描写に根拠をもって捉えることができている。（交流の様子・ワークシート）

【態度】 ⑤ 登場人物の人物像について読み取ったことと自分の経験を結び付けて、共感できることを考えようとしている。（ワークシート）

⑥「竹取物語」の面白さを味わい、根拠を明確にして作品の魅力を伝え合おうとしている。（交流の様子・紹介文）

1 単元名

いにしへの心にふれる 「蓬莱の玉の枝—『竹取物語』から」

2 本時のねらい

くらもちの皇子の求婚場面や帝とかぐや姫のやりとりの場面を読むことを通して、くらもちの皇子や帝の人物像を描写に根拠をもって捉え、それぞれの人物の魅力を考えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

国語班による話し合いやスクランブル交流を行うことで、自己内対話で得られた認識や思考に深まりや広がりをもたせる。

4 本時の展開案（4／6）

学習活動	指導・援助
つ 1. 前時の学習を確認し、本時の課題をつかむ。 か ○「竹取物語」の登場人物には誰がいましたか。 む ・かぐや姫、竹取の翁、くらもちの皇子、帝。 ○くらもちの皇子や帝は求婚に失敗したけれど、それぞれどのような人物だったのかを捉えてみよう。そして、それぞれの人物の魅力を考えてみよう。 課題 くらもちの皇子と帝の人物像を捉え、二人の魅力を考えよう。 2. 人物像を描写から捉える。 人物を選ぶ→音読→自己内対話→国語班での話し合い 【くらもちの皇子】 ・「まことしやかに物語る」という部分から、蓬莱の玉の枝が偽物だとばれないようにしたずる賢い人物だと思う。 【帝】 ・「翁の家を守るようお命じになった」という部分から、かぐや姫に尽くした誠実な人物だと思う。 ・「火をつけて燃やすべきよし」と、かぐや姫に会えないのであれば、不死の薬など役に立たないと考え、かぐや姫思いな人物だと思う。 3. 人物像からそれぞれの人物の魅力を考え、スクランブル交流を行う。 ・くらもちの皇子は不誠実な対応を取ったことで、恥ずかしい思いをするというかつこ悪さが面白くて魅力的に感じる。 ・かぐや姫が別れの際に歌を送りたくなくらい誠実にやりとりした帝が魅力的に感じる。 ま 4. 本時の振り返りを行う。ペア交流→まとめを書く と め る 《終末における生徒の姿》 ・私は「まことしやかに物語る」という部分から、くらもちの皇子は蓬莱の玉の枝が偽物だとばれないようにしたずる賢い人物だと思った。けれど、どんな手段を使ってでも、欲しいものを手に入れたという気持ちは、共感できて魅力的だ。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・くらもちの皇子と帝がかぐや姫への求婚に失敗するに至る経緯について興味をもたせ、2人がかぐや姫に対してどのような行動を取ったのかに着目して、人物像を捉え、それぞれの人物の魅力に迫れるようにする。 《学び合いの場のねらいについて》 ・展開2では、国語班での話し合いを行い、様々な資料、描写から人物像に迫れるようにする。 ・展開3では、スクランブル交流を行い、他者が感じた人物の様々な魅力に触れる中で、自分が感じた魅力に深まりや広がりをもたせる。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・展開2では、生徒の実態に応じた指導・援助を行う。 A：複数の資料から人物像を捉えている。 →かぐや姫等の心情や行動の変化にも目を向けさせる。 B：原文や現代語訳から人物像を捉えている。 →便覧等とも関連させて考えられるように促す。 C：人物像を捉えることができない。 →登場人物の行動に着目させて、行動の誠実さを捉えられるようにする。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・本時の振り返り際には、ペアで登場人物の魅力を語らせることで、他者の感じた魅力と比べながら、自分が感じた登場人物の魅力を実感できるようにする。 【思考・判断・表現】 評価規準 くらもちの皇子や帝の人物像を描写に根拠をもって捉え、それぞれの人物の魅力を考えている。 （評価方法） 交流の様子、ワークシート

単元構造図

単元名【 いにしえの心を受け継ぐ 】

教材名【 夏草—「おくのほそ道」から 】

【単元の目標】

歴史的背景などに注意し、表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わうことができる。文章に表れている作者のものの見方や感じ方について考えることができる。

【単元の言語活動】

松尾芭蕉の俳諧にかけた生き様について、表現や内容を根拠にし、自分の考えをもって交流をしよう。

【教材の特徴】

江戸から奥州・北陸をまわり大垣に到着するまでの旅の記録であり、簡潔な漢文調で格調の高い文章である。旅を住み家とする生き方や旅立つことへの覚悟など芭蕉の生き方に向き合うことができる。

【既習事項】

詠まれた状況や歴史的背景を理解し、作者の心情や描かれた情景を読み取り、表現の効果などについて考えることができる。(君待つと)

【生徒の実態】

- どの単元においても、考えをもつための視点を示すことでそれらをヒントにしながら読み取ることができる。
- 全体の人物像や構成を掴むことはできても、一語一語にこだわって着目することが難しいため、原文を正しく理解する力が乏しい。

【重点とする指導事項】

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

【言語活動成立の条件】

- ア. 芭蕉の旅の中の俳諧を選び、歴史的背景や原文を根拠にしながら、芭蕉の心情を考えることができる。
- イ. 芭蕉の生き様＝「生きていく態度・在り方」と俳諧を結び付けて考えている。

【単元の流れ】

第1次 1時間	第2次 3時間	第3次 1時間
・学習の見通しをもつ。 ・前時までの学習の流れを想起することで、芭蕉の「旅」への思いや古人たちとのつながりをおおまかに理解することができる。	・「1」の紀行文の冒頭文を読み、現代の「旅」がもつ意味と比べながら、芭蕉の「旅」に対する思いを捉えることができる。 ・「2」高館では、歴史的背景を基に、藤原三代の栄華や義経の思いを読み、雄大な自然に対し、人間のはかなさを感じ涙した芭蕉の心情を考える。	・「2」光堂では、変わるものと変わらないものを前にした芭蕉の心情を想像する。 ・芭蕉の俳諧や紀行文から芭蕉の俳諧にかけた生き様を表現や内容を根拠にして自分の考えをまとめて交流することができる。

【単位時間の流れ】

第1次	第2次	第3次
①第1時には、前時までの「和歌の世界」や2年生の漢詩と関連させることで、芭蕉の旅への思いや古人(李白や杜甫、西行)、内容をおおまかに理解する。また、その中で本文に出てくる「平泉」という場所は、芭蕉にとって行きたいと強く思う場所であったということを抑えることで、今後の読み取りの見通しにつなげる。	「旅」に対する覚悟 ②課題：芭蕉はどのような思いで「旅」に出たのだろう。 現代を生きる私たちと芭蕉にとっての「旅」の違いや、古人への強い憧れをもって出発した覚悟を捉える。	高館での涙 ③課題：芭蕉は、なぜ高館で涙を流したのだろう。 芭蕉は、旅立ちの際の別れの寂しさと、病氣したときにも涙をしているが、なぜ、この高館でも涙を流したのかを捉える。 光堂での思い ④課題：光堂を見た芭蕉の心情を想像しよう。 前時は、雄大な自然に対して、人間の栄華のはかなさを感じ涙したのに対し、今もなお光り輝いて残る光堂を見た芭蕉の思いやものの捉え方を想像する。

【評価の視点】

- 【知・技】 ①作者や作品について興味をもち、歴史的背景を調べて古典を読むことができる。(発言内容・ワークシート)
- 【思・判・表】 ②③原文と現代語訳、歴史的背景などを結び付けて、芭蕉の「旅」に対する思いや高館での心情について考えることができる。(発言内容・ワークシート)
- ④前時の芭蕉の心情と比べながら、光堂を見た芭蕉の心情を想像することができる。(ワークシート)
- 【態度】 ⑤本文の表現や内容を根拠にして、芭蕉の俳諧にかけた生き様をまとめようとしている。(発言内容・ワークシート)

1 単元名

いにしえの心を受け継ぐ「夏草—『おくのほそ道』から」

2 本時のねらい

前時の歴史的背景を基にして、藤原三代の栄華盛衰に対する思いと義経への思いを重ねて読むことで、雄大な自然に対して、人間のはかなさを感じ、涙した芭蕉の心情について考えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

原文や歴史的背景を基にして考えたことを会話的話し合いによって、言葉による認識や思考に深まりや広がりをもたせる。

4 本時の展開案（3／5）

学習活動	指導・援助
つ か む 1. 前時の学習内容を振り返る。 ○本文「2」の高館の本文の訳を2回音読する。 1回目…教師・原文 生徒・原文 2回目…教師・原文 生徒・現代語訳 2. 現在の高館の写真を見せてどう思うかを問う。 ・大きい河があって、自然豊かな感じがする。 ・広大できれい。 3. 本時の課題を確認する。 課題 芭蕉は、なぜ高館で涙を流したのだろう。 4. 原文や現代語訳、便覧やネットに載っている歴史的背景から、芭蕉が涙を流した理由を考える。 【義経の悲劇】 ・高館は、義経の最期の地であったから。 ・義経はわずかな家臣を選び、最後の戦いまで忠義をつくして懸命に戦ったが破れてしまったことを感じているから。 ・泰衡に追われ自害をしてしまった悲劇を悲しんでいるから。 【藤原三代の栄枯盛衰】 ・藤原三代の栄華の跡が、草むらとなつてはかなく消え果ていたから。 ・自然は、今もなお雄大に残り続けているが、人間ははかなく消えていく無常観を実感したから。 【共通すること】 ・どの人物も、命を懸けながらも精一杯生きようとしていたことが芭蕉自身の身に染み、自分のしていることも古人たちのように消えていくのかもしれない…と実感したから。 ・忠義を貫いた歴史上の人たちを思った。 《終末における生徒の姿》 ・芭蕉は、高館の地で、雄大な自然は今もなお残っているのに対して、藤原三代の栄華がはかなく消え果ててしまっていることや、義経が命尽きるまで、家臣たちと戦い抜き、命を落としていったことを思い、精一杯生きた命が滅亡した無念さや人間のはかなさを感じ涙を流した。 5. 芭蕉の思いを想像して音読を行う。 深める まとめる	《焦点化された学習課題の設定について》 ・「なぜ」と課題化することで、芭蕉の心情を考えることと、涙の理由は感動という短絡的な思いではなく、原文や歴史的背景と結び付けられるようにする。 《学び合いの場のねらいについて》 ・単元を貫く言語活動として芭蕉の生き様のまとめを設定しているため、俳人に憧れて命懸けで旅にでた芭蕉が「なぜ」涙を流すのかを、生徒が追究したくなるように写真を紹介する。 ・歴史的背景ばかりに偏らないよう、原文や現代語訳と結び付けられるよう音読を丁寧に行う。 ・義経の悲劇や藤原三代の栄華などの視点をあえて示さず、生徒たちの意見でまとめられるよう、自由に会話的話し合いを行う。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・正しく原文と現代語訳が理解できるように、2回の音読をリードする。 ・生徒から出た意見に対して、「原文ではどこに書いてあるのか」や「今までの学習とどうつながられるか」と原文や既習事項に立ち返る声かけを行う。 ・思考が難しい生徒には、高館と義経のつながりに注目させる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・芭蕉が涙した理由を想像して、原文に立ち返り、音読を行うことで共感させる。 【思考・判断・表現】 前時の歴史的背景を基にして、藤原三代の栄枯盛衰に対する思いと義経への思いを重ねて読むことで、雄大な自然に対して、人間のはかなさを感じ、涙した芭蕉の心情について考えている。 (評価方法) 国語班での交流内容、ワークシート 評価 規 準

単元構造図

単元名【 いにしえの心を訪ねる 】 教材名【 仁和寺にある法師—「徒然草」から 】

【単元の目標】 「徒然草」の「仁和寺にある法師」やその他の章段と自分の知識や経験とを結び付けて考えをまとめ、兼好法師のものの見方・考え方について考えることができる。

【単元の言語活動】 自分の知識や経験と結び付けて「徒然草」を読み、兼好法師のものの見方・考え方を紹介するリーフレットを作ろう。

【教材の特徴】

「枕草子」と同じく古典の随筆文学である。リズム感に満ちた文章の中に無常観が漂い、人間の生き方に大きな示唆を与えている。全体的に簡潔な文章で読みやすく、作者である兼好法師の人間観察の鋭さが感じられる。

【既習事項】

現代語訳を読んで言葉の意味を確認し、情景を想像する。作者の季節に対する見方や感じ方について考える。自分の季節に対する見方や感じ方を考え、自分流枕草子として書きまとめる。（「枕草子」清少納言）

【生徒の実態】

- 古典を物語として楽しもうとする意欲がある。「枕草子」では、清少納言と自分の考えを比較し、現代を生きる自分の季節の捉え方について考えることができた。
- 原文の朗読や原文から内容理解することに苦手感を感じている生徒が多い。

【重点とする指導事項】

文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕
C(1)オ

【言語活動成立の要件】

- ア.「自分も」「自分だったら」と自分に問いかけながら読み、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめられている。
- イ. 現代語訳や語注を手掛かりに内容を把握し、兼好法師の意見が書かれた箇所を抜き出してものの見方・考え方を考えている。

【単元の流れ】

【第1次】1時間

- ・単元の見通しをもつ。
- ・作品の時代背景や作者・文学のジャンルを知る。
- ・冒頭部分（序文）の内容を捉える。

【第2次】3時間

- ・章段の主題と自分の経験を結び付けて考える。そこから兼好法師のものの見方・考え方を捉える。
- 「仁和寺」…説話部分と作者の意見部分。作者の捉え方。
- イチオシの話…「徒然草」の他の章段。経験と結び付ける。
- プラスαの話…兼好法師のものの見方・考え方を捉える。
- 参考：他の章段、「枕草子」、「平家物語」、「醒醉笑」等

【第3次】1時間

- ・兼好法師のものの見方・考え方についてのリーフレットを紹介し、班で語り合う。
- ・交流の中で新しく考えたことや深められたことを書きまとめる。

【単位時間の流れ】

第1次

①第1時では、「出典」や「冒頭部分（序文）」から、歴史的仮名遣い、三大随筆の一つであること、鎌倉時代後半から南北朝時代にかけてという価値観が大きく変化した時期の作品であること、兼好法師は官人であったが出家して自由な生活を送ったことをおさえる。

第2次

仁和寺にある法師

②課題：法師の勘違いを、兼好法師はどのように捉えているのだろう。
現代語訳や語注を手掛かりに内容把握し、兼好法師の意見部分を抜き出して捉える。

イチオシの話

③課題：「イチオシの話」を選び、自分の経験とつなげて紹介しよう。
「徒然草」の興味ある章段を選び、捉えた主題と自分の経験とをつなげて考える。

プラスαの話

④課題：兼好法師とはどのような人物だろう。
より考えを深めるために他の章段や他の作品を選んで読み、「徒然草」の魅力や兼好法師のものの見方・考え方を考える。

第3次

⑤作成したリーフレットをもとに、各自読み取った内容を班の中で語り合う。兼好法師の様々なものの見方・考え方に触れる中で、読書から人間観や人生観を考えたり、自分の経験に引き寄せて古典に親しむよさを実感したりする。

【評価の視点】

- 【知・技】 ②作品の構成を理解し、現代語訳や語注を手掛かりに作品の内容を理解している。（ワークシート）
- 【思・判・表】 ③兼好法師の意見について、知識や経験と結び付けて考えをまとめている。（ワークシート・国語班交流の様子）
- 【態度】 ④積極的に他の章段や他の古典作品を活用して兼好法師のものの見方・考え方を考えようとしている。（リーフレット）
- ⑤書きまとめた思いや考えを、進んで伝え合おうとしている。（交流の様子・振り返り）

1 単元名

いにしえの心を訪ねる「仁和寺にある法師—『徒然草』から」

2 本時のねらい

「徒然草」の章段を選んで読み、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

自己内対話によって生まれた認識や思考を、個に応じて対話的話し合いを自由に行うことで、より深い学びにつなげる。

4 本時の展開案（3／5）

学習活動		指導・援助																					
つかむ	1. 前時の学習内容を振り返り、本時の課題をつかむ。 ○「仁和寺にある法師」以外でも、面白い章段はありましたか。 ・「猫又」の話。「友とするに」の話。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・兼好法師独自の世界観や着眼点の鋭さに多角的に触れられるよう、教科書以外の章段を課題として設定する。																					
	課題 「イチオシの話」を選び、自分の経験とつなげて紹介しよう。	《学び合いの場のねらいについて》 ・単元を貫く言語活動としてリーフレットの作成を設定しているため、生徒の実態に応じて一人一人のゴールは大きく異なる。誰と何を交流するのかを、生徒自身が選択できるようにしたい。																					
	2. 「イチオシの話」を選んで読む。 ○なぜイチオシなのか、「自分だったら」「自分も同じように」と、自分の知識や経験を結び付けて紹介できるようにしよう。	・並行読書の足跡を残し、同じ章段を読んだ人が分かるようにする。 ・学校教育向け授業支援ソフトを活用して、各自の選択章段を共有する。 ・自己内対話→対話的話し合い→書きまとめの時間を区切らず、必要性を判断して交流する。																					
深める	<table><tr><td>易</td><td>第 52 段</td><td>仁和寺にある法師</td></tr><tr><td>↑</td><td>第 117 段</td><td>友とするに</td></tr><tr><td></td><td>第 89 段</td><td>猫又</td></tr><tr><td></td><td>第 92 段</td><td>ある人、弓射ること</td></tr><tr><td></td><td>第 109 段</td><td>高名の木登り</td></tr><tr><td>↓</td><td>第 150 段</td><td>能をつかんとする人</td></tr><tr><td>難</td><td>その他</td><td>各自並行読書より</td></tr></table>	易	第 52 段	仁和寺にある法師	↑	第 117 段	友とするに		第 89 段	猫又		第 92 段	ある人、弓射ること		第 109 段	高名の木登り	↓	第 150 段	能をつかんとする人	難	その他	各自並行読書より	《学びを促進させる教師の出場について》 ・学びの手順が視覚的に分かるよう板書する。 ・内容把握が苦手な生徒には個別に声をかけ、実態を把握し、援助を行う。 ・経験がすぐに思いつかない生徒に対し、いくつか例を示す。
	易	第 52 段	仁和寺にある法師																				
↑	第 117 段	友とするに																					
	第 89 段	猫又																					
	第 92 段	ある人、弓射ること																					
	第 109 段	高名の木登り																					
↓	第 150 段	能をつかんとする人																					
難	その他	各自並行読書より																					
まとめる	(1) 音読する。 (2) イチオシのポイントを考える。 (3) 自分の知識や体験とつなげる。 (4) リーフレットに書きまとめる。	・ワークシートは発表メモとして使用する。 ・リーフレットは完成させなくてよい。																					
	3. ペアで選んだ「イチオシの話」を紹介し合う。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・国語班で自分の「イチオシの話」を、知識や経験とつなげて紹介する中で、古典と現代の結びつきを実感できるようにする。																					
	《終末における生徒の姿》 ・私は「高名の木登り」がイチオシです。これは（あらすじ）という話です。その中でも、「あやまちは、安き所になりて」とあるところがいいと思いました。わたしは陸上部で、中体連の時に「最後の最後まで気を抜くな」と言われたことがあり、今の時代にも通じると思ったからです。	【思考・判断・表現】 「徒然草」の章段を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (評価方法) 国語班での紹介内容、ワークシート																					
	4. 振り返りを記入する。	評価規準																					

単元名

アフリカ州

—国際的な支援からの自立に向けて—

単元のねらい

アフリカ州が国際的な支援が必要な理由をモノカルチャー経済下での人々の生活を視点に、自然環境、文化、歴史、産業といったアフリカ州の特色をもとに根拠を明確にして主体的かつ多面的・多角的に考察し、表現することができる。

単元学習前の生徒の認識

単元「世界の姿」で、アフリカ州には植民地だった影響で緯線や経線を利用して直線的に引いた国境線が多いということは学習した。アジア州は急速な経済成長が進み、ヨーロッパ州は統合が進んでいるが、様々な課題もある。アフリカ州はどのような特色をもった地域なのだろうか。

第1時 アフリカ州をながめて①（知・主）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

アフリカ州は、どのような特色をもった地域なのだろうか。

◎アフリカ州について、地形や気候を視点に特色を調べる活動を通して、地域的特色を理解し、単元の見通しをもつことができる。

☆サバナ ☆サハラ砂漠 ☆オイル川

アフリカ州の北部にはサハラ砂漠があり、乾燥帯の地域が多い。また、赤道付近は熱帯が広がっている。アフリカ州の国々は平均寿命が短いため、貧しい国が多そうだ。実際に他国が支援をしている例もある。なぜ国際的な支援が必要なのだろうか。

第2時 アフリカ州をながめて②（知）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

アフリカ州の文化、歴史にはどのような特色があるのだろうか。

◎アフリカ州の文化、歴史について調べる活動を通して、植民地だったことを根拠にその特色を理解することができる。

☆植民地 ☆公用語

サハラ砂漠やその北ではイスラム教が信仰されているのに対し、サハラ砂漠より南では、イスラム教以外にもキリスト教が信仰されているため生活が異なる。アフリカ州の国々の多くはかつてヨーロッパの植民地とされていた。強制的に国境を決められたため、多くの民族が同じ国で生活することになり、民族間の対立が発生している。

第3時 アフリカの産業と新たな開発①（知）＜空間的相互作用、地域の傾向＞

アフリカ州では、どのような工業が展開されているのだろうか。

◎アフリカ州の工業の特色を、鉱産資源の産出量と工業製品の輸出量を関連付けて、資料から読み取り、理解することができる。

☆希少金属（レアメタル）

アフリカ州はダイヤモンド、レアメタルなどの鉱産資源が豊富である。レアメタルは電子機器を製造するのに欠かせない。また、北部を中心に石油や天然ガスが産出され、工業では欠かすことができないものである。しかし、電子機器の輸出量は少なく、鉱産資源の輸出量が多い。植民地時代の名残により、鉱産資源を加工する技術が発達していないんだ。

第4時 アフリカの産業と新たな開発②（知・思）＜人間と自然の相互依存関係、地域の傾向＞

アフリカ州では、どのような農業が展開されているのだろうか。

◎アフリカ州の農業の特色を、植民地の分布と関わらせて資料から読み取り、モノカルチャー経済の要因を考えることができる。

☆プランテーション ☆焼畑 ☆遊牧 ☆モノカルチャー経済

アフリカ州では、伝統的に焼畑を行っている。乾燥帯の地域では、遊牧も行われている。熱帯の地域では、カカオや綿花など特定の農作物だけを栽培し、外国に輸出をするプランテーション農業を行っている。アフリカの経済は特定のものに頼るモノカルチャー経済だが、ヨーロッパの植民地だったことが関係しているとわかった。

第5時 アフリカの産業と課題《本時》（思）＜場所、空間的相互作用、人間と自然の相互依存関係、地域の傾向＞

ガーナは、カカオ豆の生産が盛んなのになぜ自国でチョコレートを生産していないのだろうか。

◎ガーナのチョコレート生産が進まない要因について、モノカルチャー経済とアフリカの課題や特色を関連付けて考え、まとめることができる。

☆スラム

ガーナは、貧困のため、教育が進んでおらず、インフラも不十分である。したがって工場を建てることができず、工業化が進まない。そもそも、先進国が利益を得るために安価でアフリカの国々に原料の生産、輸出を依頼していることが問題だ。これまでの授業で、近年工業化が進んでいる他地域もかつては同じような状況だったと学んだ。アフリカ州は教育やインフラ、治安などの社会的条件によって工業化が進みにくいのではないかな。

第6時 まとめの学習 アフリカの課題と展望（知・思）＜空間的相互作用、人間と自然の相互依存関係、地域の傾向＞

アフリカ州の発展に向けて、どのような支援が行われているのだろうか。

◎アフリカ州の発展に向けて行われている支援を資料から読み取り、支援からの自立が必要だということを自分なりにまとめることができる。

☆アフリカ連合(AU) ☆非政府組織(NGO) ☆フェアトレード

アフリカ州では、貧困の問題を解消するために、NGOが学校を建設したり、工場を建設したりしている。しかし、最も大切なのは、モノカルチャー経済から脱却することだ。これができないとアフリカの国々は自立できない。アフリカの国々が自分の地域で生産、加工できるようにしていかなければいけない。そのために継続的な支援と先進国との関係の改善が必要だ。自立に向けてできることをしていきたい。

単元学習後の生徒の意識

アフリカ州は熱帯や乾燥帯が広がり、気候に適した農業が行われている。植民地時代、特定の農作物だけを栽培し、外国に輸出するプランテーション農業が行われ、また、鉱産資源も開発され、主な輸出品となった。現在も続いており、アフリカの国々は数少ない種類の農作物や鉱産資源を輸出するモノカルチャー経済で成り立っている。教育やインフラなどに問題があり、貧困が広がっているために国際的な支援が必要だ。支援を継続することで、モノカルチャー経済から脱却し、アフリカが自立できるようにしなければならない。

1 単元名

アフリカ州—国際的な支援からの自立に向けて—

2 本時のねらい

ガーナのチョコレート生産が進まない要因について、モノカルチャー経済とアフリカの課題や特色を関連付けて考え、まとめることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

ガーナのチョコレート生産が進まない要因を資料から複数の視点で追究するとともに、前時までに学習したアフリカ州や他地域の特色と関連付けて考察する。

4 本時の展開案（5／6）

学習活動		指導・援助	
つかむ	1. アフリカの農作物の分布、ガーナのカカオ豆に関する資料から本時の課題を設定する。 ・カカオ豆の生産量の1位、2位はアフリカの国だ。 ・チョコレートの生産量は、ガーナは少ない。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・アフリカの農作物の分布とカカオ豆の国別生産量を示すことで既習事項とのつながりやガーナのカカオ豆の生産の多さを意識させる。 ・カカオ豆の生産ランキングとチョコレートの生産ランキングを比較することで生徒に疑問をもたせ、課題につなげる。	
	課題 ガーナはカカオ豆の生産が盛んなのになぜ自国でチョコレートを生産していないのだろうか。		
	2. 課題に対しての予想を立て、交流する。 ・工場が少なく、技術も発達していないから。	《学び合いの場のねらいについて》 ・活動3（追究）では、個人追究を基本としながらも小集団で追究を行うことで個の認識に合わせ、複数の視点で追究させる。 ・まとめを小集団で交流させることで追究した結果の変容を自覚させ、まとめを見直し、さらに複数の視点でまとめさせる。	
	3. 資料をもとに、課題を追究し、全体で交流する。 【地理的要因】気候の影響を受けやすく、アフリカでチョコレートが消費されることが少ない。		
深める	【歴史的背景】 ・植民地の名残により、安価で生産、輸出をしている。紛争も多い。	【インフラ】 ・停電が多く工場を動かせられない。道路が舗装されていない。	【教育】 ・子どもが労働しているため教育を受けられない。
	工業化が進まない。外国企業も進出しにくい。		
	4. ガーナのチョコレート生産が進まない要因についてより理解を深める。 ・今は工業化が進んでいる他地域でも、かつてはアフリカ州と似たような状況があった。 ・教育やインフラなど外国企業が進出しにくいアフリカ州の特色が要因ではないか。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・机間指導では、個の実態に応じた発問をしたり、視点を示したりすることで根拠を明確にして考えを深めさせる。 ・活動3（交流）では、様々な要因の関連性を示すために構造的な板書を行う。 ・活動4では、これまでに学習した他地域の特色とアフリカ州の特色を関連付けて考えさせることでガーナのチョコレート生産が進まない要因をより深く理解させる。	
まとめる	5. 予想と比べてまとめを書き、小集団で交流する。 《終末における生徒の姿》 ・ガーナは、貧困のため、教育が進んでおらず、インフラも不十分である。したがって工場を建てることができず、工業化が進まない。そもそも、かつて植民地だった影響もあり、先進国が利益を得るために安価でアフリカの国々に原料の生産、輸出を依頼していることが問題だ。他地域とアフリカ州を比べると教育やインフラ、治安などの社会的条件の違いによってアフリカ州の方が、工業化が進みにくいのではないか。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・予想からの変化を、多面的な視点から考え、また、本時での考えの変化を実感させるために、ICTを活用してまとめたのちに、小集団で交流させる。	
		評価規準 【思考・判断・表現】 ガーナのチョコレート生産が進まない要因について、モノカルチャー経済とアフリカの課題や特色を関連付けて考え、ノートやタブレットにまとめている。 (評価方法) ノート・タブレットへの記述内容、発言の内容	

単元名

地方自治と私たち

単元のねらい

「自分の住んでいるまちをもっと住みやすくするためには、どうすればよいか」を考えることを通して、市には人口や財政といった課題があることと、住民の福祉の向上には、住民の意思の反映が必要であることに気づき、一人一人が主権者として地域の政治に参加しようと考えることができる。

単元学習前の生徒の認識

地方の政治は、国の政治に比べて身近であるはずだけど、あまり詳しく知らない。前単元で学んだ国の政治のしくみと比べてどんな特色や違いがあるのだろう。また、地方自治では、自分たちにどのようなことができるのだろう。

第1時 私たちの生活と地方自治（知・主）

どのような瑞穂市ならみんなが住み続けたいだろうか。

◎「もっと住み続けたいな瑞穂市」にするためにどうすればよいか考えることを通して、自分たちの生活と関わらせて考え、単元を貫く課題を設定し、意欲的に追究することができる。

☆地方公共団体 ☆地方自治 ☆民主主義の学校 ☆地方分権

私たちの「こんな瑞穂市なら住み続けたい」という意見の他にも、地域の人の意見や要望は様々だった。そのような意見を反映させるために、地方公共団体は地方自治を行い、民主主義の原理を大切にしながら、地域を運営している。

第2時 地方自治の仕組み（知）

◎地方自治の仕組みの資料を読み取る活動を通して、地方議会の制定する条例や、二元代表制の仕組みがあること、住民に、直接請求権を認めていることに気づき、地方公共団体の政治を理解することができる。

☆地方議会 ☆条例 ☆市長 ☆二元代表制
☆直接請求権

地方自治はどのような仕組みで行われているのだろう。

地方公共団体には、国の政治と同じように、地方議会が置かれ、条例を定めている。また、国の仕組みとは違い、二元代表制がとられており、住民には直接請求権が認められ、住民の意思が強く反映される仕組みとなっていることが分かった。

第3時 地方公共団体の課題（知）

◎地方公共団体の財政についての資料を読み取る活動を通して、お金がどのように使われ、財源がどのように確保されているかに気づき、財政上の課題やその解決方法を理解することができる。

☆地方財源 ☆歳入 ☆歳出 ☆地方税
☆地方交付税交付金 ☆国庫支出金 ☆地方債

地方公共団体は財源をどのように確保しているのだろう。

自分たちの収めている税金が地方公共団体の活動を支えていることが分かった。しかし、自主財源だけでは足りないため、国からの依存財源に頼っていることが分かった。事業を見直したり、平成の大合併を行ったりして、財源の確保に努めていることが分かった。

第4時 瑞穂市の財政（知）《本時》

◎瑞穂市の統計資料を調べたり、他の地方公共団体の財政の特徴と比較したりする活動を通して、瑞穂市の財政の特徴を理解することができる。

瑞穂市の財政はどのような特徴があるのだろう。

瑞穂市は岐阜県の他の市に比べて、人口が増加していることが分かった。そのため、歳入は安定している。しかし、これからは少子高齢化によって人口が減少していく予想が立てられていることや、住民の様々な声に応えるために、歳出が増えていきそうだ。瑞穂市は、歳入を増やすための努力をしていることが瑞穂市役所の職員の話聞いて分かった。

第5時 瑞穂市の政策と私たち（知・思）

◎みずほバスの運営が瑞穂市民の税金によって運営されている理由を多様な立場、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

なぜ瑞穂市は9千万円もの事業費を使ってみずほバスを運営しているのだろう。

みずほバスは交通空白地帯を解消し、交通弱者を含めた瑞穂市民の移動を支えるため、また交通渋滞の解消や環境負荷を軽減するために瑞穂市民の税金や岐阜県からの補助金を使って運営していることが分かった。瑞穂市は、市民の意見を取り入れて、路線の再編をするなど誰にとっても住みよいまちにするため努力しているんだな。

第6時 瑞穂市の政策と私たち（思）

◎みずほバスについて、多様な立場、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、みずほバス政策の在り方について考えることができる。

瑞穂市民として、今後のみずほバスの在り方を考えよう。

今後、人口が徐々に減少し、高齢化が進んでいく瑞穂市にとって、みずほバスは必要だ。しかし、現在の利用状況や市民の利用意向をみると、利用者の少ない路線があったり、市民が希望する時間帯の便がなかったりするなど課題があることが分かった。誰もが暮らしやすい瑞穂市にするために、高齢者や通勤通学で利用する人、買い物に利用する人等、様々な人が利用しやすいよう改善していく必要があると思う。瑞穂市民として、こうした地域の問題に関心をもっていきたい。

単元学習後の生徒の意識

地方公共団体には、住民の意思を反映することができる仕組みが整っていることが分かった。今後、瑞穂市が住みよいまちになっていくためには、私たち一人一人が意見をもって、地方公共団体の政治に積極的に関わっていく必要があると感じた。

私はこれまで、地域の課題についてあまり考えず、自分の意見が反映されるとも思っていなかった。これからは、自分にできる範囲で政治に参加して、瑞穂市をさらに住みよいまちにしていきたい。

瑞穂市をもっと住み続けたいと思えるまちにするため、私たちに何ができるだろう。

1 単元名

地方自治と私たち

2 本時のねらい

瑞穂市の統計資料を調べたり、他の地方公共団体の財政の特徴と比較したりする活動を通して、瑞穂市の財政の特徴を理解することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

他の地方公共団体の財政と瑞穂市の財政を比較することを通して、共通点、相違点を見出し、瑞穂市の財政の特徴を捉える。

4 本時の展開案（4／6）

学習活動		指導・援助
つかむ	1. 前時を振り返り、課題を設定する。 地方公共団体は、人口減少にともなって収入が減ってしまうと学習したけれど、瑞穂市はどうなっているのだろう。 課題 瑞穂市の財政はどのような特徴があるのだろうか。	《焦点化された学習課題の設定について》 自分たちの住んでいる瑞穂市に焦点を当てることで、身近な地方公共団体が、どのような活動を行い、財政はどのようになっているのかなど、課題意識をもつことができるようにする。
	2. 既習内容や資料をもとに課題を追究し交流する。 歳入 - 瑞穂市は岐阜県の他の市に比べて、人口が増加しているため、現在の財政は安定している。 - ふるさと納税の税収が増えて、貴重な財源となっている。 - 大きな事業には借金をしている。 歳出 - JRの拠点化や瑞穂市役所の新庁舎の建設、上下水道の整備に多額のお金をかけている。	《学び合いの場のねらいについて》 活動2（交流）では、財政の課題について、瑞穂市がどのように取り組んでいるか、様々な視点から読み取ることができるように、グループで話し合わせる。（全体追究）
	課題 - 新たな財源の確保をしなければならない。 - 借金に頼らざるを得ないが、後の世代に負担を残さないようにしなければならない。 - 予算編成の段階で、不要な事業を無くしていかなければならない。	《学びを促進させる教師の出場について》 - 瑞穂市の財政の特徴を捉えやすくするために、資料追究の視点を提示する。 - 瑞穂市と他の市が比較しやすくなるように、構造的な板書を心掛ける。
	3. 瑞穂市の財政の現状と課題について瑞穂市役所の職員の話（動画）を聞き、瑞穂市の財政について理解を深める。 4. 本時のまとめを書く。 《終末における生徒の姿》 瑞穂市について調べたら、岐阜県の他の市に比べて、人口が増加していることが分かった。そのため、歳入は安定している。しかし、これからは少子高齢化によって人口が減少していく予想が立てられていることや、住民の様々な声に応えるために、歳出が増えていきそうだ。瑞穂市は、歳入を増やすための努力をしていることが瑞穂市役所の方の話を聞いて分かった。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 瑞穂市役所の職員の話を聞いた後に、まとめを書いて交流させることで、より理解が深まったと感じられるようにする。
深める		【知識・技能】 瑞穂市の統計資料を調べたり、他の地方公共団体の財政の特徴と比較したりして、瑞穂市の財政の特徴を理解している。
まとめる		評価規準 （評価方法）発言内容、プリント・ノートへの記述

単元名

近畿地方

—都市・農村の変化と人々の暮らし—

単元のねらい

近畿地方の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究する中で、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目し、そこで見られる課題を主体的かつ多面的・多角的に考察し、表現することができる。

単元学習前の生徒の認識

近畿地方といえば、歴史的な町並みが有名な。小学校の修学旅行でも京都・奈良に行っただけ、世界遺産にもなっている寺社が特徴的だ。大阪は「天下の台所」とも呼ばれていた歴史がある地域だね。今でも、その名残があるけど、どのような歴史の中で、近畿地方特有の生活や文化が築き上げられてきたのだろう。

第1時 近畿地方をながめて（知・主）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方について、地形や気候、人口を視点に特色を調べる活動を通して、近畿地方の地域的特色を理解することができる。

近畿地方は、どのような地域なのだろうか。

☆リアス海岸 ☆紀伊山地

近畿地方の北部にあるリアス海岸である若狭湾は、冬は北西からの季節風の影響で降水量が多くなる。南部は暖流である黒潮の影響で温暖で、夏の降水量が多くなっている。また、大阪や京都、神戸など中央部の沿岸部や盆地・平野に人口が集中している。

近畿地方では、なぜ都市や農村の姿が変化してきたのだろうか。

第2時 都市の開発と歴史的町並み（思）＜場所、地域の傾向＞《本時》

◎チェーン店であっても、京都では看板が目立たないように作られている理由を、様々な視点・立場から考察し、メリット・デメリットをまとめ、これからの京都の都市開発を考えることができる。

同じチェーン店なのに、全国と京都ではなぜ看板や外装が異なるのだろうか。

☆歴史的な町並み

京都市では、歴史的な景観を大切にしようと、条例も整備され、景観を守っている。そうすることで、観光客が来ることになり、経済面でのメリットもある。一方で、自由に建物が建てられないなど住んでいる人にとっての不都合もある。

第3時 大都市圏の形成と都市の産業（知）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方の大都市圏の成り立ちや大阪湾岸の工業の特色を複数の資料から読み取る活動を通して、都市の成り立ちや阪神工業地帯の特色を理解することができる。

大阪大都市圏はどのように形作られたのだろうか。

☆大阪大都市圏 ☆阪神工業地帯 ☆再開発

近畿地方では、大阪大都市圏が形成され、郊外の住民が行き来するために私鉄等を多く利用している。また、工業も発展を続け、機械や化学の割合が高くなっている。大阪市では、再開発を進め、テーマパークの誘致や万博の開催を予定している。

第4時 ニュータウンの建設と都市の開発（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞

◎都市開発が行われたことによる都市の変化を資料から読み取る活動を通して、人々の暮らしの変化を、メリット・デメリットにまとめることができる。

☆ニュータウン ☆うめ立て ☆ターミナル駅 ☆再開発

都市開発が行われたことにより、人々の暮らしはどのように変化したのだろう。

都市開発が行われ、人々の暮らしは豊かになった反面、周りの地域の過疎化や交通渋滞などが課題としてあり、メリットやデメリットがあることがわかった。では、農村では、この暮らしの変化に対して、どのような対策を行っているのだろう。

第5時 変化する農村の暮らし（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞

◎都市開発が行われたことによる農村の変化を資料から読み取る活動を通して、農村にすむ人々の暮らしの変化を、メリット・デメリットにまとめることができる。

☆過疎化

都市開発が行われたことにより、農村の人々の暮らしはどのように変化したのだろう。

都市開発が行われたことにより、農村では過疎化が進んでしまった。そのため、田植え体験を行って村の活性化を図ったり、地域ブランドを立ち上げて地域の活性化を図ったりして、農村を盛り立てようとしていることがわかった。

第6時 近畿地方の学習のまとめ（思・知）＜地域の傾向＞

近畿地方の地域的特色をふまえ、「移りゆく都市や農村の実態」をまとめよう。

◎持続可能な社会の実現を観点に、近畿地方の地域的特色と都市や農村の課題や変化とを関連させ、自分なりの表現でまとめのレポートを作成することができる。

都市開発によって、鉄道網を中心とした都市圏が広がり大阪大都市圏を形成してきた。一方で、ニュータウンの老朽化や少子高齢化や山間部や離島の過疎化が課題となっている。都市部では再開発を進めたり、農村部では特色を生かした取り組みを行ったりしている。

単元学習後の生徒の意識

近畿地方では、歴史的背景などから人々の生活への配慮が続いてきた。しかし、産業の変化や経済活動の変化にともなって、人口集中や高齢化・過疎化の進行など、様々な問題が続いてきた。都市部では、人口が集中することで住宅不足になり、農村部では過疎化が進み、限界集落も増えてきている。このように都市部と農村部では大きく落差が出てきてしまった。今後は、都市部では再開発、農村部では地域の活性化など、その地域の特色を生かした取り組みが必要になってくると思う。

1 単元名

近畿地方 一都市・農村の変化と人々の暮らしー

2 本時のねらい

チェーン店であっても、京都では看板が目立たないように作られている理由を、様々な視点・立場から考察し、メリット・デメリットをまとめ、これからの京都の都市開発を考えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

条例で規制してでも歴史的な町並みを守ろうとするメリットとデメリットを、立場の違いを明確に、比較、関連付けながら、京都の都市開発を自分なりに考える。

4 本時の展開案（2／6）

	学習活動	指導・援助
つ か む	1. 写真から、本時の課題を設定する。 ・同じチェーン店の看板なのに、京都の看板は白地が多くなるようにしてある。 ・見慣れたコンビニで色使いは同じなんだけど、どこか雰囲気が違うな。 ・日本家屋のような格子や瓦が使われている。 課題 同じチェーン店なのに、全国と京都ではなぜ看板や外装が異なるのだろうか。 2. 資料をもとに、課題を追究し、交流する。 《 経済効果 》 ・京都観光で感動したものとして「景観の素晴らしさ」を挙げた観光客が多い。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・同じチェーン店でも、全国と京都で看板や外装が異なっていることを、視覚的に提示することで疑問をもたせ、課題意識をもたせる。
	歴史的な景観を守る 【 企業 】 ○京都ならではのデザインなど、工夫次第で人を惹きつけることはできる。 ●チェーン店らしさが失われたり、他の地域と異なることで、特別な費用がかかったりする。 【 行政 】 ○観光客が増え、観光消費額が増えることは地域経済にとってプラスとなる。 ●看板撤去や改修の費用に対する補助金など、財政への影響もある。 【 住民 】 ○条例で規制することで、歴史的な景観をみんなで大切にしていきたい。 ●条例で規制することで、自由に建物を建築することができず、自由が奪われている。	《学び合いの場のねらいについて》 ・活動2（追究）では、条例を基本資料とし、歴史的な景観を守る意義を、立場の違いを意識して考えさせることで、立場の違いによる考え方の違い、立場を越えた共通の思いを明らかにできるように追究させる。 ・活動2（交流）では、看板や外装が異なる理由を、立場の違いを明確に、プラス面とマイナス面を整理していくことで、立場による見方・考え方の違いに気付かせる。 ・活動3では、立場による見方・考え方の違いを明らかにした上で、建物の高さ規制の緩和のニュースをどう捉えるか、自分の考えをまとめ、交流することで、これからの京都の都市開発について考えさせる。
	3. 2023年4月から京都市の一部の地域で、建物の高さ規制が緩和されたことをどのように捉えるか、自分の考えを書き、交流する。 《終末における生徒の姿》 ・京都市では、歴史的な景観を大切にしようと、条例を整備している。景観を守ることで、観光客が増加するなど、経済面でのメリットがある。一方で、自由に建物が建てられないなど住んでいる人にとってデメリットもある。経済面でのメリットと居住することへのデメリットのバランスをとることで、保全と開発の両方を進めていくことが大切だと思う。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・活動2では、机間指導において、複数の資料を関連付けて考えたり、1年次の学習（歴史的な分野）を想起してまとめたりしている生徒を認め、その後の交流において意図的に指名し、その学び方を全体に広げる。 ・活動2では、立場の違い・プラス面・マイナス面を整理して板書に位置付ける。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・まとめを交流することで、自らの学びに自信をもたせるとともに、仲間のまとめ（まとめ方）からも学ばせていく。
深 め る		
ま と め る		【思考・判断・表現】 評価 規 準 京都では看板が目立たないように作られている理由を、様々な視点・立場から考察し、メリット・デメリットをまとめ、これからの京都の都市開発を考えている。 （評価方法）ノートの記述、発言の内容

単元名

地方自治と私たち

単元のねらい

「自分の住んでいるまちをもっと住み続けたいと思えるまちにするためには、どうすればよいか」を考えることを通して、市には人口や財政といった課題があることと、住民の福祉の向上には、住民の意思の反映が必要であることに気づき、一人一人が主権者として地域の政治に参加しようと思えることができる。

単元学習前の生徒の認識

地方の政治は、国の政治に比べて身近であるはずだけど、あまり詳しく知らない。前単元で学んだ国の政治のしくみと比べてどんな特色や違いがあるのだろう。また、地方自治では、自分たちにどのようなことができるのだろう。

第1時 私たちの生活と地方自治（知・主）

どのような瑞穂市ならみんなが住み続けたいだろうか。

◎「もっと住み続けたいくなる瑞穂市」にするためにどうすればよいか考えることを通して、自分たちの生活と関わらせて考え、単元を貫く課題を設定し、意欲的に追究することができる。

☆地方公共団体 ☆地方自治 ☆民主主義の学校 ☆地方分権

私たちの「こんな瑞穂市なら住み続けたい」という意見の他にも、地域の人の意見や要望は様々だった。そのような意見を反映させるために、地方公共団体は地方自治を行い、民主主義の原理を大切にしながら、地域を運営している。

第2時 地方自治の仕組み（知）

◎地方自治の仕組みの資料を読み取る活動を通して、地方議会の制定する条例や、二元代表制の仕組みがあること、住民に、直接請求権を認めていることに気づき、地方公共団体の政治を理解することができる。

☆地方議会 ☆条例 ☆市長 ☆二元代表制
☆直接請求権

地方自治はどのような仕組みで行われているのだろう。

地方公共団体には、国の政治と同じように、地方議会が置かれ、条例を定めている。また、国の仕組みとは違い、二元代表制がとられており、住民には直接請求権が認められ、住民の意思が強く反映される仕組みとなっていることが分かった。

第3時 地方公共団体の課題（知）

◎地方公共団体の財政についての資料を読み取る活動を通して、お金がどのように使われ、財源がどのように確保されているかに気づき、財政上の課題やその解決方法を理解することができる。

☆地方財源 ☆歳入 ☆歳出 ☆地方税
☆地方交付税交付金 ☆国庫支出金 ☆地方債

地方公共団体は財源をどのように確保しているのだろう。

自分たちの収めている税金が地方公共団体の活動を支えていることが分かった。しかし、自主財源だけでは足りないため、国からの依存財源に頼っていることが分かった。事業を見直したり、平成の大合併を行ったりして、財源の確保に努めていることが分かった。

第4時 瑞穂市の財政（知）

◎瑞穂市の統計資料を調べたり、他の地方公共団体の財政の特徴と比較したりする活動を通して、瑞穂市の財政の特徴を理解することができる。

瑞穂市の財政はどのような特徴があるのだろう。

瑞穂市は岐阜県の他の市に比べて、人口が増加していることが分かった。そのため、歳入は安定している。しかし、これからは少子高齢化によって人口が減少していく予想が立てられていることや、住民の様々な声に応えるために、歳出が増えていきそうだ。瑞穂市は、歳入を増やすための努力をしていることが瑞穂市役所の職員の話を聞いて分かった。

第5時 瑞穂市の政策と私たち（知・思）

◎みずほバスの運営が瑞穂市民の税金によって運営されている理由を多様な立場、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

なぜ瑞穂市は9千万円もの事業費を使ってみずほバスを運営しているのだろう。

みずほバスは交通空白地帯を解消し、交通弱者を含めた瑞穂市民の移動を支えるため、また交通渋滞の解消や環境負荷を軽減するために瑞穂市民の税金や岐阜県からの補助金を使って運営していることが分かった。また、市民の意見を取り入れて、路線の再編をするなど、誰にとっても住みよいまちにするために努力しているんだな。

第6時 瑞穂市の政策と私たち（思）《本時》

◎みずほバスについて、多様な立場、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、みずほバス政策の在り方について考えることができる。

瑞穂市民として、今後のみずほバスの在り方を考えよう。

今後、人口が徐々に減少し、高齢化が進んでいく瑞穂市にとって、みずほバスは必要だ。しかし、現在の利用状況や市民の利用意向をみると、利用者の少ない路線があったり、市民が希望する時間帯の便がなかったりするなど課題があることが分かった。誰もが暮らしやすい瑞穂市にするために、高齢者や通学通学で利用する人、買い物に利用する人等、様々な人が利用しやすいよう改善していく必要があると思う。瑞穂市民として、こうした地域の問題に関心をもっていきたい。

単元学習後の生徒の意識

地方公共団体には、住民の意思を反映することができる仕組みが整っていることが分かった。今後、瑞穂市が住みよいまちになっていくためには、私たち一人一人が意見をもって、地方公共団体の政治に積極的に関わっていく必要があると感じた。

私はこれまで、地域の課題についてあまり考えず、自分の意見が反映されることも思っていなかった。これからは、自分にできる範囲で政治に参加して、瑞穂市をさらに住みよいまちにしていきたい。

瑞穂市をもっと住み続けたいと思えるまちにするため、私たちに何ができるだろう。

1 単元名

地方自治と私たち

2 本時のねらい

みずほバスについて、多様な立場、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、みずほバス政策の在り方について考えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

様々な市民の立場に立ってみずほバスについて考えたり、「効率」と「公正」の視点から考えたりすることを通して、みずほバス政策を多面的・多角的に検証し、みずほバスの意義や課題について考えている。

4 本時の展開案（6／6）

学習活動	指導・援助
つ か む 1. 前時の学びを振り返り、本時の課題を確認する。 ・みずほバスは交通空白地帯を解消し、瑞穂市民の移動を支えるため、環境負荷を軽減するために瑞穂市が運営している公共バスだ。市民の意見も取り入れて何度も路線の再編が行われている。 ・みずほバスを利用している人は全体の13%だ。 ・利用していない人のうち41%が運行条件によっては利用したいと考えている。 課題 瑞穂市民として、今後のみずほバスの在り方を考えよう。 2. 資料をもとに、課題を追究し、交流する。 【 拡大 】 ・今後、高齢化が進む瑞穂市では、高齢者の利用も増えることが考えられる。 ・通勤通学で利用している人たちが利用しやすいよう、遅い時間の便数を増やしていく必要がある。 【 現状維持 】 ・利用している人の数は13%であり、利用していない人の41%が条件次第で利用したいと考えている。現状の予算の中でみずほバスを見直し、路線の再編を行っていくべきだ。 【 縮小 】 ・利用者が少ない路線や時間帯のバスを運行することは無駄だ。路線や本数を見直して減らして、高齢者のタクシー助成など他の事業に予算を回した方がいいのではないか。 3. 交流したことをふまえ、未来の主権者として、今後のみずほバスの在り方について、自分の考えをまとめ、班の仲間と交流する。 ま と め る 《 終末における生徒の姿 》 ・今後、人口が徐々に減少し、高齢化が進んでいく瑞穂市にとって、みずほバスは必要だ。しかし、現在の利用状況や市民の利用意向をみると、利用者の少ない路線があったり、市民が希望する時間帯の便がなかったりするなど課題があることが分かった。誰もが暮らしやすい瑞穂市にするために、高齢者や通勤通学で利用する人、買い物に利用する人等、様々な人が利用しやすいよう改善していく必要があると思う。瑞穂市民として、こうした地域の問題に関心をもっていきたい。	《 焦点化された学習課題の設定について 》 ・みずほバスの必要性について疑問を抱かせ、課題意識をもたせるために、みずほバスの利用状況や瑞穂市民の利用意向を提示する。 ・課題解決への意欲を高めるために、運行開始以降、住民の意見を取り入れながら路線の再編成が行われていることを確認する。 《 学び合いの場のねらいについて 》 ・活動2（追究）では、みずほバス4路線の詳細な利用状況や市民の利用意向を個人でじっくり読み取る時間を設けることで、一人一人に考えをもたせる。 ・活動2（交流）と活動3（まとめ）では、班での小集団学習を行い、各自の考えを交流し、自分の考えを、思考ツールを使用して、立場の表明や根拠、予想される反論への再反論や結論を記述させることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 《 学びを促進させる教師の出場について 》 ・活動2（交流）では、生徒の思考を深めるため、立場や視点を整理して板書に位置付けたり、問い返したりする。机間指導で生徒の考えを把握し、意図的指名に生かす。 《 生徒が学びを実感できるための手立て 》 ・交流後に、瑞穂市民として、どんなまちにしたいかを明確にして、みずほバスの今後の在り方をまとめさせる。授業の導入での自身の考えとの変容を振り返らせることで、学びを実感させる。 評 価 規 準 【 思考・判断・表現 】 みずほバス政策の意義や課題に着目して、様々な立場や効率、公正の視点から考察し、みずほバスの今後の在り方について自分の考えをまとめている。 （評価方法） ノートの記述、発言の内容

単元構造図（全6時間）

単元名

近畿地方

—都市・農村の変化と人々の暮らし—

単元のねらい

近畿地方の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究する中で、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目し、そこで見られる課題を主体的かつ多面的・多角的に考察し、表現することができる。

単元学習前の生徒の認識

近畿地方といえば、歴史的な町並みが有名な。小学校の修学旅行でも京都・奈良に行ったけど、世界遺産にもなっている寺社が特徴的だ。大阪は「天下の台所」とも呼ばれていた歴史がある地域だね。今でも、その名残があるけど、どのような歴史の中で、近畿地方特有の生活や文化が築き上げられてきたのだろう。

第1時 近畿地方をながめて（知・主）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方について、地形や気候、人口を視点に特色を調べる活動を通して、近畿地方の地域的特色を理解することができる。

近畿地方は、どのような地域なのだろうか。

☆リアス海岸 ☆紀伊山地

近畿地方の北部にあるリアス海岸である若狭湾は、冬は北西からの季節風の影響で降水量が多くなる。南部は暖流である黒潮の影響で温暖で、夏の降水量が多くなっている。また、大阪や京都、神戸など中央部の沿岸部や盆地・平野に人口が集中している。

近畿地方では、なぜ都市や農村の姿が変化してきたのだろうか。

第2時 都市の開発と歴史的町並み（思）＜場所、地域の傾向＞

◎チェーン店であっても、京都では看板が目立たないように作られている理由を、様々な視点・立場から考察し、メリット・デメリットをまとめ、これからの京都の都市開発を考えることができる。

同じチェーン店なのに、全国と京都ではなぜ看板や外装が異なるのだろうか。

☆歴史的な町並み

京都市では、歴史的な景観を大切にしようと、条例も整備され、景観を守っている。そうすることで、観光客が来ることになり、経済面でメリットもある。一方で、自由に建物が建てられないなど住んでいる人にとっての不都合もある。

第3時 大都市圏の形成と都市の産業（知）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方の大都市圏の成り立ちや大阪湾岸の工業の特色を複数の資料から読み取る活動を通して、都市の成り立ちと阪神工業地帯の特色を理解することができる。

大阪大都市圏はどのように形作られたのだろうか。

☆大阪大都市圏 ☆阪神工業地帯 ☆再開発

近畿地方では、大阪大都市圏が形成され、郊外の住民が行き来するために私鉄等を多く利用している。また、工業も発展を続け、機械や化学の割合が高くなっている。大阪市では、再開発を進め、テーマパークの誘致や万博の開催を予定している。

第4時 ニュータウンの建設と都市の開発（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞《本時》

◎都市の変化によって生じた大阪市の魅力を調べる活動を通して、多くの要因が重なり合って都市を形成していることに気づき、大阪市の魅力を生み出した一番の変化を考え、まとめることができる。

都市の変化によって生じた大阪市の魅力は何か。

☆ニュータウン ☆うめ立て ☆ターミナル駅 ☆再開発

都市の変化によって生じた大阪市の魅力は観光である。大阪湾ベイエリアやターミナル駅を再開発することにより、人々が足を運び、魅力的な都市へとつながっている。また、交通網の整備や居住環境の整備により、大阪市は魅力的な都市となっている。

第5時 変化する農村の暮らし（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞

◎農村の変化によって生じた和東町の魅力を調べる活動を通して、過疎化を食い止めるために多くの取り組みを行っていることに気づき、和東町の魅力を生み出した一番の変化を考え、まとめることができる。

農村の変化によって生じた和東町の魅力は何か。

☆過疎化

京都府和東町では、人口の減少を食い止めるため、ネット販売や新商品の開発、茶畑の景観を保全するなどにして、観光客を呼び込み、地域を活性化する取り組みを行っていることがわかった。

第6時 近畿地方の学習のまとめ（思・知）＜地域の傾向＞

近畿地方の地域的特色をふまえ、「移りゆく都市や農村の実態」をまとめよう。

◎持続可能な社会の実現を観点に、近畿地方の地域的特色と都市や農村の課題や変化とを関連させ、自分なりの表現でまとめのレポートを作成することができる。

都市開発によって、鉄道網を中心とした都市圏が広がり大阪大都市圏を形成してきた。一方で、ニュータウンの老朽化や少子高齢化や山間部や離島の過疎化が課題となっている。都市部では再開発を進めたり、農村部では特色を生かした取り組みを行ったりしている。

単元学習後の生徒の意識

近畿地方では、歴史的背景などから人々の生活への配慮が続いてきた。しかし、産業の変化や経済活動の変化にともなって、人口集中や高齢化・過疎化の進行など、様々な問題が続いてきた。都市部では、人口が集中することで住宅不足になり、農村部では過疎化が進み、限界集落も増えてきている。このように都市部と農村部では大きく落差が出てきてしまった。今後は、都市部では再開発、農村部では地域の活性化など、その地域の特色を生かした取り組みが必要になってくると思う。

1 単元名

近畿地方一都市・農村の変化と人々の暮らしー

2 本時のねらい

都市の変化によって生じた大阪市の魅力を調べる活動を通して、多くの要因が重なり合って都市を形成していることに気付き、大阪市の魅力を生み出した一番の変化を考え、まとめることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

大阪市の魅力を様々な視点から調べ、その視点を関連付けながら、まとめる活動を通して、大阪市の都市開発を自分なりに考える。

4 本時の展開案（４／６）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 写真・グラフから本時の課題を設定する。 ・大阪市が魅力的な都市で1位になっている。 ・大阪市の人口が増えている。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・日本の都市特性評価ランキングと大阪市の人口の推移のグラフを提示することで、大阪市がここ数年で魅力的な都市となってきたことに気付き、その魅力は何かなど課題意識をもつことができるようにする。
深める	課題 都市の変化によって生じた大阪市の魅力は何か。 2. 資料をもとに課題を追究し、交流する。 【交通網】 ・大阪市にあるターミナル駅を整備することにより、人の移動が活発になった。 ・住宅地と商業地や行楽地を鉄道で結びつけた。 【居住環境】 ・郊外にある老朽化したニュータウンを新しく建設し直し、研究施設を周辺地域につくることにより、人々の密集を防ぎ、住みやすい街をつくりあげた。 【観光】 ・大阪湾ベイエリアでのテーマパークを建設したり、他の地域を再開発したりして、観光客が、以前に比べて増加している。 大阪市の魅力	《学び合いの場のねらいについて》 ・活動2（追究）では、読み取りが難しい内容があるため、小集団の隊形で個人追究することで、聞きやすい雰囲気をつくる。 ・活動2（交流）では、学び合いの場を設定することで、自分では一番だと思っていたものが視点を変えると他とのつながりによって支えられていることに気付くことができる。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・活動2（交流）では、視点を明確にして板書することで、のちの活動3の場面で比較しやすいようにする。
まとめる	3. 大阪市の魅力を生み出した一番の変化を考え、交流する。 4. 交流をもとに、自分の考えを見直しまとめを書く。 《終末における生徒の姿》 ・都市の変化によって生じた大阪市の魅力は観光である。大阪湾ベイエリアやターミナル駅を再開発することにより、人々が足を運び、魅力的な都市へとつながっている。また、それに加えて、交通網の整備により、人の移動が活発となり、居住環境の整備により、大阪市に住む人口が増加している。このように、大阪市は常に変化を繰り返しながら、魅力的な都市となっていることがわかった。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・活動3（交流）では、自分の考えを見直したり、ICTを活用して仲間の意見と比較しながら交流したりすることで学びを実感させる。 【思考・判断・表現】 大阪市では、都市の変化により、人口が増え、魅力的な都市になっていることを踏まえ、大阪市の魅力を生み出した一番の変化を考察し、表現している。 （評価方法） 発言内容、まとめの内容（ノート）

「5章:三角形と四角形」(18時間) 単元構造図

<図形領域の学習到達目標>…平面図形や空間図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めたり、図形の性質や関係を直観的に捉え、数学的な推論により論理的に考察し表現したりできるようにする。

<単元の出口で目指す姿>

平面図形の性質や合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けた姿の具現を目指す。

知識・技能

- ①定義や定理の意味と役割を理解している。
- ②様々な図形の性質を理解している。
- ③命題の逆や反例の意味を理解している。
- ④ひし形、長方形、正方形の定義や性質、相互関係を理解している。
- ⑤様々な図形の性質の証明をかき表している。

思考・判断・表現

- ①三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見出すことができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ②三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できる。
- ①三角形や四角形について考えようとしている。
- ②三角形や四角形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
- ③三角形や四角形を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

中学3年…図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。

<2年生の図形領域の学習到達目標>

数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を養う。

中学1年…図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養う。

<単元指導の流れ・各単位時間の役割>

単元を貫く課題「既習事項を使って、図形の性質を演繹的に確かめ、論理的に考察しよう。」

- (i) 図形の性質について新しい知識を学ぶ。 (i)~(vi)のまとめりの主なねらい (vi)
- (ii) 小学校で学んできた図形に関する性質を演繹的に説明する。
- (iii) 図形の合同についての知識を学ぶ。
- (iv) 新たな図形の性質を、既習の図形の性質を用いて演繹的に説明する。
- (v) 特別な平行四辺形の性質を論理的に見出す。
- (vi) これまで学んだ図形の性質を利用して、新たな課題を解決する。

第17時 動き方のしくみを調べよう 主に『思考・判断・表現』 思②態③
課 乗り物の床と地面はいつでも平行になっているのだろうか証明しよう。

第15時 平行線と面積 主に『思考・判断・表現』 思②
課 四角形を面積を変えずに三角形に変形しよう。

第13時 特別な平行四辺形① 主に『知識・技能』 知④態①
課 ひし形は平行四辺形であるのか証明しよう。

第14時 特別な平行四辺形② 主に『思考・判断・表現』 思①
課 対角線の長さや交点の位置関係に着目して、4つの四角形について判断しよう。

第10時 平行四辺形の性質② 主に『思考・判断・表現』 思①
課 平行四辺形の性質を利用し、辺の長さが等しいことを証明しよう。

第12時 平行四辺形であるための条件② 主に『知識・技能』 知②
課 平行四辺形の性質の逆を証明しよう。

第9時 平行四辺形の性質① 主に『知識・技能』 知②
課 平行四辺形の性質を確かめよう。

第11時 平行四辺形であるための条件① 主に『知識・技能』 知①態②
課 四角形が平行四辺形であるための条件はどのようなものがあるのか調べよう。

第6時 直角三角形の合同条件① 主に『知識・技能』 知①
課 2つの直角三角形が合同であるためにはどのような条件が必要か調べよう。

第7時 直角三角形の合同条件② 主に『知識・技能』 知⑤
課 角の二等分線上の点Pは、角を作る2辺からの距離が等しいことを証明しよう。

第2時 二等辺三角形の性質② 主に『知識・技能』 知②
課 $AB=AC$ ならば、 $\angle B=\angle C$ であることを証明しよう。

第1時 二等辺三角形の性質① 主に『知識・技能』 知①
課 二等辺三角形の性質について調べよう。

第4時 逆 主に『知識・技能』 知③
課 仮定と結論をいれかえた「逆」は必ず成り立つか調べよう。

第5時 正三角形 主に『知識・技能』 知②
課 正三角形の3つの角はなぜ等しいのか証明しよう。

第3時<本時> 二等辺三角形であるための条件 主に『思考・判断・表現』 思①態①
課 2つの角が等しい三角形はいつでも二等辺三角形になるのか証明しよう。

2 本時のねらい

「2つの角が等しい三角形は二等辺三角形である」という条件を、補助線を引いて分けられた2つの三角形が合同であることを示す必要があることに気づき、仮定と結論を把握し、使用する言葉や図形の性質が適切か判断し、証明することができる。

いつでも2つの角が等しい三角形が二等辺三角形であることがいえるのかを既に学習した三角形の合同を利用して、演繹的に考えている。

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 2つの角が等しい三角形を描く。 ○描いた三角形は、どんな三角形になっている？ ・2つの辺が等しく、二等辺三角形になっている。 ・いつでも二等辺三角形になるのかは証明しないとわからない。 ・辺が等しいことをいうためには、三角形の合同を示せばよい。 ○証明を行う前に仮定と結論を整理しよう。 ・仮定は「2つの角が等しい三角形」、結論は「二等辺三角形」である。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・導入で2つの角が等しい三角形を描かせた後、描いた三角形をタブレットで共有し、比較することで、形はそれぞれ違うが、描いた三角形がどれも二等辺三角形であることに気付かせる。 ・2つの辺の長さが等しいというために、合同な2つの三角形の証明が必要であるという見通しをもたせる。
	課題 2つの角が等しい三角形は、いつでも二等辺三角形になるのか証明しよう。	《学び合いの場のねらいについて》 ・様々な証明の仕方をする生徒がいると予想されるので、小集団交流の時に、電子黒板にいくつか生徒の証明を出し、本当にその証明は正しいのか全員に考えさせる。また、書いた証明を振り返り、評価・改善することの大切さに気付かせる。
深める	2. 個人追究から小集団交流を行う。 ・二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を使えば簡単に証明できそう。 ・角の二等分線を補助線として引くことで、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいことがいえて、証明できそう。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・個人追究の時に証明で困っている生徒に対して、タブレットで穴埋め形式や、補助線の引いてある図をヒントとして配付する。 ・電子黒板でいくつかの証明を出した時に、「これらの証明は本当に全部正しいの？」と問い、証明で使っている言葉や性質について仮定と結論があっているのかを考えさせる。
	3. 全体交流を行う。 ・「底角」や「頂角の二等分線の性質」は二等辺三角形であることがいえていないから使えない。 ・辺が等しいことを示すためには、三角形の合同から証明をする必要がある。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・「証明を行う時にはどういった点に注意しなければいけないのか」という視点を与え、本時の振り返りを書かせ、学びを実感させる。
まとめる	4. 本時の振り返りを行う。 《終末における生徒の姿》 ・2つの角が等しい三角形は二等辺三角形になる。 ・補助線を引いて合同な三角形を証明することで、課題を解決することができた。 ・仮定と結論を正しく把握し、使う言葉や図形の性質を考える必要がある。	【思考・判断・表現】 仮定と結論を正しく把握している上で、使用する数学用語を判断し、証明している。 (評価方法) プリントの記述
		評価規準

「5章:相似と比」(20時間) 単元構造図

<図形領域の学習到達目標>…平面図形や空間図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めたり、図形の性質や関係を直観的に捉え、数学的な推論により論理的に考察し表現したりできるようにする。			<3年生の図形領域の学習到達目標> 図形の構成要素の関係に着目し、<u>図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。</u>	
<単元の出口で目指す姿> 平面図形の性質や合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けた姿の具現を目指す。			中学2年…<u>数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を養う。</u>	
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度			中学1年…<u>図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養う。</u>	
<単元指導の流れ・各単位時間の役割> 単元を貫く課題 「相似な図形の性質から、新たな図形の性質を見出し、いつでもその性質が成り立つといえるのか明らかにする。」				
(i)～(v)のまとまりでの主なねらい (i)相似について新しい知識を学ぶ。 (ii)三角形の相似条件について学ぶ。 (iii)三角形の相似条件をもとに新たな図形の性質を見出し、線分の長さの求め方を学ぶ。 (iv)相似な図形に対する体積や面積に着目し、性質を見出す。 (v)学習内容を用いて、図形の性質を説明する。			第19時<本時> 主に『思考・判断・表現』思③態②③ 課 意見が正しいといえるのか、根拠を明確にしながら説明しよう。	
			第17時 主に『思考・判断・表現』思③態②③ 課 相似な図形の性質を使って、長さを求めよう。	
			第18時 主に『思考・判断・表現』思③態②③ 課 相似な図形の性質をもとに縮図を書き、問題を解決しよう。	
			第14時 主に『知識・技能』知③ 課 条件を変えてもいつでも相似比の2乗が面積の比になるといえるのだろうか。	
			第16時 主に『知識・技能』知③ 課 相似な立体の相似比と体積の比との関係を明らかにしよう。	
			第12時 主に『知識・技能』知① 課 平行線と線分の比に着目して、三角形の面積の比を明らかにしよう。	
			第15時 主に『知識・技能』知③ 課 相似な立体の相似比と表面積の比との関係を明らかにしよう。	
			第9時 主に『思考・判断・表現』思② 課 平行線と線分の比が成り立つことを証明しよう。	
			第11時 主に『思考・判断・表現』思② 課 三角形の角の二等分線と比の定理を、自分の選んだ方法で証明しよう。	
			第7時 主に『思考・判断・表現』思② 課 三角形と比の定理が成り立つことを証明しよう。	
			第8時 主に『思考・判断・表現』思② 課 三角形と比の定理の逆が成り立つことを証明しよう。	
			第10時 主に『思考・判断・表現』思②態②③ 課 中点連結定理を利用して、四角形 PQRS がどのような四角形になるのか明らかにしよう。	
			第3時 主に『知識・技能』知① 課 相似な図形をいろいろな方法で描いてみよう。	
			第6時 主に『思考・判断・表現』思①態②③ 課 三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であることを証明しよう。	
			第2時 主に『知識・技能』知① 課 辺や角に着目して、相似な図形の性質を明らかにしよう。	
			第5時 主に『思考・判断・表現』思① 課 三角形が相似であることを、根拠を明らかにして判断しよう。	
			第1時 主に『知識・技能』知①態① 課 図形を拡大・縮小することの意味と、それらの図形の性質について調べよう。	
			第4時 主に『思考・判断・表現』思① 課 三角形の合同条件をもとに、三角形の相似条件を見出し説明しよう。	

5章 相似と比 4節 相似な図形の利用

日常生活や社会の事象における問題を、相似な図形の性質を利用して解決し、考えた根拠を明確にしながら説明することができる。

- ・結論を導くまでの過程を、根拠を明確にしながら論理的に説明しようとしている。
- ・「実際に半分にするためにはどうすればよいか。」「値段や大きさをどうすれば、どちらを買っても損が無いようになるのか。」など、条件を変えて発展的に考えている。

学習活動		指導・援助
つかむ	1. 問題を見て、解決の見通しをもつ。 ○ゼリーの量を半分にするとき、この写真の状態で半分というのは正しいでしょうか。(A) ・高さは半分だけど、体積は半分より少なそうだ。 ○小さいケーキを3つ買う方が割安だという意見は正しいでしょうか。(B) ・値段と大きさが違うからどちらが割安なのかはすぐには分からない。 ・どちらの問題も、容器や物を相似だと考えれば解決できそうだ。 課題 意見が正しいといえるのか、根拠を明確にしながら説明しよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・導入の場面で、比較する2つの立体が相似の関係であることや、体積を比較することが解決に繋がることを確認し、既習事項との繋がりと解決の見通しをもたせる。 ・正しいか正しくないかという問いかけ方をすることで、追究の際の立場や、説明の仕方を明確にさせ、主体的に活動に取り組むことができるようにする。
	2. 先に追究する問題を決め、グループ分けを行う。 ○どちらの問題を先に追究しようと思いますか。 3. 個人追究、小集団交流を行う。 (A) ・容器全体の体積を求めることはできそうだ。 ・相似比から体積比を出せば、量が半分であるかどうかの結論を出せそうだ。 (B) ・直径を比較すると相似比が求められるから、体積比も3乗すれば求められそうだ。 ・体積と値段の比を考えれば、どちらが割安か求められそうだ。 4. 追究の中で学んだことを、ペア交流する。 5. 課題を提出し、振り返りを行う	《学び合いの場のねらいについて》 ・追究する問題の種類が同じ仲間同士でグループ編成をすることで、「分からない」ということを発しやすくするとともに、簡潔・明瞭・的確の視点から、互いの説明を修正し合うことを目指す。 ・問題の種類が同じかつ、正しいか正しくないかの予想が異なる生徒同士で小集団を組むことで、立場の異なる相手を納得させるために、根拠を明確にした説明を創り上げる必要がある場を仕組む。
	《終末における生徒の姿》 ・相似比や体積比を使うと、何となく考えたときの量とは大きく違っていた。 ・日常の中でも相似の関係に着目していきたい。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・追究が進まない生徒に対して、どこで止まっているのかを対話の中で明らかにして、小集団の中に疑問を投げかける。 ・結論が出た生徒に対して、(A) では半分になる条件、(B) ではどちらを選んでも損が無いようにする条件を考えさせる声かけをする。
	《思考・判断・表現》 相似な図形の性質を利用して問題を解決する過程を、根拠を明確にして説明している。 (評価方法) 発言内容、レポートの記述	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・予想と結論を比較させ、自身の意見の変容がなぜ起こったのかをふり返らせる。
深める		《思考・判断・表現》 相似な図形の性質を利用して問題を解決する過程を、根拠を明確にして説明している。 (評価方法) 発言内容、レポートの記述
まとめる		《思考・判断・表現》 相似な図形の性質を利用して問題を解決する過程を、根拠を明確にして説明している。 (評価方法) 発言内容、レポートの記述

「5章:平面の図形」(18時間) 単元構造図

＜図形領域の学習到達目標＞…平面図形や空間図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めたり、図形の性質や関係を直観的に捉え、数学的な推論により論理的に考察し、表現したりできるようにする。

＜単元の出口で目指す姿＞

平面図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けた姿の具現を目指す。

知識・技能

- ①直線、半直線、線分の意味を理解すること。
- ②2点間や2直線間の距離について理解すること。
- ③円の弧や弦、円の接線、接点の意味を理解すること。
- ④円周率を π で表すことを知り、円周の長さや円の面積を π を使って表すこと。
- ⑤おうぎ形やおうぎ形の中心角の意味を理解すること。
- ⑥角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解すること。
- ⑦平行移動、対称移動及び回転移動について理解すること。

思考・判断・表現

- ①図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察して、表現する。
- ②図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察して、表現する。
- ③基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用する。
- ④図形の関係に着目し、新たな図形について考えて、表現する。

主体的に学習に取り組む態度①平面図形の性質や関係をとらえることよさに気付いて、粘り強く考えようとしている。

②平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

③作図や図形の移動を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

中学3年…図形の構成要素の
関係に着目し、図形の性質や
計量について論理的に考察し
表現する力を養う。

中学2年…数学的な推論の過
程に着目し、図形の性質や関
係を論理的に考察し、表現す
る力を養う。

＜1年生の図形領域の 学習到達目標＞

図形の構成要素や構成の
仕方に着目し、図形の性質や
関係を直観的に捉え論理的に
考察する力を養う。

＜単元指導の流れ・各単位時間の役割＞

単元を貫く課題「基本的な図形の性質や関係について考え、根拠をもとに説明しよう。」

(i)～(iv)のまとまりでの主なねらい

(i)平面図形における線について新しい
知識を学ぶ。

(ii)円をもとに、おうぎ形について学ぶ。

(iii)平面図形の性質に基づいて作図を
行い、その方法を説明する。

(iv)図形の移動に関する内容を、図形
の位置関係や相等関係、作図に関
する内容と関連付けて考える。

(iv)

第15時 移動させた図形と元の図形 主に『思考・判断・表現』思②

課 各図形の移動について、もとの図形と移動させた図形の間にはどのような関係があるのだろうか。

第17時 万華鏡の模様見え方を考えよう 主に『思考・判断・表現』思③態②

課 図形の移動という視点から日常における事象の特徴を捉えよう。

第14時 いろいろな移動 主に『思考・判断・表現』知②

課 どんな決まりに従って移動した図形なのかを考え、根拠をもとに伝え合おう。

第16時 図形の移動 主に『知識・技能』知⑦態③

課 図形を平行移動、回転移動、対称移動させ、それぞれの操作の意図を明確にし説明しよう。

(iii)

第9時 線分の垂直二等分線 主に『知識・技能』知⑥

課 これまでに学んできたことをもとに垂直二等分線を作図しよう。

第12時 75° の角をつくろう 主に『思考・判断・表現』思①態②

課 75° を作図するにはどのように考えればよいか明らかにしよう。

第11時 いろいろな作図 主に『思考・判断・表現』思①態③

課 これまでに学んできたことをつなぎ合わせ、いろいろな図形の作図をしてみよう。

第8時 条件を満たす点の集合 主に『知識・技能』知②

課 それぞれの図形がどのような点の集合から作られているか明らかにしよう。

第10時 角の二等分線 主に『知識・技能』知⑥

課 これまでに学んできたことをもとに角の二等分線を作図しよう。

(i)

第3時 平面上の2直線と距離 主に『知識・技能』知②態②

課 2直線の位置関係と距離との関係を明らかにしよう。

(ii)

第7時 円とおうぎ形 主に『知識・技能』思④

課 公式を用いておうぎ形に関わる値を求めよう。

第6時＜本時＞ 円とおうぎ形 主に『思考・判断・表現』思④

課 円の面積や円周の長さを使って、おうぎ形の面積や弧の長さの求め方を明らかにし、説明しよう。

第5時 円とおうぎ形 主に『知識・技能』知③④⑤

課 円とおうぎ形の関係を明らかにさせよう。

第4時 円と直線 主に『知識・技能』知③

課 円と線との関係から円の性質を明らかにしよう。

第1時 線と点の距離 主に『知識・技能』知①知②態①

課 線や点に関わるものの意味を明らかにしよう。

第2時 直線がつくる角 主に『思考・判断・表現』思①

課 2直線によってできる角について考え、作図しよう。

1 単元名

5章 おうぎ形の面積と弧の長さ 1節 平面図形とその調べ方

2 本時のねらい

おうぎ形が円の一部分であるという既習事項をもとに、おうぎ形の面積や弧の長さを求める活動を通して、それらの求め方について論理的に考察し、説明することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

おうぎ形が円の一部分であることから演繹的に扇形の面積や弧の長さの求め方を考え、それらの求め方について明瞭・的確という視点で論理的に説明することができている。

4 本時の展開案（6／18）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 問題を提示する。 ○半径が3cmで、中心角が60°のおうぎ形の弧の長さと面積を求めよう。 課題 円の面積や円周の長さを使って、おうぎ形の面積や弧の長さの求め方を明らかにし、説明しよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・課題で「円の面積や円周の長さを使って」といれることで、おうぎ形の面積や弧の長さを求めるやり方を統一させる。
	2. 個人追究を行う。 ・このおうぎ形は円を6つに分けたうちの一つ分に当たる。 ・半径3cmの円の面積や円周の長さに $\frac{1}{6}$ をかければ、おうぎ形の弧の長さや面積が求まりそうだ。 ・ $\frac{1}{6}$ というのは、360°のうち中心角が60°になっていることから得られる値である。 ・弧の長さと面積が中心角の大きさに比例することから式で表すことができそう。	《学び合いの場のねらいについて》 ・小集団交流に入る前に、追究が終わった生徒から中心角と半径を変えたおうぎ形について考えさせる。各々のおうぎ形について考えた後に小集団交流を行うことで、どんなおうぎ形であっても同じやり方で面積や弧の長さを求めることができることに気づけるようにする。 ・小集団交流に入り、互いの意見を伝え合った後、全体に「同じやり方で面積や弧の長さが求められるということは、どんなおうぎ形の面積や弧の長さも求められる式があるはずでは」と問いかけ、これまでの考えを一般化させた式に対する追究を協同的に考えさせる。
	3. 小集団交流を行う。 ・どんなおうぎ形であっても、もとの円の各値に対して、円に占めるおうぎ形の割合をかけ合わせることで弧の長さや面積が求められる。 ・弧の長さも面積も（もとの円の値）×（割合）で求めることができる。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・個人追究の段階から自分の考えをプリントに書くよう促す声をかける。考えがもてない生徒のために各生徒のタブレットにヒントを送っておく。 ・個人追究においてすでに公式を使って考えている生徒に対し、「どうしてこの式で面積や弧の長さが求まるのか」と問いかけ、式の成り立ちについて考えさせる。
深める	4. 全体交流を行う。 ○公式 半径をr、中心角をa°とすると （弧の長さ） $l = 2\pi r \times \frac{a}{360}$ （面積） $S = \pi r^2 \times \frac{a}{360}$	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・終末で実際に公式を使って問題を解き、“なぜこの計算から面積や弧の長さが求まるのか”という視点で動画を撮影する。
	5. 問題に取り組み、動画を撮影し Teams で提出させる。 《終末における生徒の姿》 公式はおうぎ形が円の一部分であるということから、円の面積や円周の長さといったもとの値に、おうぎ形が占める割合をかけている。それによりおうぎ形の面積や弧の長さはこれらの公式を用いて求めることができる。	【思考・判断・表現】 おうぎ形の面積や弧の長さの求め方について計算の根拠を説明している。 （評価方法） 交流の姿、提出した動画内容
まとめ		評価規準

「4章:平行と合同」(17時間) 単元構造図

＜図形領域の学習到達目標＞…平面図形や空間図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めたり、図形の性質や関係を直観的に捉え、数学的な推論により論理的に考察し表現したりできるようにする。

＜単元の出口で目指す姿＞

平面図形の性質や合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けた姿の具現を目指す。

知識・技能

- ①平行線や角の性質を理解している。
- ②多角形の角についての性質を見出すことができる。
- ③平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。
- ④証明の必要性和意味及びその方法について理解している。
- ⑤合同などの図形の性質を使って線分の長さや角の大きさを求めることができる。

思考・判断・表現

- ①基本的な図形の性質を見出し、平行線や角の性質を基にしてそれらを論理的に確かめ説明することができる。
- ②三角形の合同条件などを基にして三角形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで、その結果から新たな性質を見出したりすることができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ③平面図形の基本的な性質などを具体的な場面で利用することができる。
- ①今までの学習内容を根拠として、図形の性質を説明しようとしている。
- ②日常生活やこれからの学習に生かそうとしている。
- ③振り返りから自己評価・改善をしようとしている。

中学3年…図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。

＜2年生の図形領域の学習到達目標＞

数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を養う。

中学1年…図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養う。

＜単元指導の流れ・各単位時間の役割＞

単元を貫く課題「新たな図形の性質がいつでも成り立つといえるのか明らかにしよう。」

(i)～(vii)のまとまりでの主なねらい

- (i) 角の性質について新しい知識を学ぶ。
- (ii) 小学校で学んできた図形に関する性質を演繹的に説明する。
- (iii) 新たな図形の性質を、既習の図形の性質を用いて演繹的に説明する。
- (iv) 三角形を基として、図形の合同についての知識を学ぶ。
- (v) 三角形の合同の考えを使い、新たな図形の性質の証明の仕方について学ぶ。
- (vi) これまで学んだ図形の性質を利用して、新たな課題を解決する。

(vi)

第16時＜本時＞ 穴のあいた多角形の角の和を求めよう 主に『思考・判断・表現』 思③態①
課 穴のあいた多角形の角の和の求め方を明らかにしよう。

第15時 合同な図形の性質の利用 主に『思考・判断・表現』 思②態②③知⑤
課 合同な図形の性質を使って問題を解決しよう。

(v)

第12時 三角形の合同条件の使い方 主に『思考・判断・表現』 思②
課 根拠となる図形の性質を明らかにして証明しよう。

第13時 仮定と結論 主に『知識・技能』 知④思②
課 角の二等分線の作図方法が正しいことを証明しよう。

第14時 証明のしくみ 主に『知識・技能』 知④思②
課 証明の根拠として使われる図形の性質などをまとめよう。

(iv)

第9時 合同な図形 主に『知識・技能』 知③
課 多角形が合同であるための条件を明らかにしよう。

第10時 三角形の合同条件 主に『知識・技能』 知③
課 $\triangle ABC$ と合同な三角形をできるだけ少ない要素で描き、合同かどうか確かめよう。

第11時 合同な三角形 主に『知識・技能』 思②態③
課 2つの三角形が合同かどうか判断しよう。

(iii)

第6時 図形の性質の調べ方 主に『思考・判断・表現』 思①態①
課 どんなくさび型でも $\angle A + \angle B + \angle C = \angle ADC$ となるといえるのか。

第7時 星形の図形の角の和を求めよう 主に『思考・判断・表現』 思①態①③
課 どんな星形多角形でも $\angle A + \angle B + \angle C + \angle D + \angle E = 180^\circ$ となるといえるのか。

(ii)

第2時 平行線と角 主に『知識・技能』 知①
課 2直線が交わってできる角の性質を調べよう。

第1時 いろいろな角 主に『知識・技能』 知①
課 2直線がどんな交わり方をしても対頂角は等しいといえるのか。

(i)

第5時 多角形の内角、多角形の外角 主に『思考・判断・表現』 思①知②
課 n角形の内角、外角の和はどのような性質を持つのか明らかにしよう。

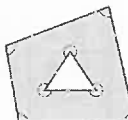
第3時 三角形と角 主に『思考・判断・表現』 思①
課 どんな三角形の内角の和も 180° になるといえるのか。

第4時 図形の性質と補助線 主に『思考・判断・表現』 思①態①
課 どのような補助線をひけば、図形の性質が説明できるだろうか。

4章 平行と合同 活用・探求

さまざまな形の穴のあいた多角形の角の和を求める活動を通して、 m 角形の穴が開いた n 角形の角の和を求める式を一般化し、その式の求め方やその根拠をまとめることができる。

2つの多角形の形という条件を変えながら角の和について発展的に考え、それぞれの図形での考え方で共通していることを統合的に考える活動を通して、角の和の求め方を一般化している。

学習活動	指導・援助
つ か む 1. 多角形の内角，外角の和について確認する。 2. 四角形に三角形の穴が開いた多角形の角の和について考える問題を提示する。  ・教科書の3つの考え方のうちどれかを使えば角の和が求められそうだ。 ○問題に出てくる多角形を三角形や四角形からほかの多角形に変えたとしたらどうなるだろう？ 課題 多角形の穴のあいた多角形の角の和を求め，求め方を明らかにしよう。 3. 個人追究，小集団交流をする。 ○問題が解けた生徒から，穴のあいた多角形の角の和の求め方を一般化してみよう。 ・教科書の考え方をを使えば問題の角の和は求めることができるけど，一般化するためにはどうすればよいだろう。 ・m角形にn角形の穴が開いた多角形として考えると，教科書の考え方をを使えば$180 \times (m+n)$という式ができそうだ。 4. 全体交流を行う。 5. 振り返りを行う。 ・m角形の多角形にn角形の穴があいているとしたら$180 \times (m+n)$という式で角の和が求められそうだ。 ・多角形の穴の数を増やしたら角の和を求める式はどのようなになるのかな。 《終末における生徒の姿》 m角形の多角形にn角形の穴があいているとしたら$180 \times (m+n)$と式がつくれて，角の数が変わっても角の和を求めることができそうだ。 深 め る ま と め る	《焦点化された学習課題の設定について》 ・課題での表現を「多角形の穴のあいた多角形」にすることで，ゴールは角の和を一般化することであると意識させる。 《学び合いの場のねらいについて》 ・活動4では，問題について発展的に考えることができるように，個人追究の時間を十分にとってから小集団交流を行う。 ・活動2で提示した問題だけでなく，さまざまな形の多角形の穴が開いた図形の角の求め方も交流させることで角の求め方を統合的・発展的に考えやすくする。 ・小集団交流の班は思考回路を用いて組んだ数学班をもとに，班ごとに同じ考え方を選択している生徒が集まるように臨機応変に組み換えを行う。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・活動4，活動5で，問題が解けた生徒に対して他の図形であったらどうかと問いかける。 ・机間指導の際にプリントの記述を見て，何も書くことができていない子どもに対してはヒントが載った穴埋め形式のプリントを配付して，全員が自分の意見をもつことができるようにする。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・小集団交流，全体交流で仲間の考え方を聞いた後にもう一度自分の言葉でまとめることによって，仲間の考え方を聞いたことによる自身の意見の変容を実感させる。
	評価規準 【思考・判断・表現】 m角形の穴が開いたn角形の角の和を一般化し，式を用いて考え方をまとめている。 （評価方法）交流の姿，プリントの記述

「5章:相似と比」(20時間) 単元構造図

<図形領域の学習到達目標> …平面図形や空間図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めたり、図形の性質や関係を直観的に捉え、数学的な推論により論理的に考察し表現したりできるようにする。		<3年生の図形領域の学習到達目標> 図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。	
<単元の出口で目指す姿> 平面図形の性質や合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けた姿の具現を目指す。		中学2年…数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力を養う。	
知識・技能 ①平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ②平行線と線分の比についての性質をもとにして、線分の長さを求めることができる。 ③基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解している。		中学1年…図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養う。	
思考・判断・表現 ①三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ②平行線と線分の比についての性質を見出し、それらを確かめることができる。 ③相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。			
主体的に学習に取り組む態度 ①相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考えようとしている。 ②図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。			
<単元指導の流れ・各単位時間の役割>			
単元を貫く課題 「相似な図形の性質から、新たな図形の性質を見出し、いつでもその性質が成り立つといえるのか明らかにする。」			
(i)～(v)のまとまりでの主なねらい (i)相似について新しい知識を学ぶ。 (ii)三角形の相似条件について学ぶ。 (iii)三角形の相似条件をもとに新たな図形の性質を見出し、線分の長さの求め方を学ぶ。 (iv)相似な図形に対する体積や面積に着目し、性質を見出す。 (v)学習内容を用いて、図形の性質を説明する。		(v)	第19時 主に『思考・判断・表現』 思③態②③ 課 意見が正しいといえるのか、根拠を明確にしながら説明しよう。
		第17時 主に『思考・判断・表現』 思③態②③ 課 相似な図形の性質を使って、長さを求めよう。	第18時 主に『思考・判断・表現』 思③態②③ 課 相似な図形の性質をもとに縮図を書き、問題を解決しよう。
		第14時<本時> 主に『知識・技能』 知③ 課 条件を変えてもいつでも相似比の2乗が面積の比になるといえるのだろうか。	第16時 主に『知識・技能』 知③ 課 相似な立体の相似比と体積の比との関係を明らかにしよう。
(iv)		第12時 主に『知識・技能』 知① 課 平行線と線分の比に着目して、三角形の面積の比を明らかにしよう。	第15時 主に『知識・技能』 知③ 課 相似な立体の相似比と表面積の比との関係を明らかにしよう。
		第9時 主に『思考・判断・表現』 思② 課 平行線と線分の比が成り立つことを証明しよう。	第11時 主に『思考・判断・表現』 思② 課 三角形の角の二等分線と比の定理を、自分の選んだ方法で証明しよう。
(iii)		第7時 主に『思考・判断・表現』 思② 課 三角形と比の定理が成り立つことを証明しよう。	第10時 主に『思考・判断・表現』 思②態②③ 課 中点連結定理を利用して、四角形 PQRS がどのような四角形になるのか明らかにしよう。
		第8時 主に『思考・判断・表現』 思② 課 三角形と比の定理の逆が成り立つことを証明しよう。	
(i)		第3時 主に『知識・技能』 知① 課 相似な図形をいろいろな方法で描いてみよう。	第6時 主に『思考・判断・表現』 思①態②③ 課 三角形の相似条件を使って、2つの三角形が相似であることを証明しよう。
		第2時 主に『知識・技能』 知① 課 辺や角に着目して、相似な図形の性質を明らかにしよう。	第5時 主に『思考・判断・表現』 思① 課 三角形が相似であることを、根拠を明らかにして判断しよう。
		第1時 主に『知識・技能』 知①態① 課 図形を拡大・縮小することの意味と、それらの図形の性質について調べよう。	第4時 主に『思考・判断・表現』 思① 課 三角形の合同条件をもとに、三角形の相似条件を見出し説明しよう。
		(ii)	

1 単元名

5章 相似と比 3節 相似な図形の面積と体積

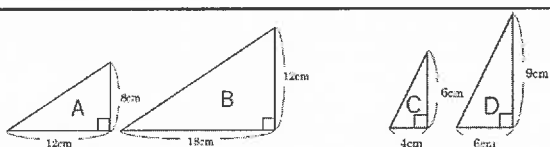
2 本時のねらい

相似な図形の相似比と面積比の関係を調べる活動を通して、与えられた条件の数値や図形を変えることによって、相似比と面積比の関係を明らかにすることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

- ・相似比と面積比の関係を予想し、根拠を明確にして論理的に説明しようとしている。
- ・「相似比を変えるとどうなるか。」「他の図形に変えるとどうなるか。」など、条件を変えて発展的に考え、様々な結果から、相似な図形の相似比と面積の比の関係を一般化するように統合的に考えている。

4 本時の展開案（14／20）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 問題を把握する。  問題 相似比が2:3となる2つの直角三角形がある。 2つの図形の面積の比はどのようなのだろうか。 ・相似比の2乗が面積比になりそうだ。 ・相似比が2:3以外だとどうなるかな。 ・四角形や五角形だとどうなるかな。 課題 条件を変えてもいつでも相似比の2乗が面積の比になるといえるのだろうか。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・導入の場面で、2つの相似な図形の面積を比較し、相似比と面積比の関係を予想させる。 ・予想したことが正しいか調べるために「この問題の条件を変えても同じことがいえるか。」と問いかけ、条件の何を変えればよいのかを考えさせ、課題化へつなげる。
	2. 個人追究をする。 3. 追究する条件ごとに小集団交流を行う。 ①相似比を変える ・5:6や4:7など違う値でも成り立ちそうだ。 ・文字を使って表現できないか。 ②図形を変える ・直角三角形以外の三角形ではどうだろう。 ・多角形でも考えられないかな。 4. 追究の中で学んだことを、全体交流する。 5. 本時のまとめをする。 相似比が$m:n$である2つの図形の面積の比は$m^2:n^2$である。 6. 振り返りをレポートにまとめる。 《終末における生徒の姿》 ・相似比と面積の比の関係を理解できた。 ・条件をいろいろな値や図形に変え、まとめることで、予想したことが正しいことを示すことができた。	《学び合いの場のねらいについて》 ・追究する条件が同じ生徒でグループ編成をすることで、「分からない」ということを発しやすくし、より多くの条件変えをめざす。 ・「いつでも成り立つ」ことを示すために、文字を使って考えている生徒を取り上げ、生徒同士の交流を仕組む。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・追究が進まない生徒に対して、どこで止まっているのかを対話の中で明らかにして、小集団の中に疑問を投げかける。 ・相似比を一般化し、図形を多角形へと考えを深めさせるように助言する。 ・どんな図形であっても相似ならば相似比の2乗が面積の比になることを示すにはどうすればよいのかを考えさせる。 ・結論が出た生徒に対しては、立体ではどうなるかと声をかける。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・個人追究時の自分の考えと本時のまとめを比較させ、自身の意見の変容がなぜ起こったのかを実感させる。
深め		
まとめ		
		【思考・判断・表現】 相似な図形の相似比と面積の比の関係を、根拠を明らかにしてまとめている。 （評価方法）発言内容、レポートの記述

単元構造図 第1学年『身のまわりの物質とその性質』全25時間

単元終了時における生徒の意識

未知の物体であっても、それを構成する物質は金属、非金属、有機物、無機物に分類することができる。身のまわりの物体は、それぞれの物質の性質を利用して作られている。また、日常生活の中で、私たちはいろいろな物質をいろいろな状態で活用している。

第四章 物質の姿と状態変化

⑭⑮混合物の分離【本時】

(思考・判断・表現) イ・ウ・エ

液体の混合物は、熱すると沸点の低い方が気体として先に出てくる。沸点の違いを利用して分けることができる。

⑯物質の状態変化と体積・質量の変化

(思考・判断・表現) ウ・エ

状態変化では物質の状態や体積は変化するが、粒子の数そのものは変化しないので、質量は変化しない。

どんな物質でも、組成が分かれば有効活用することができる。また、物質を粒子として捉えることで、物質に起きている変化をイメージすることができる。

⑳㉑沸点と融点(主体的に取り組む態度, 知識・技能) ウ・エ

純粋な物質の沸点や融点は、物質の種類によって決まっている。したがって、沸点や融点は、物質を区別するときの手がかりとなる。

㉒物質の状態変化(思考・判断・表現) ウ・エ

水の場合と同じように、他の物質も温度によって、固体・液体・気体と状態が変化する。

第三章 水溶液の性質

⑰⑱⑲溶解度と再結晶(知識・技能) イ・エ

溶解度の変化が大きな物質は、水溶液の温度を冷やすことで、とけている物質を結晶として取り出すことができる。結晶のようすを観察するといくつかの平面に囲まれた規則正しい形をしていて、その形は物質によって決まっている。

⑳物質が水にとけるとは

(思考・判断・表現) ウ・エ

物質がとけた液はどの部分も濃さは同じになる。

水に物質をとかす前の全体の質量と、とかした後の全体の質量は変わらない。

物質が水にとけるようすはモデルで表すとわかりやすい。

㉑水溶液の濃度(思考・判断・表現) イ・ウ

物質を水にとかしたとき、その濃さは同じ質量の溶液にとけている溶質の質量によって変わる。

溶液の濃度は、溶質の質量が溶液全体の質量の何%にあたるかで表すことができ、それを質量パーセント濃度という。

㉒㉓ろ過のしかた(主体的に取り組む態度, 知識・技能) イ・エ

水にとけている物質はろ紙の穴を通り抜けるが、とけていない物質はろ紙の穴を通り抜けることができない。

これを利用して、とけている物質ととけていない物質を分けることができる。

㉔物質が水にとけるようす(知識・技能) イ・ウ

水にとかしてしばらく置いておくと、透明になるものにとごったり、底にしずんだりするものに分かれる。

第二章 気体の性質

⑧⑨⑩⑪身のまわりの気体の性質(主体的に取り組む態度, 知識・技能, 思考・判断・表現) ウ・エ

固体や液体と同様に、気体にも特有の性質がある。その性質の違いを利用して気体も見分けることができる。日常ではそれらを理解して、日常生活に役立てている。

第一章 身のまわりの物質とその性質

身のまわりの物質は金属、非金属、無機物、有機物に分類することができる。このような性質を調べることで、物質を見分けることができる。私たちは日常生活でさまざまな物質を分別している。

③④金属の種類の見分け方

(思考・判断・表現) ウ

それぞれの金属は密度が決まっているので、密度を調べることで金属を特定することができる。

⑤⑥⑦白い粉末の見分け方(思考・判断・表現) ウ・エ

手ざわりや粒のようすだけでなく、燃やしたときの様子の違いでも見分けられる。物質は有機物と無機物に分けられる。

②金属と非金属の見分け方(知識・技能) ウ・エ

金属には、電気をよく通すという共通の性質がある。その他にも金属光沢、熱をよく伝える、延性・展性などがある。

①物体と物質の定義(主体的に取り組む態度, 知識・技能) ア・ウ

物体は外観、物質はその物質の材料を示すものであり、同じ物体でも異なる物質で作られているものがある。

【単元を通して広め、深める科学的な見方や考え方】
世の中にはいろいろな物質があり、それぞれに特有の性質がある。その性質を理解し、実験を行えば、目の前の物体がどんな物質で構成されているのかを明らかにすることができる。また、同じ物質でも異なる状態が存在することがあり、自分たちは無数の物質の中で生活するとともに、物質の性質や状態を利用して生活している。

【理科で大切にしたい姿】
キーワード「つなぐ」
・課題と
・これまでの学習と
・他教科と(ア)
・日常と(ウ)
・仲間と考えと
・これからの学習と
・自分自身と(イ)
・教科特有の事象と(エ)

これまでの学習との関連

- 「物と重さ」、「磁石の性質」、「電気を通り道」 (小学校第3学年)
- 「金属、水、空気と温度」 (小学校第4学年)
- 「物の溶け方」 (小学校第5学年)
- 「燃焼の仕組み」 (小学校第6学年)

単元導入時における生徒の意識, 姿

身のまわりには、いろいろな物質があり、それぞれに特有の性質をもっている。そして、それらを調べる方法がある。

1 単元名

身のまわりの物質とその性質

2 本時のねらい

実験結果をもとに混合物の中にアルコールが残っているのかを考察する活動を通して、混合物には性質の違ういくつかの粒子が混じっていて、沸点の違いを利用して一つの物質を取り出せることに気づき、モデル等を使って蒸留の方法を説明することで、みりんを使った料理を食べても問題ないことを説明することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

実験の結果から考察する場面では、モデル等を使って3本の試験官の結果の違いやフラスコ内で起きていることについて、微視的に説明している。

4 本時の展開案（25／25）

学習活動	指導・援助
つかむ 1. 日常の料理にみりんが使われていることについて考える。 ・アルコールが入っているのに食べても大丈夫か。 課題 みりんを使った料理を、私たち未成年でも食べても問題ないのはなぜだろうか。 2. 予想を立てる。 ・加熱をするとアルコールだけが沸騰するのでは。 3. グループごとに実験を行う。 4. 結果を記録する。 <以上 前時>	《焦点化された学習課題の設定について》 ・身近な調味料にアルコールが含まれていることに着目し、日常生活から課題化することで、学習の見通しと意欲をもたせる。 《学び合いの場のねらいについて》 ・考察の場面では、表現方法が多種多様にわたることが予想される。自分と違う表現方法をしている生徒と交流することで、自分の考えをさらに深めさせる。
深める 5. グラフを作成し、結果の交流を行う。 ・1本目には火がついた。3本目はつかなかった。 ・2本目は少しだけついた班とつかなかった班があった。燃え方が1本目よりはっきりしなかった。 6. 実験結果から考察をする。 ・1本目は火がつき、においもあったのでエタノールが含まれている。 ・3本目は火がつかないので水である。 ・2本目は火のつき方が班によって違うので、水とエタノールが両方混じっている。 ・1本目の温度は78℃くらいで、3本目の温度は90℃を超えていたので、沸点の低いエタノールが先に沸騰していた。 7. 本時のまとめをする。 まとめ 《終末における生徒の姿》 ・水とエタノールの混合物は沸点の違いを利用して分けることができる。先にエタノールが沸騰して空気中に出て行ってしまうので、料理にエタノールは残ってないので食べても問題ない。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・2本目のモデルは班によって粒子の割合が違っていることや、1本目・3本目の粒子が混合のモデルで表している生徒を取りあげて、その意味を問い返したり、表現の仕方を価値付けたりする。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・フランベの様子を見せて、料理をするときにアルコールを飛ばしているから食べても問題ないことを実感させる。 ・原油は灯油やガソリン、重油、軽油などの混合物であることを提示し、沸点の違いを利用してそれぞれの種類に分け、日常でも利用されていることに気付かせる。 評価規準 【思考・判断・表現】 実験の結果について、自分の表現方法を使って考察し、みりんを使った料理を食べても問題がないことを説明することができる。 （評価方法） ノートの記述、生徒の発言内容

単元構造図 第3学年『運動とエネルギー』 全29時間

単元終了時における生徒の意識

物体の運動にはいつも力がかかっている。速さと向きに注目すれば、あらゆる運動を表現することができるようになった。自分が走ることができるのは、地面をける自分と地面から押し返されるという関係があるからだ。ある物体の様子が分かれば、持っているエネルギーが見えるようになった。身の回りの道具は、エネルギーを効率よく利用するためにある。

第三章 エネルギーと仕事

- 28②④エネルギーの変換と保存（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）ア・エ
人間はいろいろな方法で発電し、電気エネルギーを生み出し、それを変換して利用している。発生するロスを減らし、変換効率を向上させることが今後の課題である。
- 26②⑦仕事の原理と仕事率（思考・判断・表現）イ・ウ
滑車やてこなど、身のまわりの道具を使うと、小さな力で物体を動かすことができる。移動する距離を含めて考えると、仕事としては同じ大きさになっている。
- 24②⑤力学的エネルギー〔本時〕（思考・判断・表現）イ・ウ
ジェットコースターが坂を下る前と最下点では、物体の様子は全く違うが、位置エネルギーと運動エネルギーの総和である力学的エネルギーは変化していない。
- 22②③運動エネルギー（知識・技能）イ・ウ
運動エネルギーは、質量が大きいほど、速さが速いほど大きくなる。ボウリングで効率よくストライクを取るには、質量が大きいだけではなく、速さも出す必要がある。
- 20②④位置エネルギー（思考・判断・表現）イ・ウ
位置エネルギーは、質量が大きいほど、位置が高いほど大きくなる。落石や落下物が危険なのは、位置エネルギーが大きくなるからである。
- 18②⑨仕事とエネルギー（知識・技能）ア・エ
物体に力を加えて移動したとき、「仕事をした」と表現する。物体が仕事をすることができる状態にあるとき、その物体はエネルギーをもっている。

生徒の意識
ボウリングでピンを倒すことができるのは、物体がエネルギーをもっているからだ。位置や速さ、質量が分かれば、そのエネルギーの大きさが見えるようになった。身のまわりの道具には、小さな力で物を動かしたり、効率よくエネルギーを取り出したることができる工夫が詰まっている。

第二章 力のはたらき方

- 16②⑦水中ではたらく力（思考・判断・表現）ア・ウ
水中では、水圧の差によって浮力が生じる。だから、プールや海では体が軽く感じ、浮くことができる。水圧は水深が深いほど大きくなる。
- 14②⑤作用・反作用の法則（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）イ・ウ
速く走るために地面を強く蹴るのは、作用・反作用の法則を利用し、地面から受ける力を大きくして体を前に進めるためである。
- 12②③慣性の法則（思考・判断・表現）イ・ウ
運動する台車の上でジャンプしたとき、同じ場所に着地できる。運動している物体はそのままの速さで等速直線運動をし続けようとするからであり、慣性の法則という。
- 9②⑩⑪力の合成と分解（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）ア・エ
物体にはたらく複数の力を合成したり、ひとつの力を複数の力に分解したりすることで、運動の様子と力を関係付けて考えることができる。

生徒の意識
電車が止まるときに体が前に倒れそうになるのは、物体が慣性をもつからなんだ。走るときに地面をけることを意識するのは作用・反作用の法則があるからだ。

第一章 物体の運動

- 7②⑧だんだんおそくなる運動（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）イ・ウ
斜面を上る台車はだんだんおそくなり、いずれ止まる。これは、台車が上る向きとは逆の斜面下向きに一定の力がはたらいっているからである。
- 5②⑥だんだん速くなる運動（思考・判断・表現）イ・ウ
斜面を下る台車はだんだん速くなる運動をしている。これは、斜面下向きに一定の大きさの力がはたらいっているからだ。傾きが大きくなると、速さが増加する割合が大きくなる。
- 4②④物体の運動の速さの変化（知識・技能）ア
ある距離を一定の速さで移動したと考えたとき、それを平均の速さという。一方で、時間の変化に応じて、刻々と変化する速さを瞬間の速さという。
- 2②③水平面上での運動（思考・判断・表現）イ・ウ
記録テープを並べることで、運動の様子を調べられる。水平面上では、物体に加える力を大きくすることで、0.1秒ごとの移動距離は長くなる。
- 1②①物体の運動の記録（知識・技能）エ
運動を記録するために、物体に取り付けた記録テープと記録タイマーを用いる。タイマーによる打点の間隔には、1/60秒で移動した距離が記録されている。

生徒の意識
運動は、物体の速さと向きで表現することができる。進む向きにいつも力がはたらいっているわけではなく、はたらいっていないから、そのまゝの状態を継続しているんだ。

【理科で大切にしたい姿】キーワード「つなぐ」
・課題と・これまでの学習と・仲間の考えと・これからの学習と
・他教科と（ア）・自分自身と（イ）・日常と（ウ）・教科特有の事象と（エ）

これまでの学習との関連

- 風とゴムの力の働き（小学校第3学年）
- 振り子の運動（小学校第5学年）
- てこの規則性（小学校第6学年）
- 力のはたらき（中学校第1学年）
- 気象とその変化（中学校第2学年）

単元導入時における生徒の意識、姿

日常生活の中では、目には見えないけど、様々な力がはたらいっている。また、力のつり合いなど、様々な力の法則を利用して生活している。

物体に力を加えると動いたり変形したりすることは経験則からも分かっているが、加減速などの規則性までは分からない。また、漠然とエネルギーというものが存在し、利用していることは分かるが、具体的にエネルギーとは何かは分からない。

1 単元名

運動とエネルギー

2 本時のねらい

レールの傾きを変えて斜面から小球を転がし、木片に当てる実験を通して、斜面の傾きによって速さと木片の動く距離の関係が変わらないことに気づき、力学的エネルギーは物体の質量と位置の高さによって決まることを説明することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

目に見えない「エネルギー」を木片の動いた距離をもとに数値化して捉えている。また、日常生活の中で学びを実感する瞬間を生み出すとともに、日常生活の中で学びを深めている。

4 本時の展開案（25/29）

学習活動		指導・援助
つ か む	1. 事象提示を行う ○傾きの違う2つのレールを提示する。 ・急な方が勢いがありそう。・緩やかな方は弱そう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・日常生活とつなげ、「あれっ」と思わせる事象から課題化を行うことで、素朴概念との違和感と学習意欲を生み出す。
	課題 レールの傾きを変えたとき、小球のもつエネルギーはどうなるのだろう。	・実験では、条件統一を意識して、常に同じ高さから行う。グループごとに使う小球を選択して行い、違う質量の小球の結果も共有する。
	2. 予想をする ・急な方が大きなエネルギーをもつ。・変わらない。	《学び合いの場のねらいについて》 ・違う質量の小球の結果も合わせて考察したり、既習事項とつなげて考察したりするなど、自分とは違う考えを取り入れ、視点を広げ、学びを深める。
	3. 実験を行う ・傾きを変える。高さを変えないよう、条件統一。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・考察では、必要に応じて机間指導で「傾きが変わったとき、小球の動く距離はどう変わるのか」「既習事項とつなげると、エネルギーに関係があるのは」と問う。また、全体で意図的指名をして、その考えを広げる。
深 め る	4. 結果をまとめる ・傾きを変えても木片の動く距離は同じ。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・日常につないで考えることで、日常の中でも同様に、物体のもつエネルギーについて考えることができる。
	5. 考察を行う ・傾きは、小球のもつエネルギーに関係がない。 ・傾きが大きいと、加速度は大きいはずだけど…。 ・高さが変わらないので、緩やかな方はその分走る距離が長い。→その分加速し、衝突する瞬間には速さが同じになる。	
ま と め る	6. 交流を行う ・高さと質量がエネルギーに関係するのか。 ・高さ→速さになっている。	
	7. まとめをする 《終末における生徒の姿》 ・レールの傾きを変えても、木片の動く距離と衝突時の速さが変わらなかったから、小球のもつエネルギーは変わらない。 ・高さと質量が物体のもつエネルギーに関係し、衝突の瞬間には高さが0になり、その分速さになっているんだ。	【思考・判断・表現】 斜面の傾きによって物体のもつエネルギーは変わらず、始めの高さと物体の質量によって物体のエネルギーが決まることを説明している。 （評価方法） ノートの記述、生徒の発言内容
	8. 日常につなぐ ・ジェットコースターでは…。・高いところから自転車…。・ウォーターライダーや滑り台は…。	

単元構造図 第1学年『身のまわりの現象』全22時間

単元終了時における生徒の意識

人間は、様々な物理現象の中で生活をしている。そして、現象には規則性があり、その規則性を自分たちは利用して生活している。また、光、音、力などの現象が今の自分たちには見える。

第三章

力の世界

- ②浮いている磁石の質量は？（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）イ、ウ、エ
磁石が浮いているから質量を測ることができないとするのではなく、まずは力を書き込んでみよう。そうすると、はかりに2つ分の力が働いているのだから、質量の数値は2つ分になる。
- ②綱引きってどんな競技なのか？（思考・判断・表現）イ、ウ
綱にお互いが力を加えたとき、物体が静止することがある。これは力が釣り合っているからだ。物体に対してはたらく力について考えれば、その現象が起きる理由を説明することができる。
- ⑨⑩力の大きさとばねののびの関係（思考・判断・表現）ア、イ、ウ
ばねに加える力を大きくするほど、ばねののびは大きくなる。そして、力とのびには比例の関係がある。また、ばねの種類によってのび方に違いがある。
- ⑩力のはかり方（知識・技能）イ、ウ
物体にはたらく力は、ばねばかりを使って測定することができ、力の大きさはニュートン（N）で表すことができる。
- ⑩⑪⑫身のまわりの力（思考・判断・表現）イ、ウ、エ
身のまわりには、重力や摩擦力といった様々な力が物体に対してはたらいている。自分の「歩く」という行動一つとっても、自分が加える力や、はたらく力があるからできることなんだな。
- ⑭力の表し方（知識・技能）イ、ウ、エ
力は「力のはたらく点」「力の向き」「力の大きさ」の3つの要素で考える。また、力は矢印で表し、作用点、矢印の向き、矢印の長さで3つの要素を表すことができる。
- ⑬日常生活の中の力（知識・技能）イ、ウ
力には3つのはたらきがある。身のまわりで、どれか一つでも起きていれば、その物体に対して何か力がはたらいているということだ。

生徒の意識
物体が形を変えたり、運動の状態が変化したり、地球上で物体が静止している場合、必ず何か力がはたらいている。今までは目に見えなかった「力」について考えることで、多くの物理現象の仕組みを説明することができるようになる。「今自分が椅子に座っているから自分にはたらく重力と、垂直抗力が釣り合っているからだ。」

第二章

音の世界

- ⑫弦楽器（知識・技能）イ、ウ
チューニングとは、弦の張りを調整することだと分かった。また、はじく強さを変えれば振幅が変わり、音の大きさを変えられる。これが弦楽器の仕組みなんだな。
- ⑩⑪音の性質（思考・判断・表現）イ、ウ、エ
音の正体は物体の振動であるため、音の高低や大小は振動の仕方に関係があるはずだ。オシロスコープを使って実際に見てみると、振動の数と大きさがそれぞれ関係していると分かった。
- ⑨音の伝わり方（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）イ、ウ
糸電話、おんさ、水面の様子から、音は振動であり、物体を伝わって最終的に鼓膜に届く。

生徒の意識
今の自分たちには音が目に見える。誰かののどが振動している。それが空気を伝わってきて、声で物体を壊すことは可能なのかもしれない。日常の中では、光と音が同時に発せられることが多い。光と音がそれぞれ伝わり方で自分のもとに届いているんだな。

第一章

光の性質

- ⑦⑧レンズのはたらき（知識・技能）イ、ウ、エ
ルーベを使うと物体の大きさや向きが変化するのは、光が屈折することによって、光が反対側に集まったり、光が集まる位置が変化したりするからだ。
- ⑥レンズを使うと紙を燃やせるのはなぜ？（知識・技能）イ、ウ
凸レンズを通る光が一点に集まっている。だから温度が上がるし、レンズを通して太陽を見てはいけないうんだな。
- ④⑤光の屈折【本時】（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）ウ、エ
ガラスの中で反射は起きているが、光が通り抜けている。このとき、光は角度を変えている。前時の光ファイバーは、限られた角度で起きる全反射を利用している。
- ②③光の反射（思考・判断・表現）ウ、エ
光は鏡などの物体に当たると反射する。そして、進み方を変えた光が目へ届くため、視野の外の世界を見ることが出来る。光ファイバーから光は漏れないのかな…。
- ①物の見え方（知識・技能）イ、ウ
光には直進性がある。また、物質を見ることが出来るのは、光源から出た光や、反射した特定の色の光が自分の目に届くからである。

生徒の意識
黒板が緑色に見えるのも、緑の光が反射して自分の目に届いているからだ。水面で太陽の光が反射してまぶしい。光ファイバーやレンズは光の反射や屈折を利用した道具なんだな。

「理科で大切にしたい姿」
キーワード「つなぐ」
・課題と
・仲間の考えと
・他教科と（ア）
・日常と（ウ）
・これまでの学習と
・これからの学習と
・自分自身と（イ）
・教科特有の事象と（エ）

これまでの学習との関連

- 風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質
電気の通り道（小学校第3学年）
- 電流の働き（小学校第4学年）
- 振り子の運動、電流がつくる磁力（小学校第5学年）
- てこの規則性、電気の利用（小学校第6学年）

単元導入時における生徒の意識、姿

光が反射することや、音が振動であることは知っている。また、日常生活と密接なつながりがある単元だと思う。
光、音、力などは目に見えない現象が多く、実際に何が起きているのか、自分がどのように現象を認識しているのかは分からない。

身のまわりの現象

光が水中から空気中へどう進むのか調べる実験を通して、水と空気の境界面で光の進み方が変化することに気づき、空気中から見たときの物体の位置と水中での実際の位置にずれが生じる理由を説明することができる。

日常との関連性を実感し、自ら日常の中で新しい発見をしたり課題を見出したりするなど、科学的に探究している。

学習活動	指導・援助
つかむ 1. 事象提示を行う ○空気中から水中の魚模型を突くことができるか。 課題 空気中から見たときの物体の位置と水中での実際の位置にずれが生じているのはなぜだろうか。 2. 予想をする ・水中から出た光が空気中に出ていく際、折れ曲がる。 3. 実験を行う ・光学用水槽を用いて、水中から空気中への光の進み方を調べて記録する。 4. 結果をまとめる ・水中から空気中へななめに入射した光は境界面で水面側に折れ曲がった。 5. 考察を行う ・水中での実際の位置にある物体から出た光が、空気との境界面で折れ曲がり、目に届いているので、位置がずれて見える。 ・空気中から見たときの物体の位置(見かけの位置)は、水中での実際の位置よりも少し上である。 6. 交流を行う 7. まとめをする	《焦点化された学習課題の設定について》 ・空気中から見えている水中の魚模型を棒で突こうとするが、当たらないという事象から疑問をもたせ、課題を追究していく意欲を高める。 《学び合いの場のねらいについて》 ・全体交流では、水中から空気中への光の進み方と水中での物体の見かけの位置をつなげて考えている生徒を意図的に指名する。また、「〇〇さんの考えに対してどう思う」などと全体に問い返し、仲間の考えについて交流することによって、自分の考えを深めさせる。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・机間指導にて、光の進み方は理解しているが、物体の見かけの位置を表すことができていない生徒に対して、見かけの位置を図のどこに表すことができるか問いかけることで、学びを促進させる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・終末にて、改めて空気中から水中の魚模型を突かせる。空気中から棒で突く角度を変えることで、水中の魚模型に当てることができ、学びを実感させる。
深める 《終末における生徒の姿》 ・空気中から見たとき、物体の見かけの位置と水中での実際の位置にずれが生じる理由は、水と空気の境界面で光が屈折するためである。見かけの位置は実際の位置よりも少し上である。 ・光の進み方と物体の見え方について規則性を見出すことできた。コップの中のストローが折れ曲がって見えることなどにも関係しているのではないか。 まとめる	評価規準 【思考・判断・表現】 空気中から見たときの物体の位置と水中での実際の位置にずれが生じる理由について、光の進み方の変化をもとに、説明している。 (評価方法) ノートの記述、生徒の発言内容

単元構造図 第3学年『運動とエネルギー』 全29時間

単元終了時における生徒の意識

物体の運動にはいつも力がかかっている。速さと向きに注目すれば、あらゆる運動を表現することができるようになった。自分が走ることができるのは、地面をける自分と地面から押し返されるという関係があるからだ。ある物体の様子が分かれば、持っているエネルギーが見えるようになった。身の回りの道具は、エネルギーを効率よく利用するためにある。

第三章 エネルギーと仕事

⑳㉑エネルギーの変換と保存（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）ア・エ
人間はいろいろな方法で発電し、電気エネルギーを生み出し、それを変換して利用している。発生するロスを減らし、変換効率を向上させることが今後の課題である。

㉒㉓仕事の原理と仕事率〔本時〕（思考・判断・表現）イ・ウ
滑車やてこなど、身のまわりの道具を使うと、小さな力で物体を動かすことができる。移動する距離を含めて考えると、仕事としては同じ大きさになっている。

㉔㉕力学的エネルギー（思考・判断・表現）イ・ウ
ジェットコースターが坂を下る前と最下点では、物体の様子は全く違うが、位置エネルギーと運動エネルギーの総和である力学的エネルギーは変化していない。

㉖㉗運動エネルギー（知識・技能）イ・ウ
運動エネルギーは、質量が大きいほど、速さが速いほど大きくなる。ボウリングで効率よくストライクを取るには、質量が大きいだけでなく、速さも出す必要がある。

㉘㉙位置エネルギー（思考・判断・表現）イ・ウ
位置エネルギーは、質量が大きいほど、位置が高いほど大きくなる。落石や落下物が危険なのは、位置エネルギーが大きくなるからである。

㉚㉛仕事とエネルギー（知識・技能）ア・エ
物体に力を加えて移動したとき、「仕事をした」と表現する。物体が仕事をすることができる状態にあるとき、その物体はエネルギーをもっている。

生徒の意識
ボウリングでピンを倒すことができるのは、物体がエネルギーをもっているからだ。位置や速さ、質量が分かれば、そのエネルギーの大きさが見えるようになった。身のまわりの道具には、小さな力で物を動かしたり、効率よくエネルギーを取り出し、利用することができる工夫が詰まっている。

第二章 力のはたらき方

㉜㉝水中ではたらく力（思考・判断・表現）ア・ウ
水中では、水圧の差によって浮力が生じる。だから、プールや海では体が軽く感じ、浮くことができる。水圧は水深が深いほど大きくなる。

㉞㉟作用・反作用の法則（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）イ・ウ
速く走るために地面を強く蹴るのは、作用・反作用の法則を利用し、地面から受ける力を大きくして体を前に進めるためである。

㊱㊲慣性の法則（思考・判断・表現）イ・ウ
運動する台車の上でジャンプしたとき、同じ場所に着地できる。運動している物体はそのままの速さで等速直線運動をし続けようとするからであり、慣性の法則という。

㊳㊴力の合成と分解（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）ア・エ
物体にはたらく複数の力を合成したり、ひとつの力を複数の力に分解したりすることで、運動の様子と力を関係付けて考えることができる。

生徒の意識
電車が止まるときに体が前に倒れそうになるのは、物体が慣性をもっているからだ。走るときに地面をけることを意識するのは作用・反作用の法則があるからだ。

第一章 物体の運動

㊵㊶だんだんおそくなる運動（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）イ・ウ
斜面を上る台車はだんだんおそくなり、いずれ止まる。これは、台車が上る向きとは逆の斜面下向きに一定の力がはたらいているからである。

㊷㊸だんだん速くなる運動（思考・判断・表現）イ・ウ
斜面を下る台車はだんだん速くなる運動をしている。これは、斜面下向きに一定の大きさの力がはたらいているからだ。傾きが大きくなると、速さが増加する割合が大きくなる。

㊹物体の運動の速さの変化（知識・技能）ア
ある距離を一定の速さで移動したと考えたとき、それを平均の速さという。一方で、時間の変化に応じて、刻々と変化する速さを瞬間の速さという。

㊺㊻水平面上での運動（思考・判断・表現）イ・ウ
記録テープを並べることで、運動の様子を調べられる。水平面上では、物体に加える力を大きくすることで、0.1秒ごとの移動距離は長くなる。

㊼物体の運動の記録（知識・技能）エ
運動を記録するために、物体に取り付けた記録テープと記録タイマーを用いる。タイマーによる打点の間隔には、1/60秒で移動した距離が記録されている。

生徒の意識
運動は、物体の速さと向きで表現することができる。進む向きにいつも力がはたらいていないから、そのまわの状態で継続しているんだ。

【理科で大切にしたい姿】キーワード「つなぐ」
・課題と
・他教科と（ア）
・自分自身と（イ）
・日常と（ウ）
・教科特有の事象と（エ）
・これまでの学習と
・仲間の考えと
・これからの学習と

これまでの学習との関連

- 風とゴムの力の働き（小学校第3学年）
- 振り子の運動（小学校第5学年）
- てこの規則性（小学校第6学年）
- 力のはたらき（中学校第1学年）
- 気象とその変化（中学校第2学年）

単元導入時における生徒の意識、姿

日常生活の中では、目には見えないけど、様々な力がはたらいている。また、力のつり合いなど、様々な力の法則を利用して生活している。

物体に力を加えると動いたり変形したりすることは経験則からも分かっているが、加減速などの規則性までは分からない。また、漠然とエネルギーというものがあるが、利用していることは分かるが、具体的にエネルギーとは何かは分からない。

1 単元名

運動とエネルギー

2 本時のねらい

滑車を利用しておもりを持ち上げる実験を通して、滑車を使うとおもりを引く力や引く距離、引く向きが変わることに気づき、動滑車でも定滑車でも「仕事の量」としては変わらないことや滑車を使う利点について説明することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

引く力を定量的に調べることで、滑車を使用したときとそうでないときの違いを根拠をもって説明している。定滑車を利用すると引きやすい向きに変えられることや動滑車を利用すると小さな力で持ち上げられるという利点を、身の回りの道具に活用されていることとつなげている。

4 本時の展開案（26／29）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 砂袋を「直接持ち上げる様子」と「滑車を利用して持ち上げる様子」を観察し、課題を見出す。 - 滑車を利用すればより小さな力で持ち上げることができるのかもしれない。 - 定滑車と動滑車ではそれぞれ動き方が異なるから役割も変わってくるのではないか。	《焦点化された学習課題の設定について》 滑車を使って荷物を持ち上げる体験をすることで、滑車を使うと軽く感じることに疑問をもたせ、感覚ではなく定量的に調べて明らかにしたいという意欲をもたせる。
	課題 同じ物体を持ち上げているのに、滑車を利用すると軽く感じるのはなぜだろうか。	《学び合いの場のねらいについて》 力が小さくなったことだけでなく、引く距離や仕事の大きさにも関係付けられている生徒に発言を促すことで、調べる視点を増やしたり、考察を充実させたりする。
深める	2. 課題を解決する方法を基に実験を行う。 「直接引き上げる（A）」、「定滑車を利用して引き上げる（B）」、「動滑車を利用して引き上げる（C）」に分けて実験を行い、表に整理する。 3. 実験から得られた結果を基に考察する。 4. 考察を交流し、全体で考えを共有する。 - 動滑車を使うと力は小さくなったが、ひもを引く距離は長くなるため、仕事の大きさは変わらない。 - 定滑車は必要な力の大きさもひもを引く距離も変わらないが、力の向きを変えることができる。	《学びを促進させる教師の出場について》 - 引く力だけに注目している生徒には、引く距離に目を向けられるように声をかける。 - どの実験も同じ荷物を同じ高さにまで移動させていることを押さえ、単に力が小さくなっただけではないことに気付けるようにする。 - 引く力も引く距離も定滑車は変わらないにもかかわらず、利用されていることに触れ、引く向きを変えるのに役立っていることに気付かせる。
	5. クレーンの構造について説明をし、滑車を増やしたときの力と引く距離について考える。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 クレーン車の例を示し、動滑車を増やすと引く力の大きさはより小さくなり、引く距離はより長くなるのではないか、という見通しをもたせる。
まとめる	《終末における生徒の姿》 - 滑車を使っても仕事の大きさは変わらないんだ。 - 動滑車を使うと、小さい力で物を動かすことができる。定滑車は、引く向きを変えて自分の体重をかけられるため、引きやすくなる。滑車は効率よく物を動かすために非常に便利である。 - 複数の滑車を使うと、より小さい力で済むのか実験で確かめたい。	【思考・判断・表現】 動滑車を使うと引く力が小さくなり、定滑車を使うと引く向きが変わるが、仕事の量は変化しないことを説明している。また、滑車を使う利点を表現している。 （評価方法） ノート記述、生徒の発言内容
		評価規準

単元構造図 第1学年『身のまわりの現象』全22時間

単元終了時における生徒の意識

人間は、様々な物理現象の中で生活をしている。そして、現象には規則性があり、その規則性を自分たちは利用して生活している。また、光、音、力などの現象が今の自分たちには見える。

第三章

力の世界

- ⑫浮いている磁石の質量は？（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）イ、ウ、エ
磁石が浮いているから質量を測ることができないとするのではなく、まずは力を書き込んでみよう。そうすると、はかりに2つ分の力が働いているのだから、質量の数値は2つ分になる。
- ⑭綱引きってどんな競技なのか？（思考・判断・表現）イ、ウ
綱にお互いが力を加えたとき、物体が静止することがある。これは力が釣り合っているからだ。物体に対してはたらく力について考えれば、その現象が起きる理由を説明することができる。
- ⑮⑯力の大きさとばねののびの関係（思考・判断・表現）ア、イ、ウ
ばねに加える力を大きくするほど、ばねののびは大きくなる。そして、力とのびには比例の関係がある。また、ばねの種類によってのび方に違いがある。
- ⑰力のはかり方（知識・技能）イ、ウ
物体にはたらく力は、ばねばかりを使って測定することができ、力の大きさはニュートン（N）で表すことができる。
- ⑱⑲身のまわりの力（思考・判断・表現）イ、ウ、エ
身のまわりには、重力や摩擦力といった様々な力が物体に対してはたらいている。自分の「歩く」という行動一つとっても、自分が加える力や、はたらく力があるからできることなんだ。
- ⑳力の表し方（知識・技能）イ、ウ、エ
力は「力のはたらく点」「力の向き」「力の大きさ」の3つの要素で考える。また、力は矢印で表し、作用点、矢印の向き、矢印の長さで3つの要素を表すことができる。
- ㉑日常生活の中の力（知識・技能）イ、ウ
力には3つのはたらきがある。身のまわりで、どれか一つでも起きていれば、その物体に対して何か力がはたらいているということだ。

生徒の意識
物体が形を変えたり、運動の状態が変化したり、地球上で物体が静止している場合、必ず何か力がはたらいている。今までは目に見えなかった「力」について考えることで、多くの物理現象の仕組みを説明することができる。「今自分が椅子に座っているから自分にはたらく重力と、垂直抗力が釣り合っているからだ。」

第二章

音の世界

- ⑫弦楽器（知識・技能）イ、ウ
チューニングとは、弦の張りを調整することだと分かった。また、はじく強さを変えれば振幅が変わり、音の大きさを変えられる。これが弦楽器の仕組みなんだ。
- ⑭⑭音の性質（思考・判断・表現）イ、ウ、エ
音の正体は物体の振動であるため、音の高低や大小は振動の仕方に関係があるはずだ。オシロスコープを使って実際に見てみると、振動の数と大きさがそれぞれ関係していると分かった。
- ⑱音の伝わり方（知識・技能、主体的に学習に取り組む態度）イ、ウ
糸電話、おんさ、水面の様子から、音は振動であり、物体を伝わって最終的に鼓膜に届く。

生徒の意識
今の自分たちには音が目に見える。誰かののどが振動して、それが空気を伝わってきて、それが物体を壊すことは可能なのかもしれない。日常の中では、光と音が同時に発せられることが多い。光と音がそれぞれ伝わり方で自分のもとに届いているんだ。

第一章

光の性質

- ⑦⑧レンズのはたらき（知識・技能）イ、ウ、エ
ルーペを使うと物体の大きさや向きが変化するのは、光が屈折することによって、光が反対側に集まったり、光が集まる位置が変化したりするからだ。
- ⑩⑩レンズを使うと紙を燃やせるのはなぜ？（知識・技能）イ、ウ
凸レンズを通る光が一点に集まっている。だから温度が上がるし、レンズを通して太陽を見てはいけないうんだ。
- ⑫⑫光の屈折（思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）ウ、エ
ガラスの中で反射は起きているが、光が通り抜けている。このとき、光は角度を変えている。前時の光ファイバーは、限られた角度で起きる全反射を利用している。
- ⑭⑭光の反射【本時】（思考・判断・表現）ウ、エ
光は鏡などの物体に当たると反射する。そして、進み方を変えた光が目にくため、視野の外の物体を見ることができる。光ファイバーから光は漏れないのかな…。
- ⑰物の見え方（知識・技能）イ、ウ
光には直進性がある。また、物質を見ることができるのは、光源から出た光や、反射した特定の色の光が自分の目に届くからである。

生徒の意識
黒板が緑色に見えるのも、緑の光が反射して自分の目に届いているからだ。水面で太陽の光が反射してまぶしい。光ファイバーやレンズは光の反射や屈折を利用した道具なんだ。

「理科で大切にしたい姿」
キーワード「つなぐ」
・課題と
・仲間の考えと
・他教科と（ア）・自分自身と（イ）
・日常と（ウ）・教科特有の事象と（エ）

これまでの学習との関連

- 風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質
電気の通り道（小学校第3学年）
- 電流の働き（小学校第4学年）
- 振り子の運動、電流がつくる磁力（小学校第5学年）
- てこの規則性、電気の利用（小学校第6学年）

単元導入時における生徒の意識、姿

光が反射することや、音が振動であることは知っている。また、日常生活と密接なつながりがある単元だと思う。
光、音、力などは目に見えない現象が多く、実際に何が起きているのか、自分がどのように現象を認識しているのかは分からない。

1 単元名

身のまわりの現象

2 本時のねらい

鏡に当てたときの光の道筋を調べる実験を通して、光源から出た光が鏡に反射して進路を変えることに気が付き、隣の人間が鏡に映って見える仕組みや反射の規則性について事実をもとに説明することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

日常の現象について考える過程で、生徒が自発的に規則性を見つけ、見つけた事実をもとに現象の仕組みを説明している。また、日常生活の中で理科の学びを実感する瞬間を生み出すとともに、新たな疑問を見出し、理科を通して解決に向かっている。

4 本時の展開案（2／22）

学習活動	指導・援助
つ 1. 鏡を使って周辺の物体を見る。 か ○なぜ鏡を使うと、隣の人を見ることができる？ む ・鏡で光が反射して、自分に光が届くからだと思う。 ○隣の人はどこにいるように見える？ ・鏡のこの辺り…鏡の向こう側って言えばいいかな。 ・鏡の中のこの辺…でも、実際はここにいないよね。 課題 鏡を使うと、隣の人を見ることがきるのはどうしてだろうか。 2. 自分の考えをもち、交流する。 3. 実験を通して追究する。 ・物体から出た光が鏡に当たると反射する。だから、自分のもとに光が届く。 ・鏡の中をのぞいてみると、鏡の向こうから物体が光を出しているように見える。だから、鏡の向こう側に物体があるように見えるのではないかな。 ・反射する角度に規則性がある。 4. 自分の考えを整理し、交流する。 ・○○さんの話したことってこういうことだよね。だから、隣の人を見ることができるし、鏡の向こうに物体があるように見えるんだね。 《終末における生徒の姿》 ・鏡に光が当たると、反射する。その光が自分に届くから隣の人を見ることができる。また、その光は、鏡に当たる前と後で同じ角度で反射する。 ・鏡の向こう側の世界をイメージすると、鏡の中から真っすぐに光が届くように見える。 5. 事象提示 ○光ファイバーの中で何が起きている？	《焦点化された学習課題の設定について》 ・日常生活で当たり前に利用している現象に疑問をもたせることで、学びの必然性を生み出し、日常生活の中で理科の学びを実感する姿を生み出す。 《学び合いの場のねらいについて》 ・全体交流を設定せず、自分の判断で仲間と交流する。また、全員が同じタイミングで交流をするのではなく、ノートに書いたり、交流したり、ノートに仲間の考えを書き足したりするなど、その場で自分に必要なことを選択しながら学ぶことができる姿を生み出す。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・生徒の気付きを全体に広める。その際に、結論を広めるのではなく、仲間の視点や結論に至るまでの過程を考えさせることで、自分と仲間の考えを練り合って学びを深める姿を生み出す。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・学びを振り返ることができるように、ノートに自分の考えを書く時間を十分に確保する。また、自分が話したことや仲間と交流したことを文章化し、新たな発見や考えが変容したことに気付かせる。 【思考・判断・表現】 実験から得られた事実をもとに、隣の人間が鏡に映って見える仕組みや、光の反射の規則性について説明することができる。 (評価方法) ノートの記述、生徒の発言内容

題材構想図（全6時間）

題材名

詩と曲の構成との関係を
生かして表現しよう。

題材の目標

- ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解することができる。
- ・音色、旋律、テクスチュアを知覚、感受し、それらの関わりについて考え曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。
- ・音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

題材の評価規準

【知識・技能】

- ①曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解できる。
- ②旋律、リズム、歌詞、音色、強弱、構成について知覚し、表したいイメージと関わらせて言葉で表現できるようにするとともに、創意工夫を生かした表現で歌うことができる。
- ③創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うことができる。

【思考・判断・表現】

音色、リズム、テクスチュア、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくったり歌ったりするかについて思いや意図をもつことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

題材学習前の生徒の意識

歌詞の内容が曲の雰囲気をつくっている。

第1時 曲の題名や歌詞から感じるメッセージ

からどのように歌いたいか思いをも
と
う。

ねらい：歌詞や旋律、リズムなどの音楽の要素を
絡めながら意図や願いをもつことができる。

共通事項【 旋律 リズム 】

〈評価規準〉音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、「春に」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】

第2・3・4（本時）・5時 旋律、リズム、

強弱を考えて歌い方を工夫しよう。

ねらい：強弱や曲想の記号と歌詞や旋律の
結びつきを感じ取り、歌詞の内容を
理解しながら表現することができる。

共通事項【旋律 リズム 強弱】

〈評価規準〉音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え「春に」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】

第6時 仲間の考えや歌い方を共有し理解して

表現しよう。

ねらい：音楽や歌詞から気付いたことを手掛かり
にどのように歌いたいかイメージをも
ち、場面ごとの曲想と詩の内容と関わ
らせて表現を工夫しようとしている。

共通事項【 テクスチュア 構成 】

〈評価規準〉「春に」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌おう。

題材学習後に生徒の学びが広まったり深まったりした姿

- ・歌詞の内容を理解し、イメージをつくりながら表現を工夫することで、曲想を深く理解することができた。
- ・歌詞の内容をより表現するために、音楽の要素が関わっていることがわかった。
- ・曲想と詩のつながりから曲のよさを感じ取り、作曲者の意図を汲み取って、自分たちで込められた思いを考えながら歌いたい。

1 教材名

春に

2 本時のねらい

場面ごとに詩や曲想に違いがあることに気付き、音楽を形づくっている要素と歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌うことができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

楽曲中の音楽の要素（リズム、旋律、強弱）に着目しながら、どのように歌唱表現をしたいのか思いをもち、仲間とその思いを共有して歌唱表現に生かそうとする。

4 本時の展開案（4／6）

学習活動	指導・援助
つ 1. 全体合唱をする。 か ○前時を想起しながら[A] [B] の部分を全体で歌い、 む [C] [D]を聞き、歌唱表現の見通しをもつ。 課題 [C]の部分の旋律、リズム、強弱に着目して、パートの役割を意識し「春に」にふさわしい歌唱表現を工夫して歌おう。 2. パート練習をしながら音楽の各要素と表現を結び付けて歌う。 ・9段目のテノールのパートと伴奏のテクスチャが感情の複雑さを表しているの、力強くfで表現しよう。 ・「こころ」のテヌートを生かしてfを丁寧に目立たせて歌おう。 深 3. 全体で交流をする。 め ・[B]が追いかけ合う重なりに対して[C]の「こころのダムにせき止められ」は、どのパートも同じリズムでハーモニーをつくっている。強弱記号もfだから、力強く歌いたい。 ・旋律の高まりは、様々な感情の入り組んだ感じを、心の中の感情を想起させながら歌いたい。 る 4. 振り返りをする。 ま ○全体で歌い、よいところや改善するところを交流する。 と ○ワークシートに本時の振り返りをする。 《終末における生徒の姿》 ・旋律・リズム・強弱が曲の山をつくっている。 ・「こころのダムに」の部分から気持ちの高まりを表現していると思う。なぜなら、旋律が大きな山となり、ゆったりとしているから。だからfでも強くだけではなく雄大に表現したい。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・旋律、リズム、歌詞、強弱を丁寧に見ていくことで作詞者、作曲者の思いや意図を知る。 ・各要素の仕掛け（クレッシェンドとともに速くしていく、pからfにするなど）をヒントにして、自分たちのこみ上げる気持ちを旋律にのせて歌えるようにする。 《学び合いの場のねらいについて》 ・詩と曲の構成の関係を調べて、それぞれの部分を対比させて表現の仕方を考える。 ・旋律、リズム、強弱と歌詞の関わりに着目できるように、視点を与えてピアノ伴奏を聴く。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・パートの重なりに着目させることで、他のパートの音を感じながら歌う意欲をもたせる。 ・「こころの～」と「よどみ～」を比較して、強弱や旋律をもとにフレーズのまとまりや変化について考え、曲想を意識して歌わせる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・合唱を録音して客観的に合唱を捉えさせることで、意図して工夫した点を実感させる。 【思考・判断・表現】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「春に」にふさわしい歌唱表現として、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 （評価方法） 発言、ワークシート

題材構想図（全7時間）

題材名

イメージと音楽の諸要素との関わりを感じ取り、表現を工夫しよう。

題材の目標

- ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解することで、音楽の感受の根拠を理解し、そのよさや美しさを味わいながら聴くことができる。
- ・音素材の特徴及び音の重なり方を理解することにより、構成を工夫した創作音楽をつくることができる。
- ・音楽の構造や歌詞の内容との関わりを考えることで、音楽の特徴を生かしながら工夫して歌うことができる。

題材の評価規準

【知識・技能】

- ①曲想と音楽の構造との関わりについて理解できる。
- ②音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について表したいイメージと関わらせて理解し、創作で表現できる。
- ③創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表現できる。

【思考・判断・表現】

音色、リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくったり歌ったりするかについて思いや意図をもっている。

【主体的に学習に取り組む態度】

曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、歌唱や創作表現を工夫しよう。

題材学習前の生徒の意識

曲想を捉えることはできても、根拠を聞かれるとどうしてかわからない。

【教材名 ジョーズのテーマ】 共通事項【音色 リズム テクスチャ 強弱 構成】

第1時 イメージをもたらし音楽の秘密を探ろう。

ねらい：音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

〈評価規準〉音楽から得られるイメージと音楽の特徴との関わりに関心をもち、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【知識・技能】

【教材名 Let's Create!】 共通事項【音色 リズム テクスチャ 強弱 構成】

第1時 イメージをもって音楽をつくろう。

ねらい：音素材の特徴を生かしながら、反復、変化、対照などを用いてイメージにあった音楽を創作することができる。

第2時 構成を工夫して、3つの場面の音楽をつくろう。

ねらい：表したいイメージをもち、創意工夫を生かして音楽をつくることができる。

〈評価規準〉音素材の特徴及び重なり方について、イメージと照らし合わせながら思いや意図をもって創作している。【思考・判断・表現】

【教材名 Let's Search For Tomorrow】 共通事項【テクスチャ 強弱 構成】

第1時 音楽の要素をもとに曲想を感じ取ろう。

ねらい：音楽の諸要素に着目しながら曲想を感じ取り、表現に対する思いや意図をもつことができる。

第2・3（本時）時 自分の思いや意図をもち工夫して歌おう。

ねらい：音楽や歌詞から気付いたことを手掛かりにどのように歌うか考え、歌うことができる。

第4時 表現の工夫を考え、各声部の声を聴いて歌おう。

ねらい：音楽や歌詞から気付いたことを手掛かりに、どのように歌うか考え、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うことができる。

〈評価規準〉曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌うことができる。

【知識・技能】

テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、思いや意図を仲間と伝えている。【思考・判断・表現】

題材学習後に生徒の学びが広まったり深まったりした姿

- ・音色、リズム、速度、旋律、強弱、テクスチャなど様々な音楽的諸要素が絡まることで、その曲のイメージをつかむことができるようになった。
- ・テレビや映画などでも使用されている音楽によって、感じ方が変わってくるのではないかと考えることができた。
- ・書いてある音楽記号をただ歌うだけでなく、どうしてその音楽記号があるのか必然性や音楽記号の裏に隠された作曲者の意図を読み取りながら歌うことができた。合唱祭の曲も作曲者の意図を汲み取り、自分たちで思いを考えながら歌いたい。

1 教材名

Let's Search For Tomorrow

2 本時のねらい

音楽や歌詞から気付いたことを手掛かりにどのように歌うか考える活動を通して、強弱・テクスチュアや構成に着目して曲に対する思いや意図をもち、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

創意工夫した表現で歌うために、曲に対する自分のイメージを膨らませたり、他者のイメージを共感したりして、音楽を形づくっている要素を手掛かりに表したい歌唱表現について考える。また、どのように歌うとよいか思いや意図をもてるよう、個人とグループで歌いながら考える時間を十分に確保する。

4 本時の展開案（3／4）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. パートの音を確認しながら全体合唱をする。 ○前時考えた工夫ポイントを試しながら歌ってみよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・根拠をもって願いや思いを考えることができるようにするために、課題の文に強弱・テクスチュアという単語を入れるようにする。
	2. 課題を確認する。	
	課題 強弱や音の重なり方に着目して、曲にあった歌い方を話し合いながら工夫して歌おう。	
	3. 強弱、テクスチュアに注目して気付いたことからどのように歌いたいか個人追求をする。	《学び合いの場のねらいについて》
	4. グループで交流し、歌いながら確かめる。	・活動3と4の場面では、個人で考える時間とグループで考える時間、その後に全体で時間を取り、視点を与えて交流することで、より深い思考へとつながられるようにする。
	・ 【D】 の歌い始めは急にpに変わるけれど、心の奥に眠っていた意思が強くなっていくことを表現したいので、弱々しくならないようにリズムに気をつけながら発音をはっきりして歌いたい。	・活動4の場面では、ソプラノ・アルト・テノールの各パートが2人以上いる8人グループを作り、歌いながら自分の思いや意図を話すことができるようにする。
	・ 【E】 の部分は、 【D】 の旋律の上がり方が跳躍進行になっているので、より希望ある未来へ向かうようにfで力強く歌いたい。また、リピート記号があるので、同じfでも2回目の方が強く固い意志をもったようにしたいので、声量を1回目は95dbで2回目は100dbになるように歌いたい。	《学びを促進させる教師の出場について》
	○2つのグループで中間交流をし、新たに気付いたことを取り入れましょう。	・活動3の場面において自力で考えることが難しい生徒には、教科書37ページの手掛かりとなる項目を見ながら考えるように声をかける。
	5. まどめの合唱をする。	・活動3の場面において 【B】 と 【D】 の旋律の上がり方について着目できるように促す。また、 【C】 と 【E】 の違いにも着目できるように促す。
	○全体で歌い、よいところや改善するところを交流し、ワークシートに本時の振り返りを記入しよう。	《生徒が学びを実感できるための手立て》
	《終末における生徒の姿》	・活動4において強弱のレベルがわかるように、数値化して表すように声をかける。
	・「今 旅立とう」からは急にpで弱くなるけれど、心の中で強い意志を持ち始め、 【E】 に向かえるようにはっきりと歌うとよいことが交流してわかったので、歌で表現できるようにしたい。	・活動4において中間交流を入れることで、新しい意見を取り入れることができるようにする。
	・「さあすばらしい 明日を さがしに行こう」の部分は 【B】 と同じ感じだと思っていたけれど、音の上がり方がレミファ#と一音ずつではなくレミラと一気に音が上がり、強弱もすぐ強くなるので、明るく力強く未来を見据えて歌えるように考えることができた。	《思考・判断・表現》
		強弱、テクスチュア、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、思いや意図を仲間に伝えている。
		（評価方法）
		発言、観察、ワークシート

使う人のことを考えてつくろう ～お菓子のパッケージデザイン～ 題材構造図 (全16時間)

●：題材の中の役割 ■：主な学習内容

※評価規準「主体的に学習に向かう態度」は、毎時間の評価規準とするため、表中では省略した。

●作品や制作を味わう時間

第16時 課題：仲間の作品や作品づくり（＝意図）のよさを見つけよう。

■作品の発表会を行う ■自分の作品や作品づくりの説明をする

【評価規準】（思考・判断・表現）

自分の作品や作品づくりの意図が伝わるように説明したり、仲間の作品や作品づくりの意図を聞いたりする。

◎題材の出口の生徒の意識や姿

デザインでは、それを使う人や必要としている人の気持ちや立場を考えて、色彩や形を考えることが大切だ。そういう目で自分の周りにあるものや事を見つめていけるようになる。

●美しく組み立てて作品を完成させる時間

第14時 課題：はさみ・カッターナイフを正しく使って美しく切断できる。

■はさみは根本に近い部分を使う

■カッターナイフの使用

【評価規準】（知識・技能）

道具を正しく使って、安全に切断する。

第15時 課題：折り目をしっかりとつけており、ボンドを使って美しく接着して完成させることができる。

■折り目をしっかりとつけて厚紙を折る

【評価規準】（知識・技能）

道具を正しく使って、安全に作品を仕上げる。

●アクリル絵の具の特性を理解して、計画にしたがって着色する時間

第9時 課題：アクリル絵の具の特性を理解し、平塗で美しく着色する方法を理解することができる。

■水：絵の具＝1：2 ■縁を塗ってから中を塗りつぶす

■描きやすい方向に作品を回す ■広い面積は2度塗り

■乾燥すると耐水性 ■混色と重色

【評価規準】（知識・技能）

平塗りの適切な水の量や順序、2度塗りの方法などを理解して着色する。

第10・11・12・13時 課題：アクリル絵の具の「乾燥すると耐水性になる」という特徴を生かして、着色の順序を考え、手際よく美しく着色できる。

■背景を塗った上に重ねていくことができる

■（できるだけ）明るい色から塗る

【評価規準】（知識・技能）（思考・判断・表現）

アクリル絵の具の特徴を生かして、着色の順序や方法の見通しをもって制作する。

●のりしろをつかって展開図を描く（写す）時間

第8時 課題：のりしろの役割を理解して、つくりたいパッケージの展開図を描くことができる。

■美しく組み立てるために必要なのりしろ ■6種類の展開図（＝パッケージ）の中から選択して写しても可

【評価規準】（知識・技能）

のりしろの役割とその重要性を理解し、つくりたいパッケージの展開図を正確に描く。

●アイデアを練る時間

第5時（本時）課題：自分で設定した買い手の情報（年齢層や性別・シチュエーション）をもとにして、大まかな印象や感じを考えてスケッチで表すことができる。

■年齢層や性別、シチュエーションの違いによって色彩や配色を考える

【評価規準】（思考・判断・表現）

買い手の情報に合わせたパッケージの色彩や配色を考えてスケッチに表す。

第6・7時 課題：つくりたいパッケージの形状を選択し、色彩や配色、文字や模様などを決定し、出来上がりを想定したスケッチができる。

■買い手の興味や関心を引くデザイン（絵や文字、色調）を考えてスケッチを完成させる

【評価規準】（思考・判断・表現）

パッケージの形状、開封方法、文字の字体など、より具体的なイメージでアイデアを練り、制作の見通しを明確にもつ。

●色の基礎的・基本的な知識を習得する時間

第1・2時 課題：色の三属性、対比、感情など、色に関する基本的な知識を習得できる。

■色相・明度・彩度 ■補色・類似色

■暖色・寒色・色の軽重・強弱 等

【評価規準】（知識・技能）

色彩や配色から受ける様々な感じに興味をもち、色彩にかかわる基本的な知識を習得する。

●つくってみたいお菓子のパッケージを考える時間

第3・4時 課題：買い手の年齢層や性別等を決めて、つくりたいお菓子やそのパッケージのイメージづくりができる。

■どんなお菓子でどんな味がする？

■キャッチコピーは？ ■名前は？

【評価規準】（思考・判断・表現）

前時の学習内容や自分の経験を生かして、つくってみたいパッケージのイメージを言葉に表し計画を練る。

1 題材名

使う人のことを考えてつくる ～お菓子のパッケージデザイン～

2 本時のねらい

自分で設定した買い手の情報（年齢層や性別・シチュエーション）をもとにして、パッケージの大まかな印象や感じをスケッチで表すことができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

色がもつ感情や配色による効果など、主に色彩にかかわる造形的な見方や感じ方・考え方を生かして、使う対象（＝買い手）のことを考えた構成をする。

4 本時の展開案（5／16）

学習活動	指導・援助
つ か む 1. 資料を使った話し合いから本時の課題をつかむ。 ○次のような「買い手の情報」から、どんなパッケージが想像できるでしょうか。 年齢層：60代～80代の男女 シチュエーション：昼下がりのおやつ。老夫婦で仲良く。 ・「和」を感じる落ち着いた印象がいいと思う。 →抹茶やあんこを連想させる黒や茶色を使おう。 →ネーミングも和風にしよう。漢字がいいかも。 →明朝体を使ったり、筆で描いたような文字にしたりしよう。 ・心がのんびり和むような配色がいいと思う。 →ふわっとしたパステルカラーを使おう。 課題 お菓子を食べるシチュエーションを想像して、パッケージのイメージを描いてみよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 (1) 生徒の自由な発想を大切に話し合いをする。考えの根拠を明確にして発言させる。 (2) 「色の感情」の既習内容を想起させ、用語にもこだわる。 (3) 話し合いの後半は「自分の作品はどう？」と問い返して考えさせることで課題を自分のものにさせる。 《学び合いの場のねらいについて》 ・共感的に聞き合うことで、自分の考えに客観性をもたせたり、自分が気付かなかった考えを得ることで、発想を広げ深めるきっかけにしたりする。 《学びを促進させる教師の出場について》 ※パッケージの形は6種類を準備。基本的にはその中から選択して制作する。 ※前時までにつかんだA～Cの予想される生徒の実態もとに机間巡視して個に応じる指導を行う。 A：設定した買い手の情報をもとに、明確な意図・想像力をはたらかせてスケッチしている。また、様々な角度から考え、いろいろと試している。 →パッケージの形や開封方法も考えさせる。また、同じような設定をしている仲間との交流を仕組む。 B：設定した買い手の情報をもとに、明確な意図・想像力をはたらかせてスケッチしている。 →様々な角度から考え、いろいろと試させる。 C：絵柄の細部に意識がいき、本時のねらいに近付けない。 →設定した情報を確認し、既習内容を思い出させながら相談・提案する。また、同じような設定をしている仲間との交流を仕組むことで、学び方に気付かせ実践につなげる。
深 め る 2. 設定した「買い手の情報」をもとにして、パッケージのイメージをスケッチに表す。 ・幼い子どもが楽しい気持ちになるように、明るい色をたくさん使おう。補色の関係を取り入れた配色にしよう。 ・10代の女性は、かわいい配色が好きそうだから、ピンクや水色などのパステル調の色を中心に配色してみよう。 ・大人っぽい感じを出すために、暗くて重い配色をして落ち着いた感じを出してみよう。類似色を取り入れよう。 ・同じようなシチュエーションを考えている〇〇さんに相談してみよう。 ま と め る 3. 本時「自分が何をしたか（学んだ過程）」を思い出し、学びの内容を確認する。 ○この時間にやったことを思い出してみましょう。途中でやり直したことや考え直したこと、迷ったことなども含めて、仲間と話してみましょう。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・本時、自分が何を考え、どう行動し、何を試みたのかを振り返らせる。その過程こそ「学び方を実践した姿」である。
《終末における生徒の姿》 ・つくりたいパッケージの、大まかな印象や配色をいろいろと考えて、スケッチすることができた。本制作に向けて、文字の種類や色、背景の配色など、さらに明確にしていこう。	【思考・判断・表現】 自分で設定した買い手の情報をもとにして、色の感情や性質の既習学習を使った大まかなスケッチをしている。 (評価方法) 活動の様子や作品で評価する

単元構造図

単元の学習を通して目指す、仲間と共に自ら学び続ける生徒の具体的な姿
チームで勝ちたいという目標を達成するために、自己やチームの課題を捉え、単元での学習や経験を生かし、攻防の仕方や練習方法を工夫して、仲間と連携しながら得点や勝利につなげることで、自己の変容や仲間と共に取り組んだよさを実感し、運動の楽しさや喜びを味わっている姿。

既習内容

- ・オーバーハンドパス
- ・アンダーハンドパス
- ・トス・カバー・三段攻撃
- ・相手コートのスペースをねらう動き

単元の目標

知識及び技能

ゲーム中の役割に応じて、パス・トス・スパイクなどボールを一連の動きで操作したり、ボールを持たない時の動きによって連携したりして、効果的な攻防を展開することができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

自己やチームの課題を見付け、攻防の仕方やボール操作、ボールを持たないときの動き、仲間との関わりなどから課題を解決するための作戦や練習方法を工夫し、考えを仲間伝えることができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

バレーボールに主体的に取り組み、相手を尊重したりチームに貢献したり仲間と共に学び合ったりして、誰もが楽しみながらプレイができるようにする。

○バレーボールの特性を理解し、楽しさを味わうこと
○勝利などの目的を達成すること
○試行錯誤して自己（チーム）課題を解決すること
○自分の成長を実感すること
○仲間と歩むよさを実感すること
○単元を通して味わえる運動の楽しさや喜び

第1時 オリエンテーション

ルールや学習内容を理解すると共に、試しのゲームを通して既習の想起や課題のもつことができる。

- ・ネットの高さは220cm
- ・サービスはアタックラインより後ろから（エンドラインより前で打つ場合はアンダーサービス）

- 生徒の意識
・去年学習した三段攻撃で攻められるようにする。
- ・スパイクで思いっきり決めたいな。

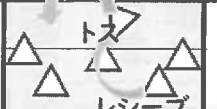
○主体的に学習に取り組む態度
単元の見通しをもち、バレーボールに積極的に取り組もうとしている。

第2時 三段攻撃

相手からのボールをセッターにレシーブしたり、3球目打ちやすいようにトスしたりする動きを身に付ける。

- 生徒の意識
・前やったように膝を曲げて面で合わせる感じだね。

- 知識・技能
安定したレシーブやトスをしている。

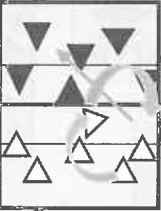


第3時 スパイク

セッターからのトスを、ネットより高い位置から相手コートに打ち込む動きを身に付ける。

- 生徒の意識
・ジャンプをするタイミングが大事だね。
- ・相手の正面よりスペースを狙った方がよさそう。

- 知識・技能
・タイミングよくジャンプし、高い打点でスパイクをしている。

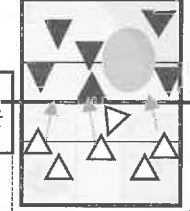


第4時 スパイク

セッターからのトスを、ネットより高い位置から相手コートのスペースへ打ち込む動きを身に付ける。

- 生徒の意識
・手も使って高く跳ぶといいぞ。
- ・相手コートのスペースに打つと取りづらそうだった。

- 知識・技能
高い打点で相手コートのスペースへスパイクをしている。



第5時 ブロック

相手の攻めをブロックして攻撃を防ぐ動きを身に付ける。

- 生徒の意識
・相手のスパイクを何とがして止めたいな。
- ・スペースをつくらないポジションも大事だね。

- 【オフザボール】
相手の打つコースに入ってブロック、カバー

- 知識・技能
役割に応じて相手のスパイクを防ぐためのブロックをしている。



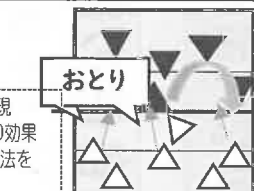
第6時 第7時 戦術

より効果的に攻防する方法を工夫することができる。

- 生徒の意識
・ブロックをかわしてスパイクができないか。
- ・みんなでスパイクを打つ準備をしよう。
- ・いろいろな攻め方ができたらいいな。

- 【より効果的に攻防する戦術】
○ブロックをかわして空いているスペースをねらう
- ・おとり
- ・フェイント
- 空いているスペースをカバーして相手の攻撃を防ぐ

- 思考・判断・表現
相手の状況から、より効果的に攻めやすい方法を工夫している。



第8時（本時）

自分のチームの課題に合った練習を工夫し、これまで学習した動きを生かして攻防するゲームができる。

- 生徒の意識
・自分のチームはスパイクの決定力が課題だから、ねらって打ちこむ練習をしよう。
- ・自分のチームはつながらないときがあるからカバーし合う練習をしよう。

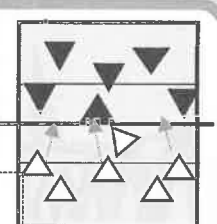
【オンザボール】

安定したレシーブ、トス、スパイク、サービス

【オフザボール】

次のボールに備える動き（準備姿勢、定位置に戻る、ボールに正対）、カバー、ポジションどり、相手を引き付ける動き

- 思考・判断・表現
自分（チーム）の課題を捉え、チームに合った練習を工夫している。



第9・10時

これまで学習してきたことを生かしてリーグ戦を行い、優勝を目指す。

- 生徒の意識
・最後のリーグ戦自分たちのベストを尽くすぞ。
- ・みんなで声を掛け合っていこう！

- 主体的に学習に取り組む態度
自分やチームのベストを出すと共に、相手を尊重して楽しくゲームをしている。

単元を通して身に付けたい具体的な動き

- 面を合わせてレシーブをする動き
- 次のプレーがしやすいトスを上げる動き
- ネットより高い位置からボールをコントロールして相手コートの空いているスペースに打ち込む動き

- 味方の移動で生じるスペースをカバーする動き
- ポジションに応じて相手を引き付ける動き

1 単元名

球技「バレーボール」

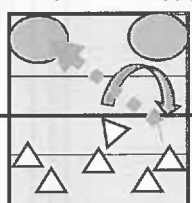
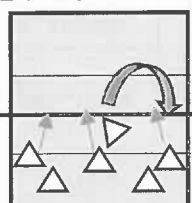
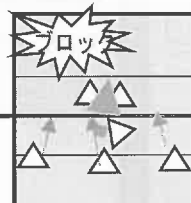
2 本時のねらい

チームの課題に合った練習を工夫し、これまで学習した動きを生かして攻防するゲームができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

バレーボールが有する楽しさ、体力の向上などの視点から、自己の適性に応じた多様な関わり方を見出していく。

4 本時の展開案（8／10）

	学習活動	指導・援助
つ か む	1. 準備・準備運動をする。 サービス、レシーブ、トス、スパイク 2. 全体、グループ計画会をする。 【既習内容】 ・アンダーハンドパス ・オーバーハンドパス ・サービス・スパイク ・ブロック・カバー ・効果的に攻めるための戦術 ①目指す姿の確認 【前時までの姿】 ②チームの課題の確認 【タブレット】 ③練習方法、ポイント、 個人課題の確認 課題 チームの課題に合った練習をして、勝利を目指そう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・本時は、チームの課題に合った練習をして、ゲームでの勝利を目指すことを目標としている。チームの課題を捉えるために、前時までのゲームの様子からうまくいかなかったことや課題を捉え、課題を解決するための練習方法やポイントを明らかにする。その際、掲示物や学習カード、ゲームの映像から前時までに学習したことを想起したり、工夫したりしてチームの課題を解決できる練習方法を選択できるようにする。
	3. グループ練習をする。    僕のチームはスパイクでの決定率が悪くて、拾われることが多いので、ねらって打てる練習をします。 僕のチームは三段攻撃が不安定で、スパイクにつながっていないので、レシーブをセッターに返したり3本目の準備をしたりする練習をします。 僕のチームはスパイクをバンバン打たれることが多いので、スパイクを打ってブロックする練習をします。 4. 練習したことを生かしてゲームをする。 ・1チーム8～9人（ゲームは6人）・ネット220cm ・15点マッチ ・ローテーションをする ・サービスはアタックラインからでもよい。（ただし、アタックラインからはアンダーサービス） 5. グループ振り返りをする。 6. 全体振り返りをする。	《学び合いの場のねらいについて》 ・自チームの課題に合った練習方法を選択できるように、ゲームの映像や得点、返球率、スパイク決定率など、様々な視点から課題を捉えられるようにする。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・学びを深めるために、生徒一人一人の実態に応じた指導援助をする。 【個人課題が分からない】 ・個別に声を掛けて、チームの課題から自身の達成したい役割を明確にする。 【個の技能面につまずきがある】 ・個別にポイントや動きを確認して、視覚的、感覚的イメージを再度もたせて練習に向かえるようにする。 【できたことを実感できない】 ・できた事実や取り組みようとしている姿、仲間と関わり合って高めようとしている姿などを価値付け、様々な視点からできたことを実感できるようにする。また、仲間の言葉からも本時の成果を実感できるようにする。
	《終末における生徒の姿》 ・チームに「おとり」を使うことを提案して相手ブロックをかわすことができた。やはり相手のブロックをかわしてスパイクを打つことは有効だった。スパイクを打つ人以外の活躍もあって点数が取れた。バレーボールはチームスポーツだ。 ・これまでスパイクでの決定率が悪くて、拾われることが多いので、ねらって打つ練習をした。チームのみなが打つコースの声を掛けてくれた。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・ゲームの様子を撮影し、実際の動きを根拠にしたり、チームメイトなど、他者からの評価を位置付けたりすることで、実感を伴った振り返りにする。
ま と め る		【思考・判断・表現】 チームの課題に合った練習を工夫し、考えたことを仲間に伝えている。 （評価方法） 授業の様子、学習カード

単元構造図

単元の学習を通して目指す、仲間と共に自ら学び続ける生徒の具体的な姿
有効打突を打ちたい、チームで勝ちたいという目標を達成するために、自己や仲間の課題を捉え、単元での学習や経験を生かし、技能の習得や練習方法を工夫して、仲間と協力しながら有効打突や勝利につなげることで、自己の変容や仲間とともに取り組んだよさを実感し、運動の楽しさや喜びを味わっている姿。

既習

- ・防具の脱着の仕方
- ・送り足
- ・中段の構え
- ・一足一刀の間合い
- ・一本打ち（面胴小手）
- ・2段の技（面一面、面一胴）

単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
相手の構えを崩したり相手の動きや技の変化に応じたりして自由に打突することができる。 簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方を理解することができるようにする。	相手の構えを崩して攻める方法や相手の動きの変化に応じた体の移動等、自己や仲間の課題を見つけ、仲間との関わりなどから解決するための自分の考えを仲間に伝えることができるようにする。	剣道に積極的に取り組み、相手を尊重したり、伝統的な行動の仕方を大切にしたりするとともに、仲間と共に学び合うことで誰もが楽しんだり達成感を味わったりしながら活動できるようにする。

〇〇〇自分や仲間の課題に
自分と仲間の課題を共有し、解決に向けて協力して

運動の楽しさや
喜びを味わう

単元を通して
味わわせる運動の
楽しさや喜び

第1時 オリエンテーション

学習内容を理解するとともに、防具を着けて素振りをするを通して既習の想起や課題をもつことができる。

- ・1チーム5～6人(各学級3チーム)編成
- ・試合時間 1分間
- ・2本先取(引き分け有)
- ・リーグ戦 → 順位決定戦

- 生徒の意識
- ・有効打突で一本取りたい。
- ・日本の伝統的な競技の武道。相手を尊重していこう。

〇主体的に学習に取り組む態度
単元の見通しをもち、剣道に積極的に取り組もうとしている。

第2, 3時 基礎技能の習得

防具の脱着 中段の構え 送り足 一足一刀の間合い 一本打ち（面・胴・小手）等の基本的な動きを身に付ける。

- 生徒の意識
- ・中段の構えから一歩で打突できるように、一足一刀の間合いを大切にしていきたい。
- ・大きな声で、「面」と言うぞ。

- 〇知識・技能
- ・中段の構えから、心技体の一致と残心のある有効打突を打つことができる。

第4時 技能の習得

最初の打ち込みに相手が対応した時に隙ができた面を打つ技や、相手と接近した状態から退きながら面を打つ技を身に付ける。

- 生徒の意識
- ・一本では決まらないから、連続して打ち込む。
- ・接近した状態からでも攻めることができることを知った。

- 〇知識・技能
- ・連続して打ち込むことができる。
- ・退きながら打ち込むことができる。
- ・相手が打ち込んできた竹刀を交わして打ち込むことができる。

第5時 技能の習得

相手が打つ瞬間を狙って打ち込む技や相手の竹刀を払い、できた隙に面を打つ技を身に付ける。

- 生徒の意識
- ・相手の動きをよく見て素早く一歩踏み出していこう。
- ・円を描くように竹刀を動かして、次の面打ちをしやすくしよう。

- 〇知識・技能
- ・相手が打つ瞬間を狙って打ち込むことができる。
- ・相手の竹刀を払って打ち込むことができる。

第6時 習得した技能を磨く①

どのようにしかけたら（動いたら）、面打ちにつなげることができるのか考えたり、仲間と考えを伝えたりすることができる。

- 生徒の意識
- ・送り足で左右に動くと、竹刀が正面からずれる人があるから、そこを狙っていきたい。

- 〇思考・判断・表現
- ・どのような動きをしたら、面打ちにつなげることができるのか考えたり、仲間に伝えたりしている。

第7時(本時) 習得した技能を磨く②

どのようにしかけたら（動いたら）、自分の得意な攻めにつなげることができるのか考えたり、仲間と考えを伝えたりすることができる。

- 生徒の意識
- ・面を打つと思わせると腕が上がるので、空いた胴を狙いたい。どれくらい腕を上げると防ごうとするのが練習して見極めたい。

- 〇思考・判断・表現
- ・どのような動きをしたら、相手に隙ができるのか考えたり、仲間に伝えたりしている。

第8時

習得した技能を磨く③

自分が考えたしかけで相手に隙ができるのかを試し、自分から積極的に攻めることができる。

- 生徒の意識
- ・腕を上げるのと同時に小さく踏み込むと、相手が下がりながら腕を上げることが多かった。2歩めの胴打ちは大きく踏み込みたい。

- 〇知識・技能
- ・自分からどんどんしかけて相手の隙を生み出し、積極的に攻めることができる。

第9, 10, 11時

習得した技能の確かめ（クラス内リーグ戦、順位決定戦）

これまで学習してきたことを生かしてリーグ戦を行い、優勝を目指す。

- 生徒の意識
- ・チーム対抗リーグ戦。自分のベストを尽くすぞ。
- ・みんなで声を掛け合っていこう！

- 〇知識・技能
- ・相手の構えを崩したり技の変化に応じたりして自由に打突することができる。

- 〇主体的に学習に取り組む態度
- ・剣道に積極的に取り組み、相手を尊重して礼節を大切にしたり、チームに貢献したりして、仲間とともに剣道を楽しんだ達成感を味わったりすることができる。

単元を通して身に
付けたい
具体的な
姿

〇学習の進め方・ルールの理解・礼節を大切にする
〇有効打突（心技体の一致と残心）
〇相手の構えを崩す動き

〇基礎技能の習得（中段の構え、送り足、一足一刀の間合い）
〇技能の習得（二段の技、引き技、抜き技、出ばな技、払い技）

1 単元名

武道「剣道」

2 本時のねらい

どのようなしかけ（動き）をしたら自分の得意な攻めにつなげることができるのかを考えたり、仲間に考えを伝えたりすることができる。

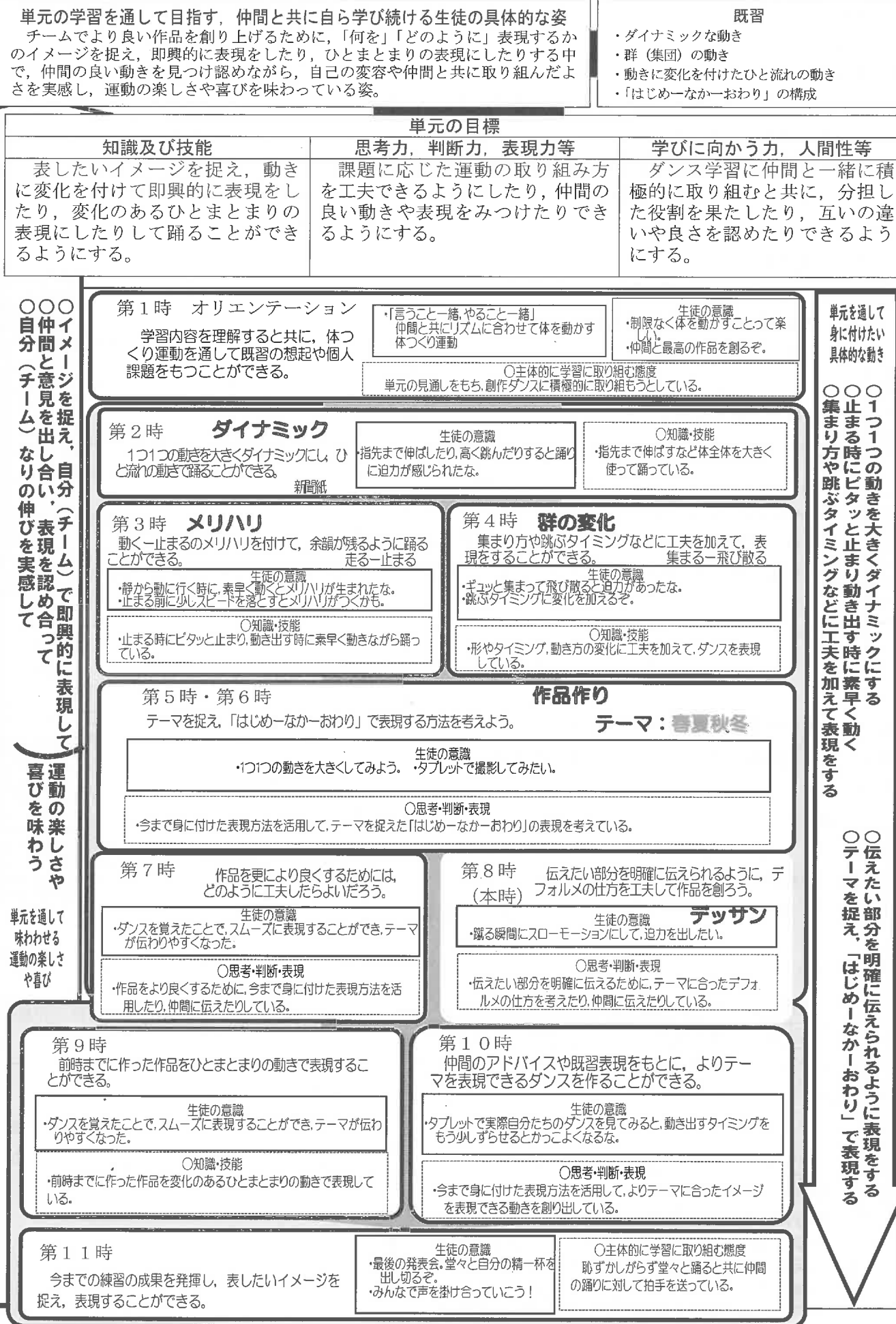
3 本時における教科の特性を生かした学び方

相手に隙をつくらせる動きを発見したり、考えた動きを分かりやすく伝えたりするなど、仲間と共に課題を解決したり互いの伸びを認め合ったりすることを通して、運動の楽しさや達成感を味わう。

4 本時の展開案（7／11）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. 準備体操を行い、防具を着ける。 約束稽古（面打ち、胴打ち、小手打ち）を行う。 2. 全体計画会で課題をつかむ。 課題 自分の得意な技で攻めるためにはどのようなしかけをしたらいだろう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・前時までの技能の習得から自分のよかったところを振り返り、自分のストロングポイントで攻めていこうとする気持ちをもたせる。 ・示範で、相手の中段の構えを崩して隙をつくらなければ、有効打突を打つことが難しいことを示し、本時の課題につなげる。
	3. グループ計画会で自分や仲間の考えを交流する。 ・自分は小手抜き面の動きがスムーズにできる。わざと右小手を見せて、先に打ち込ませよう。 ・勢いよく右足を出すと、びくっとして中途半端に竹刀が上がるから、間から面を連続で狙ってみよう。	《学び合いの場のねらいについて》 ・自分の課題を声に出して伝えることで、練習のポイントをより明確にする。（「私は竹刀を左に払って中段の構えを崩して面を打ち込みたい。払ってから打ち込むまでの動きがスムーズかどうか見てほしい。」）また、仲間は見る視点がはっきりするので、助言をしやすくなり、交流を深めることができる。 ・自分の考えたしかけの動きが、相手にはどう見えたのかを聞くことで、自信をもったり新たな考えを生み出すきっかけにしたりすることができる。
深める	4. 前半練習をする。（かかり稽古） ・攻め役と守り役 ・周りの仲間は助言 自分や仲間の考えたしかけが有効打突につながるか確認する。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・中間研究会を位置付け、各グループが交流した内容を全体に広げ、グループでの交流を更に活性化させる。
	5. 中間研究会で成果や改善点を交流する。 ・もっと竹刀を上げた方が防ごうと思って隙ができるよ。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・試合の様子をタブレットで撮影し、自分の動きを視覚的に確認できるようにする。
まとめる	6. 練習試合をする。（互角稽古） ・互いに攻め合う ・1分間×3試合 自分が考えたしかけや仲間のアドバイスで有効打突が打てるのか確認する。	【思考・判断・表現】 自分の得意な技で攻めるために、相手を崩して隙をつくらせるしかけの動きを考えたり、仲間に伝えたりしている。 （評価方法） 授業の様子、学習カード
	7. 反省会で自分や仲間の動きの振り返りをする。 《終末における生徒の姿》 ・自分は小手打ちが得意だ。小手を打つふりで竹刀を少し動かすと、面に隙ができるのではないかと考えた。実際にやってみると有効打突が打てたので他のチームの人にもやっていたいこう。	

単元構造図



単元を通して
身に付けたい
具体的な動き

○1つ1つの動きを大きくダイナミックにする
○止まる時にピタッと止まり動き出す時に素早く動く
○集まり方や跳ぶタイミングなどに工夫を加えて表現をする

○伝えたい部分を明確に伝えられるように表現をする
○テーマを捉え、「はじめ—なか—おわり」で表現する

○イメージを捉え、自分（チーム）で即興的に表現して
○仲間と意見を出し合い、表現を認め合って
○自分（チーム）なりの伸びを実感して

運動の楽しさや
喜びを味わう

単元を通して
味わわせる
運動の楽しさ
や喜び

ダンス「創作ダンス」

伝えたい部分をより明確に伝えるために、テーマに合ったデフォルメの仕方を工夫して考えたり、仲間に伝えたりすることができる。

前時に創った作品を他グループからのアドバイスや他グループのよさを取り入れて深めていく。また、グループ練習の時に、即興的に感じた身体感覚や発想を仲間に伝え合い、作品を創り上げる楽しさを味わう。

学習活動		指導・援助
つかむ	1. フォローリーダーで体を動かす。 2. 全体計画会で、前回の他グループの動きから、自分達の作品に必要なデフォルメを確認する。 課題 伝えたい部分をより明確に伝えるために、デフォルメの仕方を工夫して作品を創り上げよう。 【デフォルメ】 ・繰り返し・スローモーション・カノン・巻き戻し・ストップ	《焦点化された学習課題の設定について》 ・前時の発表の様子をタブレットに収めておき、自分たちの作品を視覚的に確認し、テーマに合った表現方法を見つけ出させる。また、前時の作品で表現方法が工夫されているグループの示範を見せて、自分達の作品に反映させる。
	3. 自分達に取り入れたいデフォルメを考える。 ・カノンや繰り返しを使って、花火がたくさん上がる瞬間をダイナミックに表現しよう。【花火】 4. 仲間のアドバイスをもとに本時の個人課題を設定する。 【個人課題】 ①いつ ②体のどの部分を ③どのように動かすか ・花火が打ち上がる前にピタッと止まって、打ち上がる瞬間に腕と足を伸ばして大きく跳ぶことで迫力を出したい。 【花火】	《学び合いの場のねらいについて》 ・踊る前に「自分のどの動きの、何を見てほしいのか」をペアグループの子に伝えることで、個人課題への評価の視点を与える。
深める	5. 他グループから取り入れられることを考えたり、個人課題が達成できるように練習をしたりする。 6. ペアグループで交流し、ペアの動きの良かった点を交流する。 ・前時よりも、花火が打ち上がる前にピタッと止まったことで、静寂ができて花火の打ち上がりに迫力を感じた。 7. タブレットで撮影した動画を見て、個人課題が達成できたかどうか振り返る。 8. 全体反省会で、自分や仲間の姿を振り返る。 《終末における生徒の姿》 ・前回創った作品を見たら打ち上がりに迫力を感じなかったが、私が「ストップを活用して、打ち上がった瞬間の迫力を出そう」と伝えて動いてみたら、迫力のあるダンスになった。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・作品作りを見て回る際に、他グループの作品のよさを伝えて、自分達の作品に取り入れさせる。 →自分達のデフォルメをより高めさせる。 →新たなデフォルメを取り入れさせる。
		《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・タブレットで撮影した動画を見て、自分の動きを客観的に捉えさせる。動画や仲間からの助言を根拠に個人課題について振り返りを行う。
まとめる		【思考・判断・表現】 伝えたい部分をより明確に伝えるために、テーマに合ったデフォルメの仕方を考えたり、仲間に伝えたりしている。 (評価方法) 授業の様子、学習カード
		評価規準

単元構造図

単元の学習を通して目指す、仲間と共に自ら学び続ける生徒の具体的な姿
有効打突を打ちたい、チームで勝ちたいという目標を達成するために、自己や仲間の課題を捉え、単元での学習や経験を生かし、技能の習得や練習方法を工夫して、仲間と協力しながら有効打突や勝利につなげることで、自己の変容や仲間とともに取り組んだよさを実感し、運動の楽しさや喜びを味わっている姿。

既習

- ・防具の脱着の仕方
- ・送り足
- ・一足一刀の間合い
- ・2段の技（面一面、面一胴）
- ・中段の構え
- ・一本打ち（面胴小手）

単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
相手の構えを崩したり相手の動きや技の変化に応じたりして自由に打突することができる。 簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方を理解することができるようにする。	相手の構えを崩して攻める方法や相手の動きの変化に応じた基本動作等、自己や仲間の課題を見つけ、仲間との関わりなどから解決するための自分の考えを仲間に伝えることができるようにする。	剣道に積極的に取り組み、相手を尊重したり、伝統的な行動の仕方を大切にしたりするとともに、仲間と共に学び合うことで誰もが楽しんだり達成感を味わったりしながら活動できるようにする。

〇〇〇自分や仲間と課題を共有し、解決に向けて協力して

運動の楽しさや喜びを味わう

単元を通して味わえる運動の楽しさや喜び

第1時 オリエンテーション

学習内容を理解するとともに、防具を着て素振りをするを通して既習の想起や課題をもつことができる。

- ・1チーム5～6人（各学級3チーム）編成
- ・試合時間 1分間
- ・2本先取（引き分け有）
- ・リーグ戦 → 順位決定戦

- 生徒の意識
- ・有効打突で一本取りたい。
- ・日本の伝統的な競技の武道。相手を尊重していこう。

〇主体的に学習に取り組む態度
単元の見通しをもち、剣道に積極的に取り組もうとしている。

第2、3時 基礎技能の習得

防具の脱着、中段の構え、送り足、一足一刀の間合い、一本打ち（面・胴・小手）等の基本的な動きを身に付ける。

- 生徒の意識
- ・中段の構えから一歩で打突できるように、一足一刀の間合いを大切にしていきたい。
- ・大きな声で、「面」と言うぞ。

- 〇知識・技能
- ・中段の構えから、心技体の一致と残心のある有効打突を打つことができる。

第4時 技能の習得 二段技 引き技

最初の打ち込みは、相手が対応した時に隙ができた面を打つ技だが、相手と接近した状態から引きながら面を打つ技を身に付ける。

- 生徒の意識
- ・一本では決まらないから、連続して打ち込む。
- ・接近した状態からでも攻めることができることを知った。

- 〇知識・技能
- ・連続して打ち込むことができる。
- ・引きながら打ち込むことができる。
- ・間合いを変化させて、引きながら打ち込むことができる。

第5時 技能の習得 抜き技 払い技

相手が打つ瞬間を狙って打ち込む技や相手の竹刀を払い、隙を打つ技を身に付ける。

- 生徒の意識
- ・相手の竹刀をかかわして面を打ち込む。
- ・円を描くように竹刀を動かして、次の面打ちをしやすくしよう。

- 〇知識・技能
- ・相手が打ち込んで来た竹刀を交わして打ち込む。
- ・相手の竹刀を払って打ち込むことができる。

第6時 相手を崩して攻める（面打ち）

どのようにしかけたら、（動いたら）面打ちにつなげることができるのか考えたり、仲間と考えを伝えたりすることができる。

- 生徒の意識
- ・送り足で左右に動く、竹刀が正面からずれる人がいるから、そこを狙っていきたい。

- 〇思考・判断・表現
- ・面で一本を取るための崩し方を見つけたり、仲間に伝えたりしている。

第7時 相手を崩して攻める（胴打ち） （本時）

どのようにしかけたら、（動いたら）胴打ちにつなげることができるのか考えたり、仲間と考えを伝えたりすることができる。

- 生徒の意識
- ・素早く踏み込み間合いを詰めて竹刀が上がる人がいるから、そこを狙って胴を打ちたい。

- 〇思考・判断・表現
- ・胴で一本を取るための崩し方を見つけたり、仲間に伝えたりしている。

第8時 崩しを使って攻める

自分たちが考えたしかけで相手に隙ができるのかを試し、自分から積極的に攻めることができる。

- 生徒の意識
- ・腕を上げるのと同時に小さく踏み込むと、相手が下がりながら腕を上げることが多かった。2歩めの胴打ちは大きく踏み込みたい。

- 〇知識・技能
- ・自分からどんなしかけで相手の隙を生み出し、積極的に攻めることができる。

第9、10、11時 習得した技能の確かめ（クラス内リーグ戦、順位決定戦）

これまで学習してきたことを生かしてリーグ戦を行い、優勝を目指す。

- 生徒の意識
- ・最後のリーグ戦、自分のベストを尽くす。
- ・みんなで声を掛け合っていこう！

- 〇知識・技能
- ・相手の構えを崩したり技の変化に応じたりして自由に打突することができる。

- 〇主体的に学習に取り組む態度
- ・剣道に積極的に取り組み、相手を尊重して礼節を大切にしたり、チームに貢献したりして、仲間とともに剣道を楽しんだり達成感を味わったりすることができる。

単元を通して身に付けたい具体的な姿

〇学習の進め方・ルールの理解・礼節を大切にすること
〇有効打突（心技体の一致と残心）

〇基礎技能の習得（中段の構え、送り足、一足一刀の間合い）
〇技能の習得（二段の技、引き技、抜き技、払い技）

武道「剣道」

どのようなしかけ（動き）をしたら胴で一本を取ることができるのかを考えたり、仲間に考えを伝えたりすることで、自分の崩しを見つけることができる。

相手に隙をつくらせる動きを発見したり，考えた動きを分かりやすく伝えたりするなど，仲間と共に課題を解決したり互いの伸びを認め合ったりすることを通して，運動の楽しさや達成感を味わう。

学習活動		指導・援助
つかむ	1. 準備体操を行い、防具を着ける。 面、胴、小手の一本打ちの確認をする。 2. 全体計画会で課題をつかむ。 課題 胴で一本を取るためには、どのような崩し方をしたらよいだろう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・前時では、面を打つための崩しを行い、グループごとに面を打つための崩し方を見つけた。 ・本時は面と同様に、中段の構えをする相手から一本を取るためには、相手の隙を作る（崩し方が）必要であることを示範で示し、課題解決の見通しをもてるようにする。
	3. グループ計画会をする。 ・面を打つための自分たちのグループの崩し方は、小手を先に打ってできた隙に面を打つんだっただ。 ・胴もフェイントを使ってみたら一本が取れそうだ。 ・面を打ち込んだ際に手元があがると、胴を打てそうだ。	《学び合いの場のねらいについて》 ・グループで胴の崩しを行うことで、自分一人では見つけることができなかった崩し方を見つかったり、発展させたりできる。 ・自分の考えた崩し方が、相手にはどう見えたのかを聞くことで、自信をもったり新たな考えを生み出すきっかけにしたりすることができる。 ・撮影をしながら行うことで、客観的に自分の様子を捉えることができる。
	4. 前半練習（かかり稽古）をする。 ①攻め役と守り役に分かれる。 ②周りの仲間は崩せているか助言する。 ③自分や仲間の考えたしかけが一本につながるか確認する。	
	深める	5. 中間研究会で成果や改善点を交流する。 崩しを行った結果、有効打突につながったのかを確認する。 6. 後半練習（互角稽古）をする。 ①1分間×3試合で行う。 ②今まで学習した面打ちと胴打ちをそれぞれ使いながら互いが攻め合う。 ③自分たちが考えたしかけや仲間のアドバイスで有効打突が打てるのか確認する。
まとめる	7. 反省会で自分や仲間の動きの振り返りをする。 《終末における生徒の姿》 ・自分たちの胴で一本を取るための崩し方は、素早く踏み込んで面を打ち、相手が防ごうと竹刀を上げた隙に胴を打つ崩し方だ。 ・自分とは違う崩し方だな、取り入れてみよう。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・互角稽古の様子をタブレットで撮影し、自分の動きを視覚的に確認する。 ・振り返りで自分たちのグループの崩し方を映像と共に発表し、次時でも自信をもって技をしかけられるようにする。
	【思考・判断・表現】 胴で一本を取るための崩し方を見つけたら、仲間に伝えたりしている。 （評価方法） 授業の様子・学習カード	評価規準

単元構造図

単元の学習を通して目指す、仲間と共に自ら学び続ける生徒の具体的な姿

リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で自由に踊る。現代のリズムのダンスにおいて、相互援助活動やICT機器の活用をもとに自己の課題を解決していく中で自己の変容や仲間と取り組むよさを実感し、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わっている姿。

既習（創作ダンス）

- ・ダイナミックな動き
- ・群（集団の動き）
- ・ひと流れの動き
- ・はじめ～なか～おわり

単元の目標

知識及び技能

リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で自由に踊ったり、リズムに乗って全身で自由に踊ったりすることができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

自己や集団の課題に応じて運動の取り組み方を工夫したり、既習内容や生活経験をもとに仲間のよい動きや表現を分かりやすく伝えたりすることができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、交流や話し合いに参加したり、互いのよさや違いを認めることができるようにする。

〇〇自分（仲間）と（仲間）の課題に、自分の声を掛け合い、アドバイスし合っている。仲間の伸びを実感している。

運動の楽しさや喜びを味わっている。

単元を通して味わえる運動の楽しさや喜び

第1時 オリエンテーション

学習内容や学習計画全体を知り、目指す運動・集団の姿や単元の見通しをもつことができる。

生徒の意識
・リズムに乗ってダンスが踊れるように練習をがんばろう。
・見通しがもてたから、仲間と楽しく発表できるようにしたい。

〇主体的に学習に取り組む態度
単元の見通しをもち、ダンスに積極的に取り組もうとしている。

第2時 アップ・ダウン 8カウント

手拍子・足拍子など様々な部位を使って、リズムを取って拍を打つことができる。

生徒の意識
・アップとダウンそれぞれリズムの取り方が違うんだ。

〇知識・技能
・リズムに乗りながら、様々な部位を使って拍打ちをしている。

第3時 アイソレーション 8カウント

1拍・半拍・休符を組み合わせ、8カウントに合わせてリズムに乗って踊ることができる。

生徒の意識
・タン・タタ・ワンに合わせてリズムよく体を動かそう。

〇知識・技能
・リズムに乗りながら、様々な部位を使って踊っている。

第4時 日常の動き

曲調に合った日常の動きを、8カウントのリズムでどのように表現するかを考えたり、考えたことを仲間に伝えたりすることができる。

生徒の意識
・どんな動きが曲のリズムに合うかな。どう表現しようかな。

〇思考・判断・表現
・曲に合った動きや表現を考えたり、考えたことを仲間に伝えたりしている。

第5時 ステップを組み合わせる

ステップを組み合わせ、8カウントに合わせてリズムに乗って踊ることができる。

生徒の意識
・8カウントに合わせて、リズムよくステップを踏めるようにしよう。

〇知識・技能
・ステップを組み合わせ、リズムに乗って踊っている。

第6時（本時） ペアとつくる

3つの視点について、仲間と踊る時にどんな工夫ができそうかを考えて、体を動かして試行錯誤しながら創作することができる。

生徒の意識
・「時間」「空間」「力」を意識して動きに変化を加えてみよう。仲間と楽しく踊ろう。

〇思考・判断・表現
・3つの視点について、ペアで踊る時の工夫を考えて、体を動かして試行錯誤している。

時間 動きを合わせる・ずらす・拍の違い

空間 上下前後左右・大きく（小さく）動かす

力 強弱・重い軽い・鋭い滑らか

第7・8時 グループ練習①②

既習表現をもとに、曲のリズムを捉えて動きを考えたり、表現を工夫したりすることができる。

生徒の意識
・アップテンポなリズムのシーンにこのステップを加えてみよう。

〇思考・判断・表現
・仲間と意見を出し合い、曲に合った表現の動きを創り出している。

第9時 リハーサル

発表会に向けて、自分やグループの動きについて、「時間」や「空間」を意識して踊ることができる。

生徒の意識
・発表会に向けて、自分の動きやグループの動きを確認しよう。

〇知識・技能
・創り出した動きについて、「時間」「空間」「力」を意識して踊っている。

第10時 発表会

学習したことを活かして、グループの仲間とリズムに乗って全身で踊ることができる。

生徒の意識
・練習してきたことを活かして、リズムに乗って仲間と楽しく踊ろう。

〇知識・技能
・学習したことを活かして、リズムに乗って全身で踊っている。

単元を通して身に付けたい具体的な動き

〇8カウントに合わせて体幹部を使ってリズムを取って踊る
〇基本的なステップを使ってリズムに乗って踊る
〇「時間」を意識して緩急をつけたり合わせたりずらしたりして踊る

〇ダウンとアップのリズムを取って踊る
〇日常の動きを8カウントに合わせてリズムに乗って踊る
〇「空間」を意識してより大きく体を使って踊る

1 単元名

ダンス「現代的なリズムのダンス」

2 本時のねらい

3つの視点について、仲間と踊る時にどんな工夫ができそうかを考え、体を動かして試行錯誤しながら創作することができる。

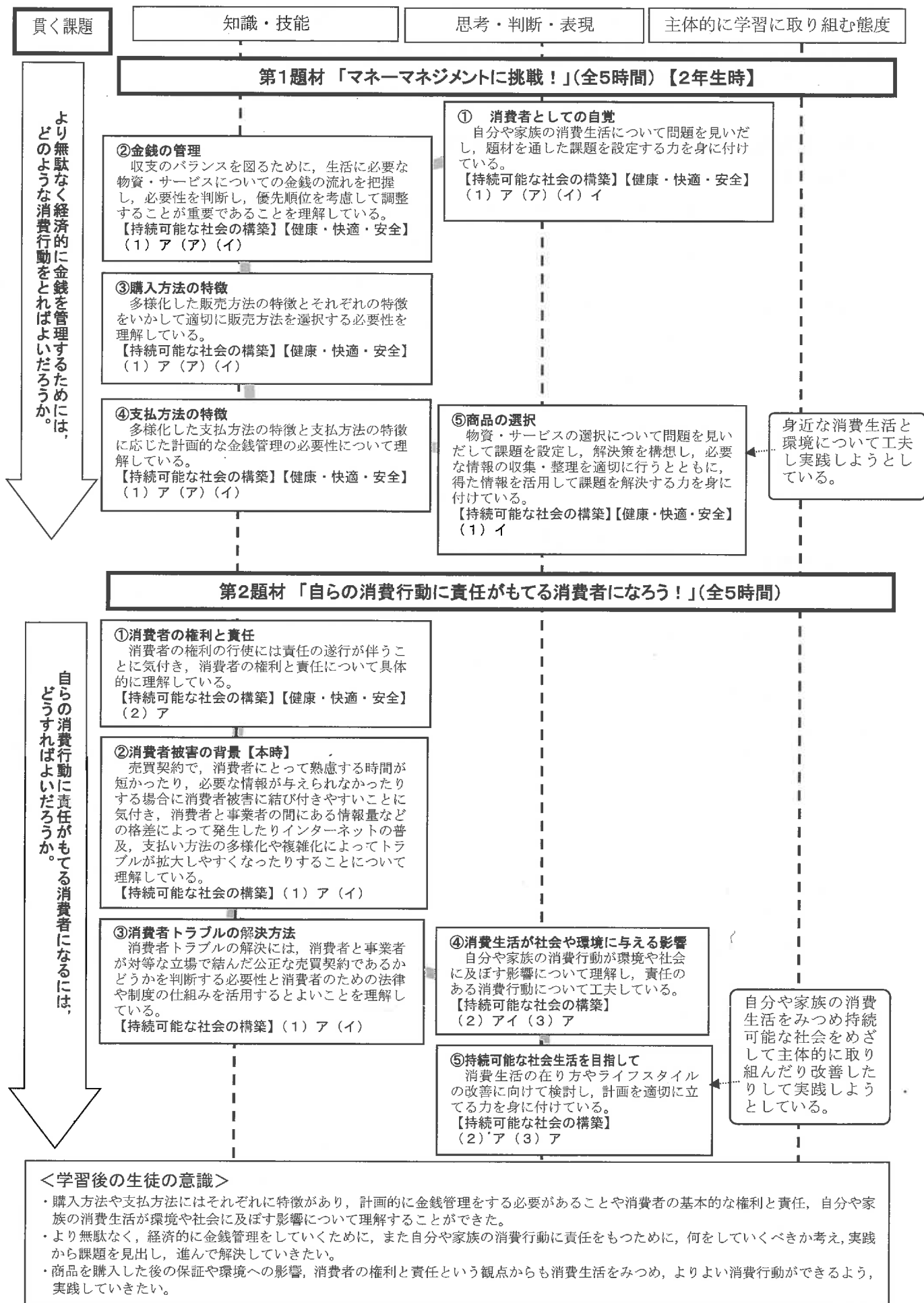
3 本時における教科の特性を生かした学び方

仲間と表現方法を工夫してダンスを創り上げることで、リズムに乗って体を動かす楽しさや喜びを味わう。

4 本時の展開案（6／10）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. ウォーミングアップで体と心をほぐす。 フォロワーリーダー、即興ダンス 2. 全体計画会をする。 ① 8カウント×2 ② 8カウント×2 二人以上で踊る時に どんな工夫ができる？ 課題 ペア（トリオ）で踊る時に「時間」「空間」「力」についてどんな工夫ができるだろう。 時間 …動きを合わせる、ずらす、拍の違い 空間 …上下前後左右、大きく（小さく）動かす 力 …強弱、重い軽い、鋭い滑らか	《焦点化された学習課題の設定について》 ・前時までに一人一人がリズムに乗って踊れる土台を築いてきた。本時から仲間と踊っていくうえで、よりよく“魅せる”ためにどう動くときよいのか、学習内容を手がかりにして仲間と考えて活動できるようにする。 《学び合いの場のねらいについて》 ・個々が踊りをもち寄って小集団の動きを組み合わせることで、人任せでなく、一人一人が主体者となって活動できるようにする。 ・ペアで新たに踊りを作成することで、構成を考えたり、既習内容を活用して表現を工夫したりすることができるようにする。
深める	3. グループ計画会をする。 個人、グループが目指す姿を確認する。 4. ペア（トリオ）練習をする。 ・跳ねるように伸び上がって動いて空間を大きく使ってみよう。 ・○拍分ずらしてみよう。二人で踊ることで動きに変化が生まれそうだな。 5. グループ交流をする。 誰のどんな姿がよかったかを伝え合う。 6. グループで振り返りをする。 仲間のよさを伝え合ったり、自己評価したりする。 7. 全体で振り返りをする。	《学びを促進させる教師の出場について》 【ペア練習】 ・3つの視点で見届け、既習内容を取り入れながら活動できるように声をかける。一人での創作が難しい生徒には、「空間」に焦点を当てて表現するよう働きかける。 【グループ交流】 ・3つの視点について、一人の時と比較してどんな変化があるのか、巡回して考えさせる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・タブレットで撮影し、動きを確認することで、動きの高まりや変化を実感したり、自己の課題を発見したりすることができるようにする。 ・グループで「時間」「空間」「力」を視点として交流し、よさやアドバイスを伝え合うことで、学びや達成感を実感できるようにする。
まとめる	《終末における生徒の姿》 ・タイミングをずらしてみること、変化が生まれて楽しく踊ることができた。 ・これまでの学習を活かして、仲間と相談しながら3つの視点について考えることができた。 ・二人以上で踊ることで、時間や空間の工夫の幅が広がる。次はさらに人数を増やしてグループで協力して踊りたい。	【思考・判断・表現】 3つの視点について、ペア（トリオ）で踊る時の工夫を考えて、体を動かして試行錯誤している。 （評価方法） 授業の様子、学習カード

題材構造図「C 消費生活・環境」



1 題材名

自らの消費行動に責任もてる消費者になろう！～消費者トラブルの背景～

2 本時のねらい

消費者トラブルの事例を知り、その発生理由を考える活動を通して、事業者（生産者、販売者）に比べ消費者が情報量などにおいて不利な立場にあること、誰にでも起こり得ることに気付き、契約についての熟慮、必要な情報の収集、適切な判断を行うことが消費者被害の回避につながることを理解できる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

日常生活で起こり得る消費者トラブルから問題を見出して課題を設定する。消費者トラブル発生の理由を仲間と話し合うことで明らかにし、課題解決の方法を主体的に考える。また、課題解決の方法は、「持続可能な社会の構築」という見方・考え方の視点から捉える。

4 本時の展開案（2／5）

学習活動	指導・援助
<div data-kind="parent" data-rs="2">つかむ</div> <p>1. 消費者トラブルの例から感じたことを交流する。</p> <div data-bbox="183 638 825 770"> <p>【事例1】オンラインゲームで勝ちたいためにアイテムを購入したところ、1か月後に高額な利用明細が届き、保護者に叱られる。 【事例2】不用品回収無料と言われたので、回収してもらったところ、積み込み手数料に8万円かかると言われた。</p> </div> - こんなことは私にはありえない。アイテムを購入する前に考えないのだろうか。 - 回収無料と言いながら、積み込み料がかかるというのは、悪質ではないか。 <div data-bbox="183 918 825 996"> <p>課題 消費者トラブルを回避するために、消費者はどんなことに気を付ければよいだろう。</p> </div> <p>2. トラブルが発生した理由と回避方法を考え、交流する。(個人→グループ→全体)</p> 「回収無料」という宣伝文句に飛びついてしまい、積み込み費用については質問していない。 - どこの業者か分からないところを利用したことがよくない。 - 怖くなって諦めたのがよくない。 - アイテムが欲しいという欲に負け、よく考えず、簡単にクリックしてしまった。 - その場の雰囲気流されず、冷静に判断する。 - 正しい情報を収集する努力をする。 - 販売者は常に商品を買わせようとしている存在だという考え方をしておく。 - 不必要な商品は絶対に購入しない。毅然と断る。 <p>3. 「だまされやすさ心理傾向チェック」を行い、自分の傾向を知る。</p> - 勧誘を受けた時に契約してしまう確率が80%だった。自分は大丈夫という考え方は危ないと思った。 <p>4. 消費者トラブルの他の事例について、どのように回避するか考える。</p> - キャッチセールス…安易に事業者についていけない - 悪質な訪問販売…玄関先に出ない。帰れと伝える。 <p>5. 本時のまとめをする。</p> <div data-bbox="183 1825 825 2045"> - 販売者は商品を購入させるために、消費者を誘導しているという仲間の意見に「なるほど」と納得した。消費者トラブルを回避するためにも、消費者と販売者の関係を理解し、正しい情報を収集する努力と販売者側を疑ってみる視点をもつことが大切。冷静な判断をしていきたい。 </div>	《焦点化された学習課題の設定について》 - 消費者トラブルの事例を見て感じたことを交流し、実際にトラブルが起きている件数を知ること、問題を見出し、課題を設定する。また、自分の生活と結び付けて課題意識をもてるようにする。 《学び合いの場のねらいについて》 - トラブルが発生した理由と回避方法について、個人の考えがもてる場を設定し、「消費者の情報収集不足」、「事業者に対する毅然とした対応（確認）不足」、「判断（注意）不足」、「無計画」、「無駄遣い」がトラブルの視点（要因）になっていることを自発的に気付けるようにする。 - 他の事例の回避方法を考える場面では、小集団交流を位置付け、仲間の意見から多面的な視点からトラブルの回避方法を考えられるようにする。 《学びを促進させる教師の出場について》 - 生徒の発言を受け、「契約についての熟慮」「正確な商品の情報収集」「適切な判断」の必要性があることを視覚的に理解できるよう板書に位置付ける。 - 消費者と事業者側の関係性を対等に保つ消費行動を行うことが、持続可能な社会の構築につながることに触れ、見方・考え方を広げる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 - 他の事例のトラブルの回避方法を、本時得た知識（トラブルの視点）を活用して考えている姿を価値付けるとともに、まとめの発表指名を意図的に行い、その価値を広める。 【知識・技能】 消費者トラブルを防ぐには、消費者が販売者より不利な立場にいること、自分にも起こり得ることを自覚し、契約についての熟慮、正確な商品の情報収集、適切な判断をする必要があることを理解している。 （評価方法） ノートの記述内容、発言内容
<div data-kind="ghost"></div> <p>深める</p>	
まとめる	

題材構造図「D2 情報の技術」

貫く課題

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

題材「生活を豊かにする計測制御システム」(全17時間)

生活をより豊かにするために、計測制御システムや人工知能の技術をどのように活用していくとよいだろうか。

②計測・制御の仕組み

制御ロボットの動きを人間の体と比較しながら、計測・制御の仕組みを説明できる。【システム】(3) ア

③micro:bitの基本操作(データ転送)

文字を表示したり、音を鳴らしたりする基本的なプログラムの制作と、データ転送ができる。【システム】(3) ア

④micro:bitの基本操作(センサ)

micro:bitで扱うことができるセンサ(光・音・温度・加速度・地磁気)の使い方を理解し、適切なプログラムの制作ができる。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】(3) ア

⑤micro:bitの基本操作(アクチュエータ)

micro:bitで扱うことができるアクチュエータ(LED・ブザー)の使い方を理解し、適切なプログラムの制作ができる。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】(3) ア

⑦⑧システムを構築するプログラムの制作

熱中症対策システムを構築するための安全で、適切なプログラムの制作、動作の確認ができる。【システム】(3) ア

⑨スクラッチの使い方

スクラッチの基本的な使い方を理解し、適切なプログラムの制作ができる。【システム】(3) ア

⑩teachable machineの使い方

teachable machineの使い方を理解し、適切に画像学習をコンピュータに行わせることができる。【システム】(2) ア (3) ア

⑫⑬システムを構築するプログラムの再制作

改善された熱中症対策システムを構築するために、より安全で、より適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。【システム】(3) ア

⑮これからの社会と情報の技術

これまでの学習と、情報の技術がよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に果たす役割や影響を踏まえ、情報の技術の概念を説明できる。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】【経済性】【情報の倫理やセキュリティ】(4) ア

①計測・制御システムの普及の背景

AIを活用した農業に込められた工夫を読み取り、情報の技術の見方・考え方に気付くことができる。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】【経済性】【情報の倫理やセキュリティ】(3) イ

⑥熱中症対策システムの構想

サンプルの熱中症対策システムを評価することを通して、アクチュエータの付け足しやセンサの複合などの工夫を考え、使用者がより使いやすく、安全性の高いプログラムを考えている。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】(3) イ

⑪熱中症対策システムの再構想【本時】

以前考えた熱中症対策システムを再評価し、人工知能の活用を考えることを通して、熱中症が起こりやすい状況や兆候をつかめるような画像や体の動きをコンピュータに学習させ、より的確に安全性を高めるシステムにする改善策を考えている。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】【経済性】(3) イ

⑭計測・制御システムの評価

制作したシステムのレポートを作り、問題解決とその過程を振り返り、評価している。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】【経済性】【情報の倫理やセキュリティ】(4) イ

⑮計測・制御システムの活用

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して、情報の技術の評価し、新たな発想に基づいた改良や応用の仕方を提言している。【社会からの要求】【使用時の安全性】【システム】【経済性】【情報の倫理やセキュリティ】(4) イ

⑯技術分野の学びを将来に生かす

これまでの技術の変容と、これまでの技術の学習から、20年後の未来を予測して技術の活用について考えている。【※技術分野の見方・考え方】(4) イ

進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。

自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。

自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。

よりよい社会や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造していこうとしている。

<学習後の生徒の意識>

- ・計測制御システムの概念や仕組みを理解し、プログラム製作やデバッグを行うことができた。
- ・作成した熱中症対策システムを評価して、改善及び修正方法を考え、より便利なシステムを考えていくことができた。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、計測制御システムや人工知能を「農業」「医療」「防災」など、様々な分野で活用していきたい。

1 単元名

生活を豊かにする計測制御システム

2 本時のねらい

以前考えた熱中症対策システムを再評価し、人工知能の活用を考えることを通して、熱中症が起こりやすい状況や兆候をつかめるような画像や体の動きをコンピュータに学習させ、よりの確に安全性を高めるシステムにする改善策を考えることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方

技術の見方・考え方を働かせ、利便性や安全性などに関する問題を見だし、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・制作などに取り組む。

4 本時の展開案（11／17）

学習活動	指導・援助
つ か む 1. 以前制作した熱中症対策システムを再評価する。 ・温度が一定以上になった時は、警戒できる。 ・温度が高くない時に熱中症にならないか不安。 ○人工知能を活用してシステムをさらに改善させられないかな。 2. 課題を提示する。 課題 熱中症の判断をよりの確に、安全性を高めるシステムにするためには、どのように人工知能を活用すればよいだろうか。 3. 熱中症が起こりそうな状況や兆候、熱中症になった時の症状を整理する。 状況：高温多湿，屋外，水分不足 兆候：頭痛やめまい，吐き気，発汗，体温上昇，疲労感，呼吸困難，意識の混乱 4. 開発グループごとにシステムの方向性を決める。 ・うなだれて、ぐったりしているポーズをしていたら、呼びかけるシステムを作れないかな。〈的確な判断〉 ・飲み物の量を測定し、その減りが少ないと認識したら、飲み物を飲むよう促すシステムを作れないかな。〈安全性を高める〉 ・タオルで顔を拭く回数やコップで飲む回数を，変数を用いて数え，熱中症の危険性を知らせるシステムを作れないかな。〈安全性を高める〉 5. システムの仕組みを図で表し，整理する。 6. グループごとに開発に取り組む。 ま と め る 《終末における生徒の姿》 ・前回作ったシステムは，温度センサのみが判断条件になっていたため，温度がさほど高なくても熱中症になってしまった場合に遅れをとってしまう。しかし，使用者の状況を画像認識で判断できるようにすれば，より安全性が高まるシステムにすることができそうだな。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・人工知能の活用を考えさせるために，センサだけでは不十分であることを認識させる。 《学び合いの場のねらいについて》 ・開発グループとして3人1組でグループを作り，プログラムの組み方や画像学習の方法など協力し合う。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・個別最適な学びとなるようプログラムの組み方や画像学習，ポーズ学習などの方法を動画で一覧にまとめておき，いつでも視聴できるようにしておく。 ・様々な状況をシミュレーションできるようタオルやコップ，うちわなど画像認識させるものを用意しておく。 ・各グループがどんなシステムを作っているのかを teams で共有できる場をつくり，各グループの状況に合わせて助言する。また，他グループの考えを共有できるため，必要に応じ参考にできる場として活用させる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・開発するシステムを，フローチャートを用いて表すことで，視覚的に思考を整理させる。 ・熱中症が起こりやすい状況や兆候をどのように画像やポーズとして学習させるかを全体で確認し，グループ開発をスムーズに行えるようにする。 【思考・判断・表現】 熱中症の判断をよりの確に行い，安全性を高めるシステムにするために，熱中症が起こりやすそうな状況や兆候を的確に判断する画像やポーズをコンピュータに学習させて改善策を考えている。 （評価方法） 授業中の発言，プリント 評 価 規 準

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりすることができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

・〈不定詞(to+動詞の原形)〉の名詞用法や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。

思考力、判断力、表現力等

・世界まで視野を広げ、自分の行きたい国について理由を付け加えて話したり、世界的問題や地域問題に関わる資料を読み取り、自分なりの感想や意見を聞き手に伝えたりすることができる。

・身近な人物や興味のある有名人、憧れの人について互いにたずねたり、説明したりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

・話題やテーマに対して、自分なりの感想や意見を相手に伝えようとしている。

・相手から多くの情報を聞き出すために、簡単な語句や文を用いてたずねようとしている。

単元の課題

自分が好きな有名人や憧れの人について、聞き手がもっと知りたくなるような魅力あふれる紹介をしよう。

後日 ペーパーテスト **知識・技能**

後日 パフォーマンステスト **思考・判断・表現**

①ALT と学級の仲間に対して、自分が好きな有名人や憧れの人について、タブレットで写真や自分が書きまとめた情報を見せながら紹介している。

②発表の内容に関わる ALT の質問に、簡単な語句や文を用いて答えている。

第10時 (Stage Activity 2) **思考・判断・表現** ※単元終末の活動

①身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりしている。

第9時 (Let's Listen 2) **知識・技能**

①電話連絡を聞いて、その全体の内容を理解し、必要な情報を聞き取ることができる。

第8時 (Let's Talk 3) **思考・判断・表現**

①地図を見ながら、ペアで徒歩での道順をたずねたり、教えたりしている。

第7時 (Unit Activity) **思考・判断・表現**

①global issues (世界的問題) や local issues (地域の問題) について、現状や自分の考え・思いを、タブレットを活用して1枚のポスターに書きまとめ、学級の仲間に紹介したり、交流したりしている。

第6時 (Story3) **知識・技能**

①国際協力・交流イベントの発表内容を聞いて、同じ国でも地域によって生活格差が生まれていることを理解する。

②〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。

第4, 5時 (Mini Activity①, Mini Activity②) **思考・判断・表現**

①自分が行ってみたい国についてタブレットを活用して情報を収集し、整理している。

②自分が行ってみたい国について、なぜその国に行きたいのか、その国で何がしたいのかなど理由を付け加えて話したり、相手の興味関心に合わせて即興的に国の紹介文を考えて伝えたりしている。

第2, 3時 (Story1②, Story2①《本時》) **知識・技能**

①不定詞 (to+動詞の原形) を理解し、自分の目標とする人の魅力について紹介する。

②メグと海斗の対話を聞いて、海斗の提案に対するメグの意見を理解する。

第1時 (オリ, Story1①) **主体的に学習に取り組む態度** **知識・技能**

①教科書の資料動画や教師の憧れの人物に関する発表を見たり、聞いたりする活動を通して、単元で貫く活動を理解し、見通しをもとうとしている。

②メグのスピーチを聞いて、メグが目標とする人物について理解する。

【活用できる知識】

■詳しい情報を伝える

- ・ I am ～ .
- ・ I like ～ .
- ・ I can ～ .
- ・ I like ○○ing ～ .
- ・ be good at ～ .
- ・ I am ○○ing ～ .
- ・ be/一般動詞の過去形
- ・ 前置詞 ・ 代名詞
- ・ 三単現 など

■自分の考えを伝える

- ・ I think ～ .

■相手から情報を聞き出す

- ・ Do you ～ ?
- ・ Does he/she ～ ?
- ・ Can you ～ ?
- ・ Where/When/Who/What /Why/How/Whose ～ ?

■理由を付けて伝える

- ・ Because ～ .

【活用できる技能】

- ・ 詳しく紹介する技能
- ・ 自分の考えや意見を伝える技能
- ・ 相手から情報を聞き出す技能

1 単元名

Unit9 Think Globally, Act Locally

2 本時のねらい <領域：話すこと（やり取り）>

“What do you want to～?” の表現を使って、国際交流イベントで相手のしたい事を尋ねることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方 【コミュニケーションを中心とした学び】

対話内容での条件に合わせて “What do you want to～?” を変化させて使用することで、適切な使用場面を理解し自然な対話で表現の定着を図る。

4 本時の展開案（3／10）

	学習活動	指導・援助
つ か む	1. 本文の導入 ・教科書を見ずに英単語と本文内容を理解する。 2. 新出単語の確認 ・教科書を見ながら音声と意味を理解する。 3. 課題提示 課題 友達と、国際交流イベントでのベストプランを立てるために相談しよう！	《焦点化された学習課題の設定について》 ・対話活動で “What do you want to～?” の表現を定着させるために、教科書と内容が似た場面設定をする。状況に応じてキーセンテンスを変化させていくことで使用場面の理解を促し、自然な流れでの定着を達成できるよう課題を設定する。
	4. 本文を音読する ・教科書を見ながら本文を音読する。 5. ペア交流 ・ベストプランとは何か意見交流する。(タイムスケジュール, 好きな食べ物, 参加したいコーナーなど) 6. 対話活動① 【条件場面】 イベント名：瑞穂国際交流イベント 日時：12月16日（土）9：00～18：00, 友達と行く	《学び合いの場のねらいについて》 ・活動5の場面で、新出表現の定着を図るため複数の生徒と共通の話題を繰り返し交流させる。 ・活動6の場面で、相手に尋ねる時の英語表現を中心に交流させる。
深 め る	・ペアに本イベントでしたい事を尋ねる。 ・ペアと相談して、自由にスケジュールを計画する。 7. 全体交流 ・対話活動①で使用した “What do you want to～?” の表現の使用場面と文法を交流し、理解する。 ・“互いの好みを取り入れた具体的なスケジュール” などより計画をよくするために考えをまとめる。 8. 対話活動② ・対話活動①より具体的なスケジュールを計画する。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・活動6の場面では、新出表現を発言した生徒を価値づけ、新出表現を中心に板書する。また相手の好みを引き出すような既習表現を使っていた生徒を紹介し、会話の中で適切に使用していたことを理解させる。
ま と め る	9. 振り返り ・本時で使用した表現の確認と、計画したベストプランを全体で交流する。 《終末における生徒の姿》 S1: What do you want to join? S2: I want to join event A. I want to listen to music. S1: What do you want to do? S2: I want to eat a lot. S1: What do you want to eat? S2: I want to eat curry and rice.	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・活動9の場面では、本時の課題を達成できたか確認させることで授業の一貫性を作り、新出表現の場面状況理解につなげる。 ・“What do you want to～?” を使用することで、互いの好みに合ったプランができたことを実感させる。 【知識・技能】「話すこと（やりとり）」 “What do you want to～?” の表現を使って、国際交流イベントで相手のしたい事を尋ねることができる。 （評価方法） ・対話活動における表現内容の適切さ ・ワークシートの記入内容（ベストプラン案と、相手に尋ねる英語表現）

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

社会的な話題に関して聞いたり読んだり、見たりしたことについて、自分の考えや気持ちを述べ合うことができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

・〈疑問詞＋to〉を用いた文や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉の文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。

思考力、判断力、表現力等

・ユニバーサルデザインについて学び、瑞穂市に住む外国の方々にとって、より住みやすくするために必要なことが何かを考え、自分の考えを述べ合うことができる。

学びに向かう力、人間性等

・ユニバーサルデザインについて学び、瑞穂市に住む外国の方々にとって、より住みやすくするために必要なことが何かを考え、自分の考えを述べ合おうとしている。

単元の課題

瑞穂市に住む外国の方々にとって、より住みやすくなるために必要なことが何かを考え、自分の考えを述べ合おう。

後日 ペーパーテスト 知識・技能

後日 パフォーマンステスト 思考・判断・表現

①外国から日本にきた方たちが住みやすい場所にするために何が必要かを考え、考えを述べ合うことができる。

②ALT が困っていることを聞き、解決策を考え、簡単な語句や文を用いて答えている。

第10時 (Unit Activity《本時》) 思考・判断・表現

①瑞穂市が外国の方々にとってより住みやすいまちにするための考えを話し合う活動を通して、相手の意見を踏まえながら自分の考えを述べることができる。

第8時, 9時 (Read and Think2) 思考・判断・表現

①ユニバーサルデザインについて理解し、だれのためにどのようなユニバーサルデザインが使われているか、紹介し合うことができる。

②瑞穂市や学校ではユニバーサルデザインがどこに使われているかを交流する。

第6時, 7時 (Read and Think1) 思考・判断・表現

①本文の読み取りからユニバーサルデザインが様々な人の助けになっていることを理解する。

②高齢者や身体障がい者の方たちが住みやすくなるための考えを伝え合い、彼らのためのユニバーサルデザインはどのようなものがあるか交流する。

第4, 5時 (Scene2) (Mini Activity) 知識・技能

①登場人物の会話を聞いて、ユニバーサルデザインの製品について調べ、便利だと思うものを、理由をつけて伝えることができる。

②ユニバーサルデザインが使われている製品を調べ、一番便利だと思ったものについて紹介し合う。

第2, 3時 (Scene1) 知識・技能

①ユニバーサルデザインについて知り、どのようなものにユニバーサルデザインが使われているか読み取ることができる。

②自分たちの生活を振り返り、ユニバーサルデザインがどこに使われているか意見を交換する。

第1時 (オリ, Story1①) 主体的に学習に取り組む態度 知識・技能

①外国から日本にきた方たちが住みやすい場所にするために何が必要かを考え、考えを述べ合うことができる。

②ALT が困っていることを聞き、解決策を考え、仲間と意見交流する。

【活用できる知識】

- ・ There＋be 動詞＋～
- ・ It＋be 動詞＋～
(＋for)＋to 不定詞
- ・ 主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節
- ・ 助動詞
(can, will, may, must)

【活用できる表現】

- ・ 説明する
It's A. A is ～.
- ・ 描写する
They're brown.
- ・ 意見を言う
I think ～.

【活用できる技能】

- ・ 詳しく紹介する技能
- ・ 自分の考えや意見を伝える技能
- ・ 相手から情報を聞き出す技能

1 単元名

Unit5 Universal Design

2 本時のねらい〈領域：話すこと（やりとり）〉

瑞穂市が外国の方々にとってより住みやすいまちにするための考えを話し合う活動を通して、相手の意見を踏まえながら自分の考えを述べることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方 【コミュニケーションを中心とした学び】

瑞穂市を外国の方々にとってより住みやすいまちにするためにはどうしたらよいかという目的、場面、状況を理解し、目的達成のために自分の考えを互いに伝え合い、その内容を深め合う。

4 本時の展開案（10／10）

学習活動	指導・援助
つかむ 1. Oral Introduction ○Leizel said that foreign people have some problems when they live in Japan. It's difficult for them to read Japanese so they can't understand many things at restaurants, shops, train stations, bus stops, hospitals, and so on. Please help foreign people living in Mizuho City. 2. 課題提示 課題 瑞穂市が外国の方々にとってより住みやすいまちにするためにはどうしたらよいか、自分の考えを伝え合おう。 3. 対話活動 ・瑞穂市を外国の方々にとって、より住みやすくするためにはどのようなユニバーサルデザインが有効なのかを考え、ペアで互いの意見を交流する。 A: I think we should make an English menu. B: Oh, it's a good idea. They can choose their favorite menu easily at a restaurant. A: Yes. They can go to all restaurants in Mizuho City. B: I think we should make English signs, too. A: I see. Many foreigners drive a car. ○Look at this table. Can all foreigners speak English? Do you have any ideas to help all foreigners? ○I found an article on the Internet. According to the article, many foreign people feel lonely because they can't communicate with other person. What do you think? 《終末における生徒の姿》 A: I think that we should put foreign languages on the menu at the restaurant. B: Oh, it's a good idea because some foreigners can't understand English. Using pictures on the menu can help, too. A: You're right. Then, they can go to all restaurants in Mizuho City easily. B: If I find people in trouble, I want to help them. A: Great! You can use your Ipad. If you don't have, using gesture is good help to understand. 4. 振り返り ・ワークシートに自己評価を記入する。 深める まとめる	《焦点化された学習課題の設定について》 ・教師の Oral Introduction を通して、ALT が実際に困っていることを伝えることで具体的な目的・場面・状況を設定する。また、生徒たちに対話する必然性や ALT を含む外国人のために一生懸命考え、何とかしてあげたいという思いを1人1人にもたせる。 《学び合いの場のねらいについて》 ・活動3で即興的に互いの考えを伝え合う中で、内容を深めさせる。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・活動3で生徒の対話を聞き取り、活動の途中で目的・場面・状況に即した内面的な気付きを生むような発問を全体に行い、生徒一人一人にさらに考えさせる。 《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・活動3の最初と最後に同じペアで交流することで、やり取りの違いや使えるようになった表現に気付かせ、表現の広がりを実感させる。 ・活動4で自分が伝えられるようになった表現を書きまとめる。また、交流した中での仲間のよさを共有して、認め合い、学び合うことができるようにする。 評価 規 準 【思考・判断・表現】「話すこと（やりとり）」 瑞穂市が外国の方々にとってより住みやすいまちにするための考えを話し合う活動を通して、相手の意見を踏まえながら自分の考えを述べている。 (評価方法) ・交流の様子 ・振り返りの記述内容

単元構造図 単元名：Unit5 Universal Design (NEW HORIZON2)

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

社会的な話題に関して聞いたり読んだり，見たりしたことについて，自分の考えや気持ちを述べ合うことができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

・〈疑問詞＋to〉を用いた文や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉の文の形・意味・用法を理解し，正しく使うことができる。

思考力，判断力，表現力等

・ユニバーサルデザインについて学び，瑞穂市に住む外国の方々にとって，より住みやすくするために必要なことが何かを考え，自分の考えを述べ合うことができる。

学びに向かう力，人間性等

・ユニバーサルデザインについて学び，瑞穂市に住む外国の方々にとって，より住みやすくするために必要なことが何かを考え，自分の考えを述べ合おうとしている。

単元の課題

瑞穂市に住む外国の方々にとって，より住みやすくなるために必要なことが何かを考え，自分の考えを述べ合おう。

後日 ペーパーテスト **知識・技能**

後日 パフォーマンステスト **思考・判断・表現**

①外国から日本に来た方たちが住みやすい場所にするために何が必要かを考え，考えを述べ合うことができる。

②ALT が困っていることを聞き，解決策を考え，簡単な語句や文を用いて答えている。

第10時 (Unit Activity) **思考・判断・表現**

①瑞穂市が外国の方々にとってより住みやすいまちにするための考えを話し合う活動を通して，相手の意見を踏まえながら自分の考えを述べるができる。

第8時，9時 (Read and Think2《本時》) **思考・判断・表現**

①ユニバーサルデザインについて理解し，だれのためにどのようなユニバーサルデザインが使われているか，紹介し合うことができる。

②瑞穂市や学校ではユニバーサルデザインがどこで使われているかを交流する。

第6時，7時 (Read and Think1) **思考・判断・表現**

①本文の読み取りからユニバーサルデザインが様々な人の助けになっていることを理解する。

②高齢者や身体障がい者の方たちが住みやすくなるための考えを伝え合い，彼らのためのユニバーサルデザインはどのようなものがあるか交流する。

第4，5時 (Scene2) (Mini Activity) **知識・技能**

①登場人物の会話を聞いて，ユニバーサルデザインの製品について調べ，便利だと思うものを，理由をつけて伝えることができる。

②ユニバーサルデザインが使われている製品を調べ，一番便利だと思ったものについて紹介し合う。

第2，3時 (Scene1) **知識・技能**

①ユニバーサルデザインについて知り，どのようなものにユニバーサルデザインが使われているか読み取ることができる。

②自分たちの生活を振り返り，ユニバーサルデザインがどこに使われているか意見を交換する。

第1時 (オリ，Story1①) **主体的に学習に取り組む態度** **知識・技能**

①外国から日本に来た方たちが住みやすい場所にするために何が必要かを考え，考えを述べ合うことができる。

②ALT が困っていることを聞き，解決策を考え，仲間と意見交流する。

【活用できる知識】

- ・ There＋be 動詞＋～
- ・ It＋be 動詞＋～
(＋for)＋to 不定詞
- ・ 主語＋be 動詞＋形容詞＋that で始まる節
- ・ 助動詞
(can, will, may, must)

【活用できる表現】

- ・ 説明する
It's A. A is ～.
- ・ 描写する
They're brown.
- ・ 意見を言う
I think ～.

【活用できる技能】

- ・ 詳しく紹介する技能
- ・ 自分の考えや意見を伝える技能
- ・ 相手から情報を聞き出す技能

Unit5 Universal Design

ユニバーサルデザインについて紹介する活動を通して、だれのためにどんなユニバーサルデザインが使われているか理解を深め、瑞穂市や学校ではどのようなところにユニバーサルデザインが使われているか伝えることができる。

対話活動を即興的に繰り返す行う中で、相手の考えを聞き、自分の表現の中に取り入れる。

学習活動		指導・援助
つかむ	1. Small Talk S1: What is fun for you? S2: Playing games is fun. 2. Oral Introduction ・学校にあるユニバーサルデザインを紹介し、使い方を推測する。 3. 課題提示 課題 身近な瑞穂市の人にとってどのようなユニバーサルデザインがあるか考えよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・単元の終末の活動を意識させる。瑞穂市に住む外国の方々にとってより住みやすくするために必要なことは何か、誰のためのユニバーサルデザインなのか、より高い相手意識をもって考えられるように設定した。
	4. 対話活動① ・写真を用いて、瑞穂市や学校で使われているユニバーサルデザインを紹介する。 5. 中間交流 ・対話活動の際に難しいと感じた表現を確認する。 ・より住みやすい瑞穂市にするために、誰のためにどのようなユニバーサルデザインがあるのかを詳しく聞くための有効な質問を紹介する。 ・単元の最後の活動を確認し、より相手意識を大切にしたい対話活動を行う。 6. 対話活動② ・対話活動①を活かして、誰のためにどのようなユニバーサルデザインが使われているかをより相手に伝えわるように対話活動を行う。 7. 中間交流 ・瑞穂市にあるユニバーサルデザインを交流した感想を伝え合う。 8. 対話活動③ ・単元の導入時に見た瑞穂市の年齢分布や外国人口推移グラフを確認し、瑞穂市に住む外国人がどのようなことに困っているか対話する。 9. 振り返り ・ワークシートに自己評価を記入する。	《学び合いの場のねらいについて》 ・ペアでの交流を繰り返し行うことで、学び得た情報や文法をその場ですぐに活用させ、より正確で実践的な英語表現の習得へとつなげている。 《学びを促進させる教師の出場について》 ・対話活動中、生徒が話している疑問文や応答文を聞き取って板書することで、生徒の困り感を解消し、自信をもって対話活動に取り組めるようにする。 ・中間交流では、相手意識をもってわかりやすく表現している生徒を紹介し、話すことに困り感をもっている生徒にとって見通しがもてるようにする。
深める	《終末における生徒の姿》 A : Look at this picture. B : Where did you find it? A : I found it at Hozumi station. Do you know how to use this? B : I think it's a universal design for blind people. I can see braille. A : That's right. B : Thanks to the braille, blind people can use stairs easily. A : It's very useful, right?	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・対話活動時は、ペアを何度も替えて行い、回数を重ねる度に自信をもって自分の考えを相手に伝えることができるようにする。 ・活動の最後には、自己評価を通して自己の学びや活動の達成感を実感させる。
	【思考・判断・表現】「話すこと（やりとり）」 ユニバーサルデザインについて紹介する活動を通して、誰のためにどのようなユニバーサルデザインが使われているか理解を深め、瑞穂市や学校でどのようなところにユニバーサルデザインが使われているか伝えている。 （評価方法） ・対話活動における表現内容の適切さ ・ワークシートへの記述	評価 標準
まとめる		

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりすることができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

・〈不定詞(to+動詞の原形)〉の名詞用法や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。

思考力、判断力、表現力等

・世界まで視野を広げ、自分の行きたい国について理由を付け加えて話したり、世界的問題や地域問題に関わる資料を読み取り、自分なりの感想や意見を聞き手に伝えたりすることができる。
・身近な人物や興味のある有名人、憧れの人について互いにたずねたり、説明したりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

・話題やテーマに対して、自分なりの感想や意見を相手に伝えようとしている。
・相手から多くの情報を聞き出すために、簡単な語句や文を用いてたずねようとしている。

単元の課題

自分が好きな有名人や憧れの人について、聞き手がもっと知りたくなるような魅力あふれる紹介をしよう。

後日 ペーパーテスト **知識・技能**

後日 パフォーマンステスト **思考・判断・表現**

①ALTと学級の仲間に対して、自分が好きな有名人や憧れの人について、タブレットで写真や自分が書きまとめた情報を見せながら紹介している。

②発表の内容に関わるALTの質問に、簡単な語句や文を用いて答えている。

第10時 (Stage Activity 2) **思考・判断・表現** ※単元終末の活動

①身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりしている。

第9時 (Let's Listen 2) **知識・技能**

①電話連絡を聞いて、その全体の内容を理解し、必要な情報を聞き取ることができる。

第8時 (Let's Talk 3) **思考・判断・表現**

①地図を見ながら、ペアで徒歩での道順をたずねたり、教えたりしている。

第7時 (Unit Activity) **思考・判断・表現**

①global issues (世界的問題) や local issues (地域の問題) について、現状や自分の考え・思いを、タブレットを活用して1枚のポスターに書きまとめ、学級の仲間に紹介したり、交流したりしている。

第6時 (Story3) **知識・技能**

①国際協力・交流イベントの発表内容を聞いて、同じ国でも地域によって生活格差が生まれていることを理解する。

②〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。

第4, 5時 (Mini Activity①, Mini Activity②) **思考・判断・表現**

①自分が行ってみたい国についてタブレットを活用して情報を収集し、整理している。

②自分が行ってみたい国について、なぜその国に行きたいのか、その国で何がしたいのかなど理由を付け加えて話したり、相手の興味関心に合わせて即興的に国の紹介文を考えて伝えたりしている。

第2, 3時 (Story1②《本時》, Story2①) **知識・技能**

①不定詞(to+動詞の原形)を理解し、自分の目標とする人の魅力について紹介する。

②メグと海斗の対話を聞いて、海斗の提案に対するメグの意見を理解する。

第1時 (オリ, Story1①) **主体的に学習に取り組む態度** **知識・技能**

①教科書の資料動画や教師の憧れの人物に関する発表を見たり、聞いたりする活動を通して、単元で貫く活動を理解し、見通しをもとうとしている。

②メグのスピーチを聞いて、メグが目標とする人物について理解する。

【活用できる知識】

■詳しい情報を伝える

・I am ～ .
・I like ～ .
・I can ～ .
・I like ○○ing ～ .
・be good at ～ .
・I am ○○ing ～ .
・be/一般動詞の過去形
・前置詞 ・代名詞
・三単現 など

■自分の考えを伝える

・I think ～ .

■相手から情報を聞き出す

・Do you ～ ?
・Does he/she ～ ?
・Can you ～ ?
・Where/When/Who/What /Why/How/Whose ～ ?

■理由を付けて伝える

・Because ～ .

【活用できる技能】

・詳しく紹介する技能
・自分の考えや意見を伝える技能
・相手から情報を聞き出す技能

1 単元名

Unit9 Think Globally, Act Locally

2 本時のねらい＜領域：話すこと（発表）＞

自分の目標とする人の思いや努力について，“want to～”や“try to～”を使って，紹介することができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方【コミュニケーションを中心とした学び】

対話活動①②では，原稿を用意せず，即興的に話す。終末では，“want to～”や“try to～”を使った英文を書くことで，発話内容が文法的に正しかったかをセルフチェックし，本時の文法内容の定着を図る。

4 本時の展開案（2／10）

	学習活動	指導・援助
つかむ	1. Small Talk S1: Who is your favorite person? S2: I like Otani Shohei. S1: Why? S2: He is cool. He can play baseball well.	《焦点化された学習課題の設定について》 ・憧れの人の裏に隠された思いや努力が伝わる紹介をし合うことで，“want to～”や“try to～”の表現を自然な形で使えるよう課題を設定した。仲間が知らない情報を紹介することで「伝えたい，聞きたい」気持ちを引き出す。
	2. 課題提示 課題 憧れの人の魅力を紹介しよう。	《学び合いの場のねらいについて》 ・対話活動①②の場面では，ペアを変えて色々な仲間と紹介をし合うことで“want to～”や“try to～”を用いた表現の使い方を理解し，自分の紹介文にも取り入れる。
深める	3. 対話活動① ・憧れの人の魅力が伝わるように紹介する。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・全体交流①の場面は，1度でまとめて指導しようとせず，必要なタイミングを見計らって適宜行う。“want to～”や“try to～”を使った表現の例を多く紹介し，板書に位置付け，“want to～”や“try to～”の後には動詞の原形を置く必要があることを確認する。 ・教科書 Unit9-1 のメグの憧れの人物紹介から，他に取り入れられそうな表現がないかを考えさせる。
	4. 全体交流① ・魅力を伝えるために“want to～”や“try to～”を使って，憧れの人の思いや努力を紹介している生徒の発表を聞く。 ・前時までの学習を振り返って，既習の表現から紹介に使えるような表現を考える。	
まとめる	5. 対話活動② ・憧れの人の裏に隠された思いや努力をより相手に伝えるために，全体交流で学んだ新しい表現を付け加えながら紹介する。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・対話活動①②でペアを替えて繰り返し紹介することで，自信をもって話せるようにする。 ・振り返りで紹介文を英語で書いた後，文法的な誤りをセルフチェックさせ，“want to～”や“try to～”を使った表現の正確性を高める。また，Small Talk で対話したときより，対話活動①②を通して憧れの人の魅力を詳しく紹介することができたことを実感させる。
	6. まとめ ・ALT からのコメントを聞いた後，ALT による憧れの人紹介を聞いて理解する。	
	7. 振り返り ・自分の紹介から“want to～”や“try to～”を使った表現を書くことで，憧れの人の思いや努力を伝えられたことを振り返ると共に，即興的に話すことで間違えやすい箇所気付き，より正確性を高める。	【知識・技能】「話すこと（発表）」 自分の目標としている人の裏に隠された思いや努力について，“want to～”や“try to～”を使って紹介している。 （評価方法）対話活動における発言内容 ワークシート
	《終末における生徒の姿》 ・ He tries to practice baseball and clean his room. ・ He wants to be a strong and kind man. ・ He tries to eat good balanced meal every day. ・ I want to be like him.	

単元構造図 単元名：Unit5 A Legacy for Peace (NEW HORIZON3)

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(発表)〉

日本や海外の文化などについて、自分の作成したパンフレットを活用し、分かりやすくまとまりのある内容を話すことができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

・関係代名詞の用法を理解し、人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる。

思考力、判断力、表現力等

・ALT の友人の要望を理解し、相手が興味のある日本の文化について、より魅力が伝わるように詳しく伝えようとしている。

学びに向かう力、人間性等

・相手の要望に応えるために、より詳しい内容を伝え、魅力を伝えようとしている。

単元の課題 日本を訪れる ALT の友人のために、日本や日本の郷土文化の魅力が伝わる紹介をしよう。

第12時 (Let's Listen) **知識・技能**

①人物の経歴を聞いて、インタビューの概要を理解する。

第13時 (Grammar for Communication) **知識・技能**

①様々な種類の後置修飾の用法を正しく理解する。

第10, 11時 (Stage Activity) **思考・判断・表現**

①日本を訪れる人たちに魅力が伝わるように、日本や郷土の文化について調べ、詳しい情報や自分の考えを含め、話そうとしている。

②日本や郷土の文化などを紹介する文章を、詳しい情報や自分の考えを含めて書きまとめる。

Doll's festival is a traditional event that is held in March. It is to celebrate girls growing healthy. Hina dolls are set up at home. People usually eat *chirashizushi*, *hishimochi* and *hinaarare*. They are very delicious. I think this event makes not only girls, but also boys happy every year.

第9時 (Let's Write) **知識・理解**

①朝美が書いたレポート文の文章構成に着目し、読みやすい文章構成の工夫を理解することができる。

第8時 (Unit Activity②《本時》) **思考・判断・表現**

①日本を平和な国にしようと努めたと思う人について、その理由を明確にしながら

第7時 (Unit Activity①) **思考・判断・表現**

①関係代名詞の主格と目的格の違いについて理解することができる。

②あこがれの人物について、その人の魅力が伝わるようにより詳しい情報を付けて加えて話そうとしている。

第5, 6時 (Read and think ①②) **思考・判断・表現**

①本文の読み取りから、ガンディーが行ってきた様々な活動について理解する。

②ガンディーの人生に触れ、自分なりの考えや意見をお互いに伝え合う。

第4時 (Scene 2) **知識・技能**

①登場人物の会話を聞いて、ガンディーの生き方や功績について理解する。

②第1時で紹介した人物について、関係代名詞を使って紹介文を書くことができる。

第2, 3時 (Scene 1) **知識・技能**

①ジョシュとマリアの対話を聞いて、ガンディーについて読み取る。

②名詞を修飾する文の特徴について理解し、より詳しく相手に伝える。

第1時 (オリエンテーション) **主体的に学習に取り組む態度**

自分の好きな歴史的な人物について紹介することができる。

人物を紹介する活動を通して、単元で貫く活動を理解し、見通しをもつ。

【活用できる知識】

(より詳しい情報を伝える)

・名詞＋主語＋動詞

・関係代名詞

・For example ～

・There is (are) ～

(自分と関連付けて伝える)

・I think ～

・It makes me ～

・I have ○○ many times.

(相手に提案する)

・You must ○○

・You should ○○

(理由を付けて伝える)

・Because ～

・It is 形容詞

(famous/ popular)

【活用できる技能】

・詳しく紹介する技能

・相手の要望に応じる技能

・自分の考えを伝える技能

1 単元名

Unit5 A Legacy for Peace

2 本時のねらい <領域：話すこと（発表）>

人物を仲間に紹介する活動を通して、その人物が日本を平和な国にしたと思える理由を相手に伝えようとすることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方【コミュニケーションを中心とした学び】

ペア活動を中心に授業を展開し、相手に実績が伝わる表現を考えさせる。

4 本時の展開案（8／13）

学習活動		指導・援助
つかむ	1. Oral Interactive Introduction In this unit, we learned about Gandhi. I think he is a great person because he made this world peace. So today, we will talk about peace. 2. 課題提示 課題 平和な国にしようとした人物について紹介しよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 ・「日本を平和にした人物」とすることで目的・場面・状況に合った会話になるように促す。 ・単元の終末で行う紹介活動を意識し、Unit5の一単位時間すべてに紹介活動を位置付ける。
	3. 交流①（ペア活動） Topic1 「What is peace?」 ・自分の考えを即興で話す。 ・全体交流で平和についての考えを共有する。	《学び合いの場のねらいについて》 ・既習表現を表出させる場として何度もペア活動を行う。また、即興での活動を行うことで、表現の仕方を考えさせる。会話を繰り返すことで、自分の得意な表現を定着させたり、相手の表現から想起し、自分の表現に活かしたりする。
	4. 交流②（ペア活動） Topic2 「Is Japan peace?」 ・自分の考えを即興で話す。 ・全体交流で平和についての考えを共有する。	《学びを促進させる教師の出場について》 ・会話の Topic を3つ用意することで、平和についてより深く考えさせる。また、話す内容が変わることで、既習した表現を活用する場面を多く設定する。 ・会話の中で困り感をもっている生徒がいないか机間指導を行う。共通の間違いが多い場合は全体でその都度確認する。 ・紹介文を書きまとめる際、教師のモデルを提示することで、文の構成や内容を意識させる。
	5. 交流③（ペア活動） Main topic 「Who made Japan peace?」 ・課題に沿った人物について即興で話す。 6. 情報の追加 ・紹介している人物について、タブレットを活用して実績を調べ、整理する。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・ペア交流で表現した内容を書きまとめることで、文章の構成や実績が伝わる部分を確認させる。
深め	7. 交流④（ペア活動） ・新しく調べた情報を付け加え、即興で話す。 8. 振り返り ・教師のモデルを提示する。 ・紹介した人物についての紹介文を書きまとめる。	評価規準 【思考・判断・表現】「話すこと（発表）」 日本を平和な国にしようとしたと思う人について、その理由を明確にしながら、相手に話そうとしている。 （評価方法） 対話の様子、ワークシート
まとめ	《終末における生徒の姿》 The person I respect is Tokugawa Ieyasu. In 1600, he fought at Sekigahara. After 3 years, he started the Edo era.	

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりすることができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

- ・〈不定詞(to+動詞の原形)〉の名詞用法や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・世界まで視野を広げ、自分の行きたい国について理由を付け加えて話したり、世界的問題や地域問題に関わる資料を読み取り、自分なりの感想や意見を聞き手に伝えたりすることができる。
- ・身近な人物や興味のある有名人、憧れの人について互いにたずねたり、説明したりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

- ・話題やテーマに対して、自分なりの感想や意見を相手に伝えようとしている。
- ・相手から多くの情報を聞き出すために、簡単な語句や文を用いてたずねようとしている。

単元の課題

自分が好きな有名人や憧れの人について、聞き手がもっと知りたくなるような魅力あふれる紹介をしよう。

後日 ペーパーテスト **知識・技能**

後日 パフォーマンステスト **思考・判断・表現**

- ①ALT と学級の仲間に対して、自分が好きな有名人や憧れの人について、タブレットで写真や自分が書きまとめた情報を見せながら紹介している。
- ②発表の内容に関わる ALT の質問に、簡単な語句や文を用いて答えている。

第10時 (Stage Activity 2) **思考・判断・表現** ※単元終末の活動

- ①身近な人物や有名人について、簡単な語句や文を用いてたずねたり、答えたりしている。

第9時 (Let's Listen 2) **知識・技能**

- ①電話連絡を聞いて、その全体の内容を理解し、必要な情報を聞き取ることができる。

第8時 (Let's Talk 3) **思考・判断・表現**

- ①地図を見ながら、ペアで徒歩での道順をたずねたり、教えたりしている。

第7時 (Unit Activity) **思考・判断・表現**

- ①global issues (世界的問題) や local issues (地域の問題) について、現状や自分の考え・思いを、タブレットを活用して1枚のポスターに書きまとめ、学級の仲間に紹介したり、交流したりしている。

第6時 (Story3) **知識・技能**

- ①国際協力・交流イベントの発表内容を聞いて、同じ国でも地域によって生活格差が生まれていることを理解する。
- ②〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。

第4, 5時 (Mini Activity①, Mini Activity②《本時》) **思考・判断・表現**

- ①自分が行ってみたい国についてタブレットを活用して情報を収集し、整理している。
- ②自分が行ってみたい国について、なぜその国に行きたいのか、その国で何がしたいのかなど理由を付け加えて話したり、相手の興味関心に合わせて即興的に国の紹介文を考えて伝えたりしている。

第2, 3時 (Story1②, Story2①) **知識・技能**

- ①不定詞 (to+動詞の原形) を理解し、自分の目標とする人の魅力について紹介する。
- ②メグと海斗の対話を聞いて、海斗の提案に対するメグの意見を理解する。

第1時 (オリ, Story1①) **主体的に学習に取り組む態度** **知識・技能**

- ①教科書の資料動画や教師の憧れの人物に関する発表を見たり、聞いたりする活動を通して、単元で貫く活動を理解し、見通しをもとうとしている。
- ②メグのスピーチを聞いて、メグが目標とする人物について理解する。

【活用できる知識】

■詳しい情報を伝える

- ・I am ～ .
- ・I like ～ .
- ・I can ～ .
- ・I like ○○ing ～ .
- ・be good at ～ .
- ・I am ○○ing ～ .
- ・be/一般動詞の過去形
- ・前置詞 ・代名詞
- ・三単現 など

■自分の考えを伝える

- ・I think ～ .

■相手から情報を聞き出す

- ・Do you ～ ?
- ・Does he/she ～ ?
- ・Can you ～ ?
- ・Where/When/Who/What /Why/How/Whose ～ ?

■理由を付けて伝える

- ・Because ～ .

【活用できる技能】

- ・詳しく紹介する技能
- ・自分の考えや意見を伝える技能
- ・相手から情報を聞き出す技能

1 単元名

Unit9 Think Globally, Act Locally

2 本時のねらい <領域：話すこと（やりとり）>

自分が行ってみたい国について、なぜその国に行きたいのか、その国で何がしたいのか理由を付け加えて話したり、聞き手の興味関心に合わせてその国に行きたくするような紹介文を即興的に作って伝えたりすることができる。

3 本時における教科の特性を生かした学び方 【コミュニケーションを中心とした学び】

対話活動を即興的に繰り返し行う中で、英語表現の適切さや正確さを高め、定着させる。

4 本時の展開案（5／10）

学習活動		指導・援助
つかむ	1. Small Talk ※始業前学習で行う。 S1: What do you want to be in the future? S2: I want to be like my mother.	《焦点化された学習課題の設定について》 ・今までの授業やアメリカオレゴン州からのホームステイツアーを通して、生徒は海外の生活や文化に強い興味を抱いている。本時では、「どこの国に行きたいか」だけではなく、「聞き手も行きたくするような紹介文を即興的に考える」ところまで行うことで、目的意識や課題を達成する意欲をより高くもたせるよう設定した。
	2. 課題提示 課題 相手が興味をもち、「自分も行ってみよう」と思えるような国の紹介をしよう。	
	3. 対話活動① ・自分がその国に行きたい理由を相手に話したり、理由を聞くために質問したりする。 S1: Where do you want to go? And why? S2: I want to go to America. First, baseball is popular. Second,....	
	4. 対話活動② ・相手の興味関心に合わせて、自分が選んだ国の紹介文を即興的に伝える。 S1: What do you like? S2: Sports. S1: I tell you about Ohtani Shohei. He is very popular in America...	
	5. 全体交流① ・教師とALTの対話を聞いて、より相手が興味をもち、聞きたくなるような発表の仕方の工夫を考える。	
深める	6. 対話活動③ ・一方的に話すだけでなく、相手も巻き込みながら即興的な紹介文を考え、伝える。【対話内容を深める】	《学び合いの場のねらいについて》 ・学び合いの場を「ペア」と「全体」の2種類に分け、それぞれ複数回設定している。繰り返し行うことで、学び得た情報や文法をその場ですぐに活用させ、より正確で実践的な英語表現の習得へとつなげている。
	7. 全体交流② ・選出された仲間の発表を聞いて、自分が話した対話活動における表現内容と比較して考え、振り返る。	
	8. 振り返り ・ワークシートに自己評価を記入する。	
まとめる	《終末における生徒の姿》 S1: What do you like? S2: Food and sports. S1: OK. ... Do you know "Ohtani-san"? S2: Yes, of course. S1: Good. Baseball is very popular in America. You can see it in many stadiums. And in America, big hamburgers are famous, too. Let's eat it!	《学びを促進させる教師の出場について》 ・対話活動中、生徒が話している疑問文や応答文を聞き取って板書することで、生徒の困り感を解消し、より自信をもって対話活動に取り組めるようにする。また、対話活動②③では相手の興味関心に応じて紹介文を即興的に話させることで、目的・場面・状況に応じた表現内容を考え、活用する力を身に付けさせる。
		《生徒が学びを実感できるための手立て》 ・対話活動時は、スクランブルで2人1組の机を向かい合わせた状態で、相手との対話に集中できるようにする。また繰り返しペアを替えることで、役に立ちそうな表現を吸収したり、回数を重ねる度により自信をもって自分の考えを相手に伝えたりできるようにする。
	評価規準	【思考・判断・表現】「話すこと（やりとり）」 自分が行ってみたい国について、なぜその国に行きたいのか、そこで何をしたいのかなど理由を付け加えて話したり、相手の興味関心に合わせて即興的に国の紹介文を考えて伝えたりしている。 (評価方法) ・対話活動における表現内容の適切さ ・ワークシートへの記述

単元のねらい〈瑞穂市 CAN-DO-LIST〉 〈領域：話すこと(やりとり)〉

現在進行形を用いて、今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。

〈単元で付けたい力〉

知識及び技能

- ・現在進行形〈be 動詞+…ing〉を用いた肯定文・疑問文と感嘆文〈How+形容詞か副詞+!〉〈What+名詞を含む語句+!〉の形・意味・用法を理解できる。
- ・場面に応じて、現在形と現在進行形〈be 動詞+…ing〉を使い分けて、書くことができる。

思考力、判断力、表現力等

- ・目的や状況に応じたメッセージカードを書いている。

学びに向かう力、人間性等

- ・教師や仲間の説明を聞き、異なる表現で説明できることに気付き、自分の会話に取り入れようとしている。

単元の課題

日本の学生の1日の生活について ALT の先生に伝える文を書こう。

第7時(学び方コーナー4・Grammar for Communication6・まとめ) 思考・判断・表現

日本の学生の1日の生活について ALT の先生に伝える文を書こうとしている。

第6時(Let's Write① お祝い—グリーティングカード—) 思考・判断・表現
目的や状況に応じたメッセージカードを書いている。

第5時(Story③) 知識・技能

海斗やメグの会話を読み、彼らが使っている現在進行形の疑問文とその答え方を理解することができる。

第4時《本時》(Mini Activity・Unit Activity) 知識・技能

ジェスチャークイズや Who am I?クイズを通して、自分や仲間が今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。

第3時(Story②) 知識・技能

ジョシュと朝美の会話を読み、彼らが使っている現在進行形の疑問文とその答え方を理解することができる。

第2時(Story①) 知識・技能

海斗とメグの会話を読み、彼らが使っている現在進行形を理解することができる。

第1時(Starting Out・Preview) 主体的に学習に取り組む態度

朝美や海斗の会話聞き、本単元で学ぶことについて見通しをもつことができる。

【既習事項
(文構造、文法事項)】

- ・前置詞 (by in on under)
- ・like…ing
- ・be good at …ing
- ・不規則変化の過去形 (went ate saw had was)
- ・三人称単数現在形
- ・代名詞

など

【活用できる表現】

- ・人物がいる場所
I am in the gym.
- ・形容詞の活用
long hair
blue T-shirt

など

1 単元名 Unit8 A Surprise Party

2 本時のねらい

ジェスチャークイズや Who am I?クイズを通し、状況に応じて、現在進行形の肯定文、疑問文で話すことができる。

<領域：話すこと（やりとり）>

3 本時における教科の特性を生かした学び方

対話活動や繰り返し練習を積むことで、現在進行形の表現を理解し、活用している。【コミュニケーションを中心とした学び】

4 本時の展開案（ 4 / 7 ）

学 級：I 学級 2 組

場 所：I 学級 2 組教室

授業者：戸本 賢吾

学習活動		A（3年女子）	B（3年男子）	C（3年男子）	配慮事項
指導・援助		・予想される反応 ◎支援（手立て）			
つかむ	1. 教科書の登場人物や自分自身の行動を確認する。 ○ What is Meg doing? ・ She is watching TV. ○ What is Kaito doing? ・ He is decorating the room. ○ What are you doing? ・ I am studying English.	・ “She is watch TV.” ・ “I studying English.” ◎反復練習をする。	・ 「テレビを見ている」 ・ 「英語の授業」 ◎ “She watches TV.” “I study English.” を英語の表現を確認し、反復練習をする。	・ 「テレビを見ている」 ・ 「英語の授業」 ◎ “She watches TV.” “I study English.” を英語の表現を確認し、反復練習をする。	・ 英語能力に個人差が大きくあるため、少しでも英語を話そう促す。
	課題 相手の行動を尋ねたり、自分の行動を伝えたりしよう。	《焦点化された学習課題の設定について》 課題の中や説明の中に「現在進行形を使う」と伝えないことで、今回の活動でどんな表現を使うのかを考えさせたり、誤っている場合は解説を入れて気付かせたりする。			
	2. ジェスチャークイズのルールを確認し、自分が行うジェスチャーを考える。 ・ ジェスチャーを考える。 3. ジェスチャークイズをする。 A: What am I doing? B: Are you playing the guitar? A: Yes, I am. →当たったら次のジェスチャー。 No, I am not. →当たるまでたずねる。	・ 自分ができるジェスチャーを考えたり、仲間のジェスチャーの尋ね方を考えたりする。 ◎「もし、相手がギターをしていたら？」と声を掛け、“Are you playing the guitar?”と問い掛けれるよう仕向ける。 ◎本人自身が誤りに気付くように定型文を板書に位置付ける。現在進行形を使って、相手に問いかけたことを価値付ける。	・ ジェスチャーするイメージがつかない。 ◎教科書の Word Room のページを参考にするよう促す。 ◎本人自身が誤りに気付くように定型文を板書に位置付ける。英語を使って、相手に問いかけたことを価値付ける。 Dancing? piano?	・ ジェスチャーをすることに抵抗する。 ◎教科書の Word Room のページを参考にするよう促す。 ◎本人自身が誤りに気付くように定型文を板書に位置付ける。英語を使って、相手に問いかけたことを価値付ける。 Dancing? piano?	・ 学習自体に取り組めない場合は、休憩をとる。

4. Who am I? クイズのルールを確認し、教科書の人物の特徴をつかむ。 ・写真の人物の特徴を考える。 5. Who am I?クイズをする。 A: I'm in the gym. I'm wearing a yellow T-shirt. I have long hair. Who am I? B: Are you Nana? 6. まとめをする。 ○教師が準備した人物の写真や絵を見せ、その人物の動作や特徴を説明する。 He is in the library. He is reading a book. He is wearing glasses. He is wearing a red T-shirt.	A (3年女子) ・現在進行形を使って、伝えることができる。 ◎人物が身に着けているものの色や特徴にも着目させる。 - T-shirt→ <u>black</u> T-shirt	B (3年男子) ・始めは日本語で、人物の特徴を伝える。 ◎ badminton, glasses など単語で伝えてもよいことを伝える。	C (3年男子) ・始めは日本語で、人物の特徴を伝える。 ◎ badminton, glasses など単語で伝えてもよいことを伝える。	
	《学びを促進させる教師の出場について》 ・展開5の際、同じ人物について書いている場合は、異なる表現があることを伝える場面を位置付ける。それにより、ほかの人物の表現の仕方をいくつか考えるきっかけをつくる。 ・動作だけでなく、服や眼鏡などの身に着けているものも現在進行形で表現することができることを例示して伝える。 ・wear と have では意味が異なることを伝え、使い分けを促す。			
	《学び合いの場のねらいについて》 ・展開5において、同じ人物の説明でも、自分の説明との違いに気付かせ、新たな表現の定着につなげる。			
	《生徒が学びを実感できるための手立て》 展開6の場面で、いくつかの人物の写真や絵を見せ、その人物の動作や特徴を即興で答えさせることで、様々な現在進行形の表現を身に付けさせる。			
	◎動作だけでなく、身に着けているものにも着目したことを価値付ける。	◎英語を少しでも使って話したことを価値付ける。	◎英語を少しでも使って話したことを価値付ける。	
	《終末における生徒の姿》 仲間の考えたジェスチャーを英語で答えたり、自分が今していることを伝えたりすることができてよかった。			
評価規準	【話すこと（やり取り）】知識・技能 状況に応じて、現在進行形の肯定文、疑問文で話すことができる。 (評価方法) コミュニケーション活動における発言			

単元名

近畿地方

—都市・農村の変化と人々の暮らし—

単元のねらい

近畿地方の地域的特色について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究する中で、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目し、そこで見られる課題を主体的かつ多面的・多角的に考察し、表現することができる。

単元学習前の生徒の認識

近畿地方といえば、歴史的な町並みが有名な。小学校の修学旅行でも京都・奈良に行ったけど、世界遺産にもなっている寺社が特徴的だ。大阪は「天下の台所」とも呼ばれていた歴史がある地域だね。今でも、その名残があるけど、どのような歴史の中で、近畿地方特有の生活や文化が築き上げられてきたのだろう。

第1時 近畿地方をながめて（知・主）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方について、地形や気候、人口を視点に特色を調べる活動を通して、近畿地方の地域的特色を理解することができる。

近畿地方はどのような地域なのだろう。

☆リアス海岸 ☆紀伊山地

近畿地方の北部にあるリアス海岸である若狭湾は、冬は北西からの季節風の影響で降水量が多くなる。南部は暖流である黒潮の影響で温暖で、夏の降水量が多くなっている。また、大阪や京都、神戸など中央部の沿岸部や盆地・平野に人口が集中している。

近畿地方では、なぜ都市や農村の姿が変化してきたのだろう。

第2時 都市の開発と歴史的町並み（思）＜場所、地域の傾向＞《本時》

◎京都市における経済発展（都市開発）と歴史的な町並み保存の両立について、資料から読み取る活動を通して、多面的・両義的に考え、表現することができる。

古都である京都市ではどのような町づくりがなされてきたのだろう。

☆歴史的な町並み

京都市では、歴史的な町並みを保存するために条例を整備され、古都としての景観を守っている。そのことが京都市の観光資源となり、市の経済を支えている。また、景観を保存するためには行政だけでなく市民も努力をしていることがわかった。

第3時 大都市圏の形成と都市の産業（知）＜位置・分布、場所、地域の傾向＞

◎近畿地方の大都市圏の成り立ちや大阪湾岸の工業の特色を複数の資料から読み取る活動を通して、都市の成り立ちや阪神工業地帯の特色を理解することができる。

大阪大都市圏はどのように形成されたのだろう。

☆大阪大都市圏 ☆阪神工業地帯 ☆再開発

近畿地方では、大阪大都市圏が形成され、郊外の住民が行き来するために私鉄等を多く利用している。また、工業も発展を続け、機械や化学の割合が高くなっている。大阪市では、再開発を進め、テーマパークの誘致や万博の開催を予定している。

第4時 ニュータウンの建設と都市の開発（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞

◎都市開発が行われたことによる都市の変化を資料から読み取る活動を通して、人々の暮らしの変化を、メリット・デメリットにまとめることができる。

☆ニュータウン ☆うめ立て ☆ターミナル駅 ☆再開発

都市開発が行われたことにより、人々の暮らしはどのように変化したのだろう。

都市開発が行われ、人々の暮らしは豊かになった反面、周りの地域の過疎化や交通渋滞などが課題としてあり、メリットやデメリットがあることがわかった。一方、農村では、この暮らしの変化に対してどのような対策を行っているのだろう。

第5時 変化する農村の暮らし（思）＜場所、地域の傾向、結び付き＞

◎都市開発が行われたことによる農村の変化を資料から読み取る活動を通して、農村にすむ人々の暮らしの変化を、メリット・デメリットにまとめることができる。

☆過疎化

都市開発が行われたことにより、農村の人々の暮らしはどのように変化したのだろう。

都市開発が行われたことにより、農村では過疎化が進んでしまった。そのため、田植え体験を行って村の活性化を図ったり、地域ブランドを立ち上げて地域の活性化を図ったりして、農村を盛り立てようとしていることがわかった。

第6時 近畿地方の学習のまとめ（思・知）＜地域の傾向＞

近畿地方の地域的特色をふまえ、「移りゆく都市や農村の実態」をまとめよう。

◎持続可能な社会の実現を観点に、近畿地方の地域的特色と都市や農村の課題や変化とを関連させ、自分なりの表現でまとめのレポートを作成することができる。

都市開発によって、鉄道網を中心とした都市圏が広がり大阪大都市圏を形成してきた。一方で、ニュータウンの老朽化や少子高齢化や山間部や離島の過疎化が課題となっている。都市部では再開発を進めたり、農村部では特色を生かした取り組みを行ったりしている。

単元学習後の生徒の意識

近畿地方では、歴史的背景などから人々の生活への配慮が続いてきた。しかし、産業の変化や経済活動の変化にともなって、人口集中や高齢化・過疎化の進行など、様々な問題が続いてきた。都市部では人口が集中することで住宅不足になり、農村部では過疎化が進み、限界集落も増えてきている。このように都市部と農村部では大きく落差が出てきてしまった。今後は、都市部では再開発、農村部では地域の活性化など、地域的特色を生かした取り組みが必要になってくると思う。

単元名

地方自治と私たち

単元のねらい

「住民が自分たちの暮らすまちを住みやすくするためには、どうすればよいか」を考えることを通して、地方公共団体には人口や財政についての課題があることや、住民の生活の保持や向上には住民の意思の反映が必要であることに気づき、一人一人が主権者として地域の政治に参加しようと思えることができる。

単元学習前の生徒の認識

地方の政治は、国の政治に比べて身近であるはずだけど、あまり詳しく知らない。前単元で学んだ国の政治のしくみと比べてどんな特色や違いがあるのだろう。また、地方自治では、自分たちにどのようなことができるのだろう。

第1時 私たちの生活と地方自治（知・主）

どのような瑞穂市ならみんなが住み続けたいだろうか。

◎「もっと住みやすい瑞穂市」にするためにどうすればよいか、自分たちの生活と関わらせて考え、単元を貫く課題を設定し、意欲的に追究することができる。

☆地方公共団体 ☆地方自治 ☆民主主義の学校 ☆地方分権

私たちの「こんな瑞穂市なら住み続けたい」という意見の他にも、地域の人の意見や要望は様々ある。そのような意見を反映させるために、地方公共団体は民主主義の原理を大切にしながら、地域を運営している。それが地方自治というものだと分かった。

瑞穂市を住みやすいまちにするため、私たちに何ができるだろう。

第2時 地方自治の仕組み（知）

◎地方自治の仕組みの資料を読み取る活動を通して、地方議会の制定する条例や、二元代表制の仕組みがあること、住民に、直接請求権を認めていることに気づき、地方公共団体の政治を理解することができる。

☆地方議会 ☆条例 ☆市長 ☆二元代表制

☆直接請求権

地方自治はどのような仕組みで行われているのだろう。

地方公共団体には、国の政治と同じように、地方議会が置かれ、条例を定めている。また、国の仕組みとは違い、二元代表制がとられており、住民には直接請求権が認められ、住民の意思が強く反映される仕組みとなっていることが分かった。

第3時 地方公共団体の課題（知）

◎地方公共団体の財政についての資料を読み取る活動を通して、お金がどのように使われ、財源がどのように確保されているかに気づき、財政上の課題やその解決方法を理解することができる。

☆地方財源 ☆歳入 ☆歳出 ☆地方税 ☆地方交付税交付金 ☆国庫支出金 ☆地方債

地方公共団体は財源をどのように確保しているのだろう。

自分たちの収めている税金が地方公共団体の活動を支えていることが分かった。しかし、自主財源だけでは足りないため、国からの依存財源に頼っていることが分かった。事業を見直したり、平成の大合併を行ったりして、財源の確保に努めていることが分かった。

第4時 瑞穂市の財政（知）

◎瑞穂市の統計資料を調べたり、他の地方公共団体の財政の特徴と比較したりする活動を通して、瑞穂市の財政の特徴を理解することができる。

瑞穂市の財政はどのような特徴があるのだろう。

瑞穂市は岐阜県の他の市に比べて、人口が増加していることが分かった。そのため、歳入は安定している。しかし、これからは少子高齢化によって人口が減少していく予想が立てられていることや、住民の様々な声に応えるために、歳出が増えそう。だからこそ瑞穂市は、歳入を増やすための努力をしていることが分かった。

第5時 御嵩町における住民投票（思）《本時》

◎御嵩町における住民投票の意義について、資料を読み取ることを通して、住民自治という視点から考え、表現することができる。

岐阜県御嵩町の政治では住民の意見がどのように生かされたのだろう。

御嵩町民は自分たちの生活を守るために署名をし、条例を定められるようにして、住民投票を行った。当時の町長が住民の気持ちを軽視せずに大切に考えたことも大きかった。地域の重要な課題については、住民投票によって住民全体の意見を明らかにできることが分かった。また、それは一人一人が主権者として地域の政治に参加することなのだと分かった。

単元学習後の生徒の意識

御嵩町民の政治参加について学ぶことを通して、地方公共団体には住民の意思を反映することができる仕組みが整っていることが分かった。御嵩町と同じように瑞穂市が住みよいまちになっていくためには、私たち一人一人が意見をもって、地方公共団体の政治に積極的に関わっていく必要があると感じた。私はこれまで、地域の課題についてあまり考えず、自分の意見が反映されると思っていなかった。これからは、自分にできる範囲で政治に参加して、瑞穂市をさらに住みよいまちにしていきたい。

1 単元名 2 年生 近畿地方 — 都市・農村の変化と人々の暮らし 3 年生 地方自治と私たち

2 本時のねらい 2 年生 資料を読み取ることを通して、京都市における経済発展と歴史的な町並み保存の両立について考え、表現することができる。
3 年生 資料を読み取ることを通して、御嵩町における住民投票の意義について考え、表現することができる。

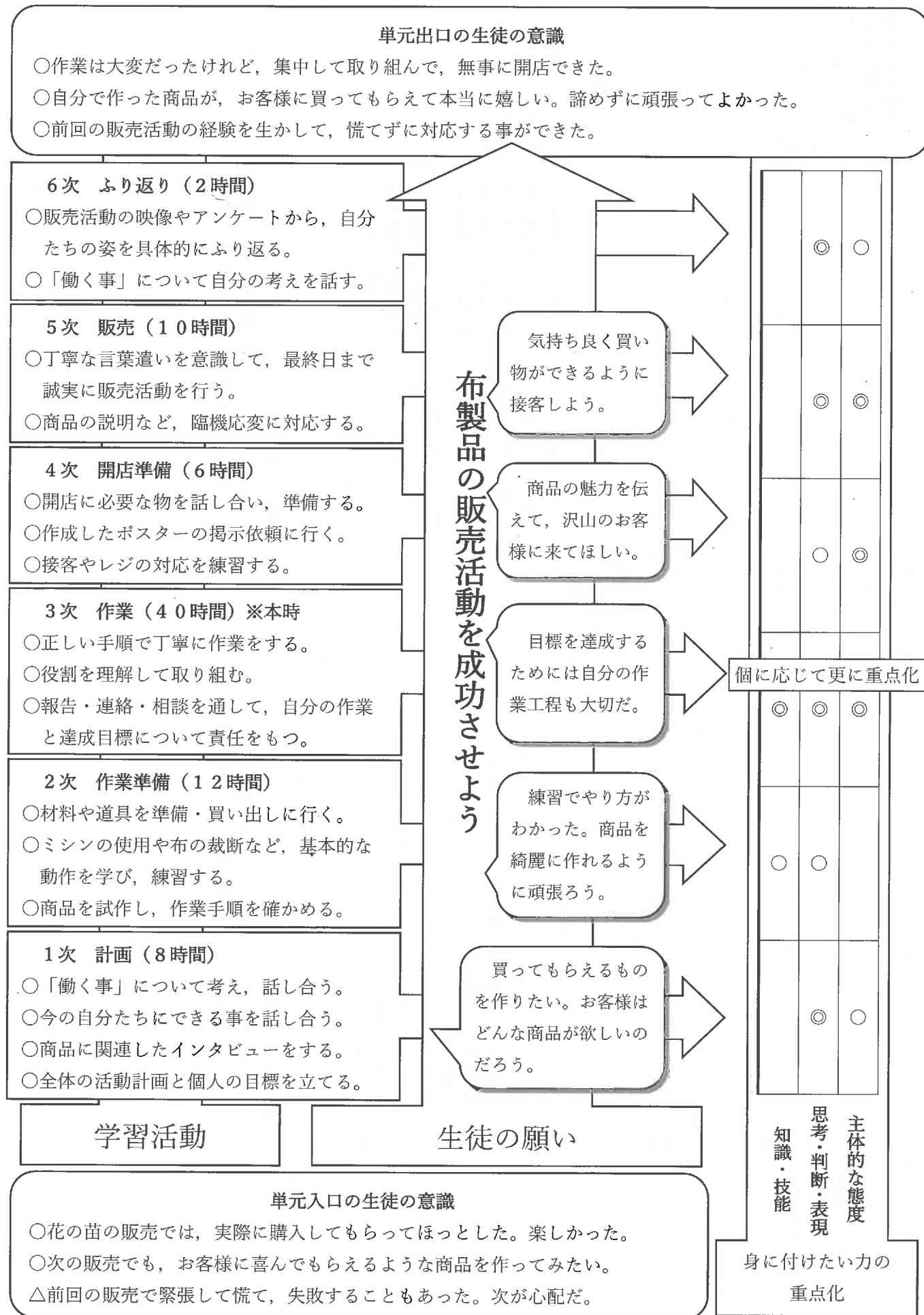
3 本時における教科の特性を生かした学び方

2 年生 都市における伝統文化の保存と経済的な発展という社会的事象について、資料の読み取りを通して、多面的・両義的に考察する。
3 年生 民主主義を住民自治という視点から捉え、資料の読み取りを通して、地域社会の課題の解決に向けて選択・判断する。

4 本時の展開案（2 年：2/6 3 年：5/5）

学習活動		指導・援助 ・予想される反応 ◎支援（手立て）	学習活動	指導・援助 ・予想される反応 ◎支援（手立て）	配慮事項
つかむ	1. 近畿地方の日本地図における位置を指し示す。（復習）	・前時に扱った内容だが、指し示すことが難しい。（記憶が定着しない。） ◎改めて地図帳の日本地図を開かせ、近畿地方の位置を概観させる。白地図に境界線を引かせながら把握させ、京都府京都市の位置をつかませる。	1. 岐阜県御嵩町の位置を空間的な広がりの中でつかむ。	◎郷土に意識を向けさせるため岐阜県の大地図を掲げ、御嵩町の位置をつかませる。	A, C は学習不安が強いいため、気持ちを楽にできるようにどんな間違いがあってもかまわないことを伝える。 2 年：本時にとりあげる地域・都市を空間的な広がりの中で意識させる。 3 年：基礎基本の定着を意識する。課題設定の際に既習の用語（地方自治）を再びおさえる。
	《焦点化された学習課題の設定について》 京都市の小売店舗はなぜこのような店構えであるのか疑問をもたせる。（テレビ画面）	・店舗の店構えの理由を予想することは難しいが、疑問や関心をもつ。 課題 古都である京都市ではどのような町づくりがなされてきたのだろう。	《焦点化された学習課題の設定について》 岐阜県にはかつて全国の注目を集めた地方自治が行われたことを伝え、関心をもたせる。	課題 御嵩町の政治では住民の意見がどのように生かされたのだろう。	
	2. 提示された写真資料を見比べることで、自分の考えをもつ。	・建物に使われている材料や色合いが似ている。 ◎資料を比較して読み取れたことを認める。 ◎類似性・共通性に気付いたら、その背景にある意図について考えるよう促す。古都という都市的性格や世界遺産について付言し、ヒントを与える。 ◎自分の言葉で考えを述べたことを認める。	2. 資料を読み取ることを通して、町長が産業廃棄物処分場に関して出した文書の内容とその経緯についてつかむ。	◎教師が資料を丁寧に範読し、語句の説明も加えながら内容をつかませる。	
深める	3. 借景庭園と建築制限の関連について、自分の考えをもつ。	《学びを促進させる教師の出場について》 現代の建築物と古都の景観の調和についてつかんだ後、新たな資料を提示し、「建築物の制限を望んだのは誰なのだろうか」と問いかけ、教師と1対1で考えを交流する時間をとる。		《学びを促進させる教師の出場について》 なぜ住民が危惧したのか。また、なぜ町長は慎重にならざるを得なかったのか。さらに考えを深めるための発問をする。	2 年：発問に対して考える時間を十分に保障する。 3 年：発問に対して考える時間を十分に保障する。
				・住民の健康が害されるのではない。 ・住民の意思を無視して話を進めることは町長としてできない。 ◎自分の言葉で考えを述べたことを認める。	
				《学びを促進させる教師の出場について》 なぜ住民が危惧したのか。また、なぜ町長は慎重にならざるを得なかったのか。さらに考えを深めるための発問をする。	
				・住民自身の健康だけでなく、他県500万人にまで影響することも考えたのではない。 ・一企業の利益だけを優先するのはおかしい。 ◎自分の言葉で考えを述べたことを認める。	

4. 京都市の年間の観光客数や観光消費額を資料から読み取り、経済都市としての側面から考えを深める。 5. まとめを記述する。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 歴史や文化の継承・保存が観光収入の源になっていることに資料を提示することによって気付かせ、京都市の都市的性格を多面的にとらえることを通して学びの深まりを実感させる。 ・頭で理解していることを文章に落とすまでに時間がかかる。文章を整序することができないだけで、まったく理解できていないわけではない。 ◎歴史的な街並み、調和、経済発展などのキーワードを示しながら、文章がつながるように助言する。 京都市では建築物をつくるとき、歴史的な町並みと調和するように制限を加えている。それは古都としての景観を保存するための努力である。そのことが古都としての魅力を守ることになり、京都市の観光資源となって市の経済を支えている。また、景観を保存するために市民が努力していることもわかった。	3. 住民投票と条例制定について知識を得て、投票の結果を知る。 4. 町長の言葉を読み、自分の考えをもつ。 5. まとめを記述する。(Cは記述せずに口頭で表現する。)	◎学習活動2でもった考えに基づいて、投票の結果を予測する。 ・住民の意思を大切にしたい町長は立派な政治家だ。 ・地方自治という言葉のお手本になる出来事だと思う。 ◎住民投票というキーワードを示して助言する。 住民が自分たちの生活を守るために署名をし、条例が定められるようにして、住民投票をした。町長が住民の気持ちを大切に考えたことも大きかった。政治に住民の意見がきちんと生かされたことがわかった。	◎学習活動2でもった考えに基づいて、投票の結果を予測する。 ・住民はカネよりも命を選んだことがわかった。 ・住民は自分たちの町の将来を自分たちの手でつかみ取れた。 ◎住民投票というキーワードを示して助言する。 町長が住民の気持ちを大切に自分の考えを貫いたところがすごいと思う。町長と住民が自分たちの暮らしや将来を守るために、カネよりも大事なものを住民投票で勝ち取ったことがわかった。	《生徒が学びを実感できるための手立て》 住民投票の結果をわかりやすくつかむために、掲示物につくった空白部分を段階的に明らかにする。 Cは文字および文章を書くことが困難であるため、まとめをノートに書かせることはしない。自分なりの言葉で発言すればよいことを伝える。
	【思考・判断・表現】 2年：京都市における経済発展と歴史的な町並み保存の両立について、古都という都市的性格の視点から、資料を読み取って表現している。 (評価方法) 発言内容、ノートの記述		【思考・判断・表現】 3年：御嵩町における住民投票の意義について、住民自治の視点から、資料を読み取って表現している。 (評価方法) 発言内容、ノートの記述 (Cは発言内容のみ)		



できる	《学び合いの場のねらいについて》 生徒が個人で取り組んだ作業内容を、お互いに確認してから報告する手順を設定した。教師から指摘される前に生徒自身で問題を解決できる機会を意図的に作り、各々の自己肯定感を高める。 4. 時間を確認して道具の片付けを行う。	◎作業中の約束を掲示し、自分の気持ちが抑えられない時には一度確認する時間をつくる。 「ゆっくり落ち着いて作業をしましょう。掲示を確認して、今の自分の行動が正しいかどうか考えてみてください。」	- 仲間の作業内容が気になり指摘をする。 ◎自分の作業をおろそかにしないように声をかけつつ、正しく関わることができた時にはその場で価値付ける。	◎報告の仕方が見られる掲示を報告場所に配置し、最初に確認を促す。正しい手順で報告が行えた場合には、作業内容や報告で良かった姿についてその場で価値付ける。	- 糸が絡まるなど、不測の事態が起きた時に困っていることを伝えられない。 ◎声をかけられるのを待つのではなく、自分から声が出せるように促す。	- 集中が途切れ、次の作業に向かえない。 ◎1年生の補助を依頼し、作業長としての役割を担う時間を増やす。正しく関わることができた時にはその場で価値付ける。
	5. 作業日誌に振り返りを記入する。 6. 個人・全体の反省を行い、目標達成状況を確認する。	- 日誌を記入するが、適当に済ませる。 ◎約束を守ることができたか、目標の項目ごとに確認を促す。 - 個人反省を話す。	- 日誌を記入する。 - 自分の様子を客観的に振り返る個人反省ができる。 ◎良かった点についてまとめて話す。	- 日誌を記入する。 - 目標数以外の振り返りがうまく話せない。 ◎頑張っていたところを伝え、日誌に書きこむ様子を見届ける。	- 日誌を記入する。 - 個人の反省を話す。 ◎1年生とかかわる良い姿があれば、まとめて話して全体にも伝える。	- 日誌を記入する。 - 今日の作業の全体の様子を話す。 ◎全体の様子も書き込めるように日誌に別枠でメモ欄を作る。
	《終末における生徒の姿》 それぞれの目標にあわせて振り返りを行い、今日自分ができたことと、次回頑張りたいことについて考える。仲間の振り返りや教師のまとめを聞いて、今日の作業内容に達成感を覚える。	評価規準				
	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の気持ちをコントロールし、離席をせず最後まで作業に向き合おうとしている。 (評価方法) 授業姿勢・発言	【主体的に学習に取り組む態度】 自分の役割を果たすために、終了時間まで作業に向き合おうとしている。 (評価方法) 授業姿勢・発言	【思考・判断・表現】 話を最後まで聞いて、授業の規律や活動の手順を守り、作業や作業報告をしている。 (評価方法) 授業姿勢・発言	【思考・判断・表現】 1年生までの経験を踏まえ、周囲と適切に関わりながら作業をしている。 (評価方法) 授業姿勢・発言	【思考・判断・表現】 1年生までの経験を踏まえ、周囲と適切に関わりながら、立場に責任をもち作業をしている。 (評価方法) 授業姿勢・発言	